

井上哲次郎『異軒日記―明治二六―二九、四〇、四一年―』

村上 こずえ

谷本 宗生

翻刻にあたって

本稿で紹介するのは、明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記の一部翻刻である。このたび翻刻する井上の日記は、『異軒日記―自明治三三年至明治三九年―』（二〇一二年三月刊行）の前後にあたる、『異軒日記―自明治二六年至明治二九年、明治四〇年、明治四一年の三冊である。初めの『異軒日記 第一―自明治二六年至明治二九年は日付が大きく飛ぶなど雑記的な色彩も強いが、弊室が所蔵する井上日記としてやはり貴重なものであると考え翻刻した次第である。

弊室が所蔵する『異軒日記』（八四冊）の全体的な概要や特徴などについては、上述の『異軒日記―自明治三三年至明治三九年―』の序文説明を参照いただければ幸いである。同上書と本稿が対象としたものを合わせて、弊室が所蔵する『異軒日記』の計一〇冊分をようやく翻刻刊行することができたといえる。残りの日記について

も、紙面の事情などで許す限り、今後も機会をみて翻刻作業を継続的に紹介していきたいと考えている。『異軒日記』は、井上哲次郎の日々の思索・行動に加え、さまざまな出来事や人間関係も簡潔に記録されていて、近代日本における学術研究資料として貴重な日記と思われる。将来的に編纂されるであろう『東京大学百五十年史』や『東京大学二百年史』などにおいても、大いに活用されることを期待したい。本稿の翻刻作業にあたっては、室員の村上こずえが担当し、室員の谷本宗生が指揮確認を行っている。

凡例

- 一、新字体の表記を基本としたが、人名等においては原文表記を残している箇所もある。
- 一、誤字・脱字等と思われる場合は、該当箇所右側にルビとして「マ」を挿入した。また、作業者による注記を行う場合は、「マ

(亀甲括弧)を使用した。本文にある「」(鉤括弧)、() (丸括弧)、□ (白四角)などの箇所は原文のままである。

一、破損、汚損等で判読不可能な場合は、文字数が分かっている場合は、■ (黒四角)を使用し、文字数が不明な場合は、「」 (大括弧)を使用した。

一、原資料では、書き忘れ・修正等の理由によって後から加筆されたとみられる記述が頁欄外に記されてある場合もある。また、本文の一部を塗り潰し(あるいは棒線で消し)、横に正しく書き改められた箇所についても、修正後の状態のみを活字として反映した。

一、原資料では、本文の内容に関連する新聞記事等が貼付されていることがある。その場合は、記事に関連すると思われる日記本文の記述後に、新聞記事等の貼付があることを記事の見出しあるいは概要とともに簡潔に注記した。

異軒日記 第一

明治廿六年(千八百九十三年)〔頁上部に「癸巳」と書込み〕

七月

廿七日、江島茂逸氏に書状を送る、○岩元禎氏に「中西牛郎氏の衝突断案を読む」と題せる一文を送る、

廿八日、三石寅吉、田中修吉来訪、修吉に異軒詩鈔一部を送る、○

三成慶太郎氏に異軒詩鈔一部を送る、

廿九日、多田賢意、内藤虎二郎、小西千吉、一 一七一 一、

○山田喜之助氏に「井上博士ト基督教徒」一 一 一送る、

卅日、高岩安太郎、酒井清藏、石渡邦之 一 一来訪、

八月

一日、天台宗芦津実全、真言宗土宜法龍(、臨濟宗釈)宗演、曹洞

宗水野道秀、真宗八淵幡龍、一 一 一宗教大会に赴かんとす、為

めに送別会に青松禅寺に臨一 一

二日、岡本監輔、浅岡雄之介来訪、○哲学会に臨み、帰途敬業社に至る、

五日、高津鋏三郎来訪、

六日、岡崎遠光来訪、

七日、東邦協会を退会す、○大乘仏教大意、羽翼原人論、自行思惟、

を讀了す、○高津鋏三郎来訪、○敬業社に至る、

十日、岡崎遠光、松本亦太郎来訪、

十一日、竹取物語を讀了す、○外山正一来訪、

十二日、安倍徳太郎来訪、

十三日、国語講習会に於て演説す、○外山正一氏を訪ふ、○勝宗十

句義論を読む、

二十日、大日本教育会にて「學術と迷信」と云へる題にて(演説)す、

○末永純一郎来訪、○東海自由社に論文を 一 一

二十三日、外道小乗四宗論、及ビ外道小乗涅槃 一 一す、

二十四日、藤島了穩、井上蘇吉、境野 一 一来訪、

二十九日、学習院より印度哲学講義の依頼」

九月

四日、藤島了穂、岩橋良俊、福井彦次郎来訪 ○十二日、東京専門学校ヨリ紅葉館ニ招燕セラル、○十一日、哲学、哲学史第一講座ノ担任ヲ命セラル、三級俸ヲ受ク、○二十日帝國大学評議員ヲ命ゼラル、

十月 (二十七日大日本教育会ヲ退ク)

十一月

十二月

廿五日、岡崎遠光来訪、○国詩一篇ヲ作ル、
廿六日、陞叙高等官五等、
廿七日、櫻井吉松氏ノ著「井上博士」出ヅ、○岡崎遠光 林彦明来訪、

明治廿七年一月 (千八百九十四年)

一月四日、仏説孝子経、父母恩重経ヲ読了ス、
廿三日、末岡精一死
廿四日、末岡精一氏ノ葬式ニ赴ク、
廿八日、中村高子、今泉定介、佐々木「」
廿九日、井上良一之十五年祭ニ赴ク、「」 「行フ、
三十日、井上良一末岡精一両氏ニ各々香典一円「」 「田準池田四
良次郎来訪
二月
十七日、皇典講究所ニ於テ演説ス、

廿三日、黒田侯邸ニ会合演説ス、穂積八束、阪谷芳郎、有賀長文、

肝付兼行、稲垣満次郎、添田壽一等来会、

廿八日、叙従六位。

三月

九日、両陛下大婚式

廿八日、星岡茶寮ニ於テ経新俱樂部ノ為メニ演説ス、渋沢栄一大倉

喜八郎等来会、

此月、梵網経、勝鬘経、無量義経、立正安国論等読了す、

四月

一日、聴音楽于音楽学校、

七日、往「静修女学校」、而演「説関」女子教育事、「」 「大学講

義室「論」所以「当」改「文字」、来聴者無「」 「

八日、会際「积」迎降誕日、「至」哲学館「」 「鳥尾小弥太、重野安

釋等亦来会大「」 「

十四日、赴黒田侯懇親会于八百松楼、

五月

二日、検定試験

五日、文科大学親睦会

六月

初旬休校

七月

一日、受「明六社招待」而会焉、加藤弘之、津田真道、杉亨二、世良
太一諸氏来会、○送書及詩稿于吉嗣拝山、

四日、堀内静宇來訪、

五日、讀「孫子」、○岡崎遠光來訪、

十八日、讀「吳子」、○木村鷹太郎來訪、

廿四日、至「高繩泉岳寺」、謁「四十七義士墓」、感慨無限、

廿五日、堀俊來訪、

廿六日、齋藤唯信來訪、

廿八日、演說「于文学会」、根本通明、芳野世経、等「」

八月

七日、和久正辰本田種竹淺井豊久來訪

八日、Max Müller's Science of Religion 讀「○井上「」係

佐村八郎編纂、

九日、古城貞吉、淺野陽吉、皆川慎之來訪、○「」文鈔統編、

奎堂遺稿、文久二十六家絕句、

十五日、送「講論集第一編于博多甘木宰府」、「送「」境野

哲、古城貞吉、淺野陽吉、鍵谷等來訪、

十六日、送「金四十六麻克于伯林書肆列曼」、「送「書于在伯林千賀鶴

太郎」、「送「書于米國嘉留斯」、「藤島了穩來訪、

十八日、拉「妻子」遊「絵島」、夜宿「鎌倉三橋亭」、

十九日、還「東京」、

二十日、遊「日光」、宿「環翠樓」、謁「東照宮、大猷院、三仏道、二

荒山神社等」、金壁粉堞、燦然射「目」、結構華麗、非「筆舌所「尽」、

日高真実卒、

廿一日、早朝駕「輿抵「中禪寺」、農科大学乙科生徒飯島朝太郎尾而

來、路觀「裏見瀑布」、渡「水捉「石、出其背後、真偉觀也、又觀「方等、阿含、般若、華嚴等瀑布」、就「中華嚴最可觀也、投「

和泉樓、樓後有「幸湖」、万頃一碧、直自「樓下「接「遠山、眺望

殊佳、食後「」至「歌浜、入「水游泳、水冷而不可「久留、

還「家、独道「遙山林中、凡一時間、

廿二日、味爽遊「湯本」、路觀「龍頭及湯瀧」、投「板亭、入湯、湯

有「臭氣、流而為「湖水、清徹幽深、不可「不謂「靈境「「」一

時還「」中禪寺、午餐、畢、駕「輿還「日光、路觀「含「」一

廿三日、觀「霧降瀧」、夜還「東京、

廿五日、草場季彦、落合謙太郎來訪、「淺井豊「」贈「葡萄、

廿六日、送「書狀于黒田侯」、「拉「家族「游「植物園、

廿九日、讀「Tyndall's Belfast Address」岩本禎來訪、

九月

五日、讀「Huxley's Science and Culture, On Sensation and the

Unity of structures of the sensiferous Organs.

十一日、大學開校「學習院開校、

十六日、哲學館開校、往而演說、

十月

十一月

十二月

九日、赴于帝國文学会、演「說日本將來之文学、

廿五日、之「文科大學親睦会、

廿九日、之「宇野朗氏送別会、

明治廿八年一月

九日、学習院開校、

十日、文科大學開校、

二月

九日、宣光生、

三月

十八日、木村鷹太郎來訪、論談神道、○廿七日、學習院行試驗、

四月

十三日、演說于青山學院、○廿一日、演說于東亞學院、

五月

二日及八日、行檢定試驗、○十八日、演說于美術學校、○廿日、

黑田侯招燕米國衆議院長秘書官パーレット氏于紅葉館、金子堅太

郎添田壽一及余亦与焉、○廿二日、夜、出東京城、○廿三日、午

後投于柙亭、○廿四日、午前演說于帝國教育大會、題國民教育

之効用及範圍、來聽者、無慮千五百人、午後与蘭田宗惠共訪知

恩院、高台寺、祇園及頼山陽墓等而還、○廿五日、訪相國寺、

尋至大德寺、訪狐蓬萊庵、謁相峻峯、墓、又觀金閣寺、平

野社、北野神社、等持院、仁和寺、妙心寺等而還、古川勝隆來訪、

○廿六日、午前至博覽會、午後訪南禪寺、永觀堂、聖護院、黑

谷及大極殿而還、○廿七日、至博覽會、午後演說于文學寮、

藤島了穩來訪、○廿八日、至東本願寺、又游于嵐峽、夜演說

于同志社、○廿九日、至大津、演說于教育會、觀円満院及三

井寺、○三十日、踰比叡山入京都、○三十一日、午前、觀時

代博覽會、又入一二時出發、

六月

二日、午前二時半頃帰京還家、○九日、至學士會院、○十六日、

讀了釈迦如來成道記、○十九日行試驗于大學、○廿二日、大

學試驗、○廿三日、加藤弘之翁來訪、讀了和漢高僧傳第一卷、

○廿六日、古城貞吉來訪、○廿七日、讀了画乘要略、

七月

七日、演說于學士會院、○十七日、赴土方寧氏結婚宴、○此月

作私教字典序、

八月

〔露国〕についてなど、雜記（三丁分）あり

明治二十九年九月 千八百九十六年

十一日、蟹江義丸及瀧精一來訪、

十二日、中島徳藏及岩田僊太郎來訪、

十三日、夜赴井上円了所催宴会、

十四日、開講、

十七日、久芳準平來訪、

廿日、飯田御世吉郎來訪、

廿三日、受ヘルツ氏診察、此日量体量、五万五千五百瓦、

十月

十一月

五日、量_二体量_一、五万三千二百瓦、

七日、開_二宗教会于大学_一、出_二問題_一、日宗教之将来、

十一日、夜訪_二濱尾氏_一、

〔日本学生宝鑑〕についてなど、雑記（六八丁分）あり〕

巽軒日記

明治四十年（西曆一九〇七）

一月

一日、午前、十時三十分参内拝賀し、尋いで青山御所に赴く、○午後、年始状を認む、○夜、深作安文の倫理を閲す、○此日、来賀者二百六十六人、賀状端書二百〇三、封書廿八、○波斯憲法_{△△△△△}発布、
 二日、午前、井上成美、保々清音、来訪す、○午后、河出静一郎より菓子箱を送来る、○齋藤基次郎来訪す、○来賀者三十二人、○夜、書状を入澤達吉、嘉納治五郎に送る、○賀状端書五十八、封書十八、
 三日、午前、田中里、蟹江操子来訪す、○午后、兎輩の絵端書二枚を仏国里昂市に送る、○三好愛吉来訪す、○夜、研究、
 四日、午前、宮内大臣、英国大使館、独逸大使館、文部大臣、鍋島侯爵、黒田侯爵、加藤弘之、金子堅太郎に年始に赴く、○午后、

田中経太郎来訪す、○杉浦重剛、箕作佳吉、三宅秀、久保田讓、濱尾新、伊澤修二、新渡戸稲造に年始に赴く、入澤達吉来診す、妻の病症は顔面神経の麻痺なること判然す、○夜、原稿を堀田相爾に送る、

五日、午前、新年宴会に宮中に赴く、森林太郎、柳谷謙太郎、横田国臣、入澤達吉等と会見す、○午后、保々清堂来訪す、○「羅馬字対仮名漢字論」教育時論に出で、「国字問題の趨勢と其解決」教育学界に出づ、○夜、読書、

六日、午前、尾上八郎来訪す、○坂口前玉子箱を携来る、○午后、鈴木徳三郎、西村長四郎来訪す、○夜、年始状を認む、

七日、午前、「国字改良の大方針」教育学界に出づ、○午后、姉崎袖子、平川泉吉、佐藤吉次来訪す、○夜、書状〔を〕矢野利喜蔵に送る、○年始状を認む、

八日、午前、井上道喜より来状、○明治図書株式会社より桑木巖翼の「中等修身」を送来る、○午后、徳谷豊之助来訪す、○深作安文の「倫理研究の起源」を閲読す、○夜、「禪学心性実録」の序を造る、

九日、午前、講話に学習院に赴く、○吉田熊次及び藤井健次郎より来状、○午后、浦谷熊吉、笹川貞子来訪す、○夜、興学会に赴く、○波斯国王ムザファル、エド、デイン崩ず、享年五十四、

十日、午前、大日本統藏経第一輯第廿一套を受取る、○午后、深作安文、北村教嚴、小豆澤英男、大村欣一、加藤玄智来訪す、○「訂正中学修身」九百枚、「商業修身」三百一、「新編倫理」

六百枚を金港堂に付与す、○夜、勉強、

十一日、午前、勉強、○午后、「新中学修身」二千枚の奥附を文学社に付与す、○「禅学心性実録序」を松田湛堂に送る、○岩佐重一来訪す、○「国字問題私見」を徳谷豊之助に送る、○書状を帝國学士院に送る、○夜、勉強、

十二日、午前、座右銘十五則を造る、如左、「一人のを見ると見ざるとに拘はらず、己れが行状を正しくせよ（遺族書きそえ）」と書かれた紙貼付」

一、人の見ると見ざるとに拘はらず、己れが行状を正しくせよ。
一、己れが人格を完成するに於て平素寸毫も油断あるべからず。

一、夙に興き夜に寝ねて当に努力奮闘すべし。
一、一日々々を一小生命と見て出来得る限りの事業を成遂ぐべし。

一、忿怒を抑へ、励声を戒めよ。
一、事に当つて驚くべからず。
一、己れが責任を重んぜよ。

一、儉素を尚べ。
一、卑猥を避けよ。
一、家庭を断えず改良刷新せよ。

一、愛を親近に及ぼし、子弟を誘掖することを務めよ。
一、内外人に対し、交誼を全うせよ。
一、実行し得らる、限り、其己に知る所の善を実行すべし。

一、常に新知識を求め、科学的に之を統一することを務めよ。
一、社会文明の発展に多少の貢献をなすを以て希望となせ。

〔本文左に「格言二即」の記事切抜貼付〕

格言二即

東京帝国大学教授
文学博士

井上哲次郎君

易曰。天行健。君子以自強不息。

此蓋孔子之言。

釈迦曰。三界無怙。惟道可恃。

此言出于普曜經。

右二語余之所守。故記以寄于貴社。

○午后、山口志げ、石橋臥波、佐々木信綱来訪す、○桑木或雄の「絶対運動論」を読む、○夜、勉強、

十三日、午前、船田三郎、松平治郎吉、大島正徳、阿部次郎、尾池義雄、大村欣一、金仙宗諄来訪す、○午后、小林郁、弥吉為三郎より来状、○「新中学修身」八百枚の奥附を文学社に付与す、是れ寄送の分なり、○浦谷熊吉、及び深作安文妻来訪す、○夜、哲学雑誌を読む、

十四日、午前、「倫理と宗教」丁酉倫理講演集に出づ、○加藤弘之より「自然界の矛盾と進化」を送来る、○午后、金仙宗諄、片岡久太郎来訪す、○吉田豊、齋藤儀八等より来状、○「丁酉倫理」を読む、○夜、勉強、

十五日、午前、嘉納治五郎、中島喜美、及び金港堂より来状、○嘉納氏に返書を送る、○石橋臥波、姉崎袖子来訪す、○午后、書齋を整頓す、○夜、勉強、

十六日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○文部省より「日本口語法案」及び木村鷹太郎より「天魔の怨」を送来る、○午后、勉強、○松栄堂の使者来る、○夜、勉強、○日本郵船会社より来状、○「国字問題私見」やまと新聞に出づ、

十七日、午前、講義に大学へ赴く、○菊池曉汀来訪す、有_レ故不_レ遇、○午后、小林照朗、石川幸吉、浦谷熊吉、小清水金藏来訪す、○矢野利喜藏より来状、○夜、「夢序」を作る、

十八日、午前、「国字問題意見」報知新聞に出づ、○石橋臥波来訪す、○午后、「女子修身」四百枚の奥附を金港堂に付与す、○国語調査会へ赴く、○石橋臥波来訪す、乃ち之に「夢序」を付与す、○夜、種々なる事務をなす、○「夢」の校正摺を石橋臥波に送る、十九日、午前、深谷善三郎、立山又四郎より来状、○書状を報知社に送る、○Lotze's Grundzüge der Metaphysikを読む、○午后、菊池広、深作安文来訪す、○引続きLotzeを読む、○夜、Ueberweg's geschichte der philosophieを読む、

二十日、午前、田中経太郎、松平治郎吉、融道玄、金仙宗諱、石原謙、北村教巖、須藤莊一、浦谷熊吉、坂本嘉治馬来訪す、○午后、川島玄琢来訪す、有_レ故不_レ遇、○「女子修身」(巻一)一百枚の奥附を金港堂に付与す、○同文館より葡萄酒三瓶を送来る、○夜、研究、

廿一日、午前、講義に大学へ赴く、○飯沼まつ江より書状及び水豆腐を送来る、○午后、浅草苔二箱を吉田栄次郎に送る、○山本邦彦来訪す、○国史眼を読む、○夜、国史眼、武士道家訓集及び哲学雑誌を読む、○田能村直入逝く、享年九十四、(頁下部に「画家田能村直入翁逝く」の新聞記事切抜貼付)

廿二日、午前、弘道会より来状、○勉強、○午后、目黒和三郎来訪す、○読売新聞二包を吉田熊次に仏国里昂に送る、○松村正一より来状、○松本愛重を訪ふ、○夜、研究、○此日、春枝感冒に罹り、多少の熱あり、

廿三日、午前、学習院に赴く、乃木大将と会見す、○石橋臥波、石川栄司来訪す、○深作安文より来状、○午后、教授会に大学集会所へ赴く、入澤達吉と会見す、○不在中川田鍊弥菓二箇を携来る、○夜、「丁酉倫理」及「日本及日本人」を読む、○研究、

廿四日、午前、講義に大学へ赴く、○午后、浦谷熊吉、大村欣一、及び「世界的青年」の記者来訪す、○夜、勉強、

廿五日、午前、「東亜の光」第二巻第一号成る、○春枝病癒ゆ、○午后、「武士道叢書」(上巻)六百部の奥附を博文館に付与す、○前田晁来訪す、○Ueberweg, Geschichte der Philosophie及びBradley, Appearance and Realityを読む、○夜、「東亜の光」を読む、

廿六日、午前、嘉納治五郎、吉田栄次郎より来状、○井上成美来訪す、○午后、芝中学に赴き、生徒の爲めに「意志の修鍊」を演説す、川崎実、北村教巖、小豆澤英男等と会見す、○友枝高彦来訪

す、○夜、勉強、○「禪の日本文明に及ぼせる影響」の続稿を松田湛堂に送る、

廿七日、午前、高嶺朝扶、浦谷熊吉来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○清子菓子箱を携へて姉崎宅を訪ふ、○成瀬仁蔵来訪す、○夜、研究、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○松田湛堂より来状、○校正を湛堂に送る、○午后、書状を桑木或雄及び富田順吉に送る、○順吉には拾円の為換券を送る、○中村惟吉より来状、○松岡壽来訪す、○夜、勉強、

廿九日、午前、所得税及び水道使用料を区役所に納む、所得税貳拾貳円八拾五錢、地租參円參拾七錢、水道使用料貳円參拾八錢、総計貳拾七円六拾錢、○午后、大学評議會に赴く、○フローレンツより来状、○夜、勉強、

三十日、午前、樋口秀雄来訪す、○午后、保々清音来訪す、○夜、勉強、

卅一日、午前、講義に大学に赴く、○桑木或雄、佐伯俊二より来状、○午后、北村教嚴、小豆澤英男、谷慶祐、小清水金蔵、石川幸吉、有馬祐政、及び世界的青年記者来訪す、○夜、月江雋英をして速記せしむ、○此日、始めて平民新聞を送来る、○此月の到来物は、

朝鮮鮎一箱	笹川	水豆腐	飯沼まつ江
絹はんけち一ツ	大倉書店	葡萄酒三本	同文館
林檎壹籠	坂口	菓物壹籠	伊澤
袱紗一ツ	加藤玄智	鳳瑞一箱	成美堂

浅草苔と手帳 浅倉屋 鮭 石川幸吉父

玉子素麵 谷慶祐 菓二箱 川田鏡弥

○此月来賀者、名刺二百三十四、端書五百三十八、封書二百四十、総計九百十二、○此日、乃木希典学習院長となる、

二月

一日、午前、Bradley's Appearance and Reality を読む、○書状をフローレンツに送る、○午后、国語調査会に赴く、○岡澤鉦次郎より「日本文典原理」を送来る、○吉田熊次及び雪子より来状、○夜、小杉熙より蟹を送来る、

二日、午前、建部遜吾より来状、○浦谷熊吉来訪す、○午后、小杉熙より来状、Bradley, Appearance and Reality を読む、○無尽燈及び新仏教を読む、○井手守五郎来訪す、○宮内省より紀元節の招待状来る、○夜、勉強、

三日、午前、遠藤隆吉、草村松雄、熊谷五郎、金仙宗諱来訪す、○上野陽一、須藤莊一来訪す、有「故不遇」、○富田順吉より来状、○石橋臥波より「夢」を送来る、○午后、葉山万次郎、佐藤吉次、

千田時次郎来訪す、○深作安文妻書状を携来る、○夜、「古哲学」百四十三部、「倫理と宗教」五拾部の奥附を富山房に付与す、○勉強、

四日、午前、福岡県興風会より来状、○午后、長谷川誠也、狩野亨吉、新井勝弥来訪す、○Gustav Schmoller, Ueber einige Grundfragen des Rechts und der Volkswirtschaft 及び John Ruskin, The Political economy of Art を読む、○研究、○夜、又

Ruskinを読む

五日、午前、勉強、○午后、浦谷熊吉来訪す、○夜、小笠原実成、高島円、及び帝国学士院より来状、○「道徳と経済との関係」の続稿を秀英舎に送る、○兪曲園逝く、

六日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部に行く、○実業之日本社及び京華中学校並に吉田夫婦より来状、○午后、大学に赴き、論文審査委員会を開く、○夜、石橋友次郎より来状、○勉強、

七日、午前、講義に大学に赴く、○岡村澄久及び原榎衛より来状、○午后、「中学修身」一万〇五百部の奥附を金港堂に付与す、

高島円、坂上忠之介、加藤玄智、保々清音、田中喜一來訪す、○金港堂より来状、○夜、「東垂の光」を高賀誼三郎、飯沼まつ江、長谷川福平、北里闌、小杉熙に送る、

八日、午前、岩佐重一、磯江潤、深澤伊三郎、柴田亮之輔来訪す、○午后、国語調査会に赴く、○文明堂より来状、○夜、山口志げ来訪す、○学生宝鑑を訂正す、

九日、午前、勉強、○午后、勉強、○夜、フローレンの招燕に赴く、十日、午前、手塚光貴、薄井秀一、蜷川龍夫来訪す、○小谷重より来状、○須藤莊一來訪す、有故不遇、○午后、小谷重、中村勝麿、花田仲之助、小清水金蔵来訪す、○夜、佐伯俊二の「女子修身参考」を読む、

十一日、午前、学生宝鑑を訂正す、○午后、乃木希典及び浦谷熊吉より来状、○時田増子来訪す、○「東垂の光」の口絵を秀英舎に送る、○夜、書状を帝国学士院に送る、○皇室典範増補発布せらる、

十二日、午前、原平吉来訪す、乃ち之に学生宝鑑の訂正を付与す、○神皇正統記を読む、○小包を吉田雪子に里昂市に送る、○午后、渡邊良法来訪す、○速記者をして速記せしむ、○夜、又速記者をして速記せしむ、○神皇正統記を読む、○此日、妻、春江を携へて姉崎宅を訪ふ、

十三日、午前、学習院に赴く、○齋藤庸一郎より来状、○大井田齊より岩木山神社境内全図二枚を送来る、○午后、神皇正統記を読む、○井上道喜より妻に書状を送来る、○勉強、○夜、「竹馬抄」を読む、

十四日、午前、講義に大学に赴く、午后、「贈答の礼」を大倉書店に送る、○小笠原敬三、浦谷熊吉、姉崎増子、西尾某来訪す、○夜、中井宗太郎来訪す、○此日、不在中境野哲「仏教史要」を携来る、十五日、午前、速記を訂正す、○午后、「現今の国字問題」を博文館に送る、○国語調査会に赴く、○夜、雑誌類を読む、

十六日、午前、Bradley, Appearance and Reality を読む、○渡邊良法来訪す、因つて之に「所感を述ぶ」の速記を付与す、○午后、「商業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、乃木希典マシナの招燕に華族会館に赴く、藤井健次郎、原十太等と会見す、

十七日、午前、友枝高彦、鈴木三重吉、浦谷熊吉来訪す、○、午后、Bradley, Appearance and Reality を読む、○松崎覚本来訪す、○夜、勉強、○花田仲之助より来状、○此日、中村正修より「中村正直伝」を送来る、○「東垂の光」第二巻第二号出づ、

十八日、午前、講義に大学に赴く、○午后、坂本嘉治馬、有馬祐政

来訪す、○遠藤隆吉より来状、○夜、桑原隴藏、友枝高彦を招燕す、○帝国学士院より来状、

十九日、午前、神皇正統記を読む、○午后、神皇正統記、竹馬抄、文明一統記を読む、○山口志げ来訪す、○中井宗太郎に本月の太陽を貸与す、○「東垂の光」を飯沼まつ江、北里闌、北村澤吉、小杉熙、高賀誼三郎に送る、○夜、文科大学より来状、○速記を訂正す、

二十日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○午后、日本政記及び国史眼を読む、○読売新聞を吉田熊次に里昂に送る、○大日本統藏経第廿二套を受取る、○夜、日本政記を読む、○勉強、○春枝罹「感冒」発熱、

廿一日、午前、講義に大学へ赴く、○午后、浦谷熊吉、赤津正親、境野哲、山口志げ来訪す、○夜、玉井喜作の追悼会に精養軒へ赴く、石黒忠恵、三宅雄次郎、津軽秀麿、岩谷季雄、熊谷五郎等と会见す、○此日、小谷重、佐伯俊二、渡邊尚広等より来状、○高島円より「自信録」を送来る、

廿二日、午前、松田湛堂より「禅学心性実験録」を送来る、○午后、町田則文を女子高等師範に訪ひ、尋いで渡部董之介を文部省に訪ふ、○吉田熊次より絵端書二枚と原稿三ツ、塩谷温より絵端書一枚、齋藤儀八より小魚一袋を送来る、○夜、西尾某来訪す、○「禅の日本文明に及ぼせる影響」を松田湛堂に送る、○渡邊代診来る、廿三日、午前、渡邊真来診す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○附税家屋税壹円六拾四銭を納む、○午后、「女子修身」

四千枚の奥附を金港堂に付与す、○新村出来訪す、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、○夜、無事、

廿四日、午前、遠藤隆吉、東啓治、浦谷熊吉、黒澤和雄、小川義堂(号館)、フローレンツ来訪す、○午后、中島徳藏、加藤孫平、山口志げ、西尾某、来訪す、○内藤某来診す、○夜、勉強、

廿五日、午前、講義に大学へ赴く、○深澤伊三郎来訪す、○古川勝隆より来状、○午后、端書を中村正修、松田湛堂、高島円、吉田栄次郎、齋藤儀八、岡澤鉦次郎、中島力造に送る、○「倫理と宗教」の速記を訂正す、○夜、日本学会に大学集会所へ赴く、鳥居龍藏の講演を聴く、

廿六日、吉田豊より来状、○速記を訂正す、○府税地租割三銭を区役所に納む、○午后、岩佐重一来訪す、○速記を訂正す、○夜、新村出を招燕す、○速記を訂正す、○中村惟吉より来状、廿七日、午前、学習院へ赴く、○保々清音来訪す、○午后、大学教授会へ赴く、○小笠原秀雄より来状、○夜、勉強、

廿八日、午前、講義に大学へ赴く、○田川辰一及び朝河貫一より来状、○速記を訂正す、○不在中島徳藏来訪す、○午后、菊池広来訪す、○速記を訂正す、○夜、速記者をして速記せしむ、○「倫理と宗教」を中島徳藏に送る、

三月

一日、午前、浦谷熊吉、時田増子来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、国語調査会へ赴き、尋いで新村出の独逸に赴くを新橋に送る、○「日本国民宝典」の目次を大倉書店に

送る、○教育時論を浦谷熊吉に送る、○夜、「女子の道德」を彩雲閣に送る、

二日、午前、「現今の国字問題」太陽に出で、「日本主義とは何ぞや」全国神職会々報に出づ、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○妻、笹川、元良二氏を訪ふ、○午后、Bradley を読む、○夜、「東亜の光」二の一二を宇野哲人、加藤弘之、萩野由之、富田春山、齋藤庸一郎、村上直次郎、建部遜吾に送る、○Volkelt, Erfahrung und Denken を読む、○此日「日本経済社会の将来」東京経済雑誌に出づ、

三日、午前、浦谷熊吉、佐伯俊二、工藤某、石川若吉来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、桑原隲蔵より書状及び茶を送来る、○藤岡作太郎来訪す、○夜、勉強、○太陽を読む、○此日、秋山悟庵来訪す、

四日、午前、講義に大学に赴く、○不在中新村猛雄来訪す、○Justus Leo より書状及び著書 (Die Entwicklung des ältesten japanischen Seelenlebens) を送来る、○午后、絵端書凡そ四十枚を吉田熊次に送る、○夜、国史眼及び日本政記を読む、○此日、箕作元八の「歴史上より見たる道德の危機」を読む、

五日、午前、国史眼及び日本政記を読む、○午后、熊谷五郎、上野陽一来訪す、○大道寺友山の「武道初心集」を読む、○夜、勉強、六日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○午后、文科大学の教授会に赴く、○夜、勉強、○此日、朝永三十郎より「哲学と人生」を送来る、

七日、午前、講義に大学に赴く、○午后、淀野耀淳、桂有文、加地歌三郎、加藤玄智、深作安文来訪す、○夜、上野陽一より来状、○陸軍大将立見尚文逝く、

八日、午前、書状を朝河貫一に送る、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、熊谷五郎、其著「大教育学」を寄送し来る、○Bradley 及び Hegel's Philosophie des Geistes を読む、○夜、諸雑誌を読む、

九日、午前、目黒和三郎来訪す、○Hegel, Philosophie des Geistes を読む、○午后、浦谷熊吉及び中村某来訪す、○引続き Hegel を読む、○帝国学士院、法制大学及び上野陽一より来状、○夜、無事、

十日、午前、遠藤隆吉、尾上八郎、福島徳平来訪す、原稿を上野陽一に送る、○安田旭軒、服部活民来訪す、○夜、勉強、○川田鏡弥より原稿及び書状を送来る、

十一日、午前、講義に大学に赴く、○川田鏡也より来状、○午后、日本政記を読む、○姉崎正治、原平吉来訪す、○夜、国史眼、及び武道初心集を読む、

十二日、午前、武道初心集を読む、○午后、「中学修身」二百枚の奥附を文学社に付与す、○柏崎精神教育会より来状、○夜、帝国学士院に赴く、重野安繹の送別会を兼ね、

十三日、午前、学習院に赴く、○午后、「旧倫理」一百枚の奥附を文学社に付与す、○小清水金蔵来訪す、○夜、孔子祭典会より来状、○勉強、○「倫理と宗教」丁酉倫理に出づ、○此日、宣光、春枝

各々遠足をなす、

十四日、午前、講義に大学に赴く、○「東亜の光」(二ノ三) 出づ、

○午后、木村鷹太郎より「真善美」一冊を送来る、○大倉喜三郎、川田鏡弥来訪す、○「行為と目的との関係」を訂正す、○夜、勉強、

十五日、午前、「行為と目的との関係」を法制大学に付与す、○田中楠蔭より来状、○森良三郎来訪す、○午后、森洽藏来訪す、○

国語調査会に赴く、○鳥海宝子を訪ふ、○不在中深谷善三郎よりビール一打と書状を送来る、○夜、「東亜の光」を小杉熙、加藤弘之、

萩野由之、北里闌、村上直次郎、島文次郎、松平直亮、吉田豊に送る、○此日、相良益次郎より来状、

十六日、午前、福岡市長佐藤平太郎より来状、○北村教嚴より書状及び「生死問題」を送来る、○「大日本続蔵経」第一輯第廿三套を受取る、○午后、「中学修身」九百九十枚の奥附を文学社に付

与す、○上野春平、松山直藏来訪す、○夜、勉強、

十七日、午前、成田衡夫、木村鷹太郎、福井普太郎、蜷川龍夫、岡本敏行、来訪す、○日之出生命保険会社の株を五株申込む、○清

子を拉して羽田に家族会に赴く、○午后、羽田より川崎を経て還る、○不在中保々清音及岩瀬三治、小清水金藏来訪す、○此日、

友枝高彦より来状、

十八日、午前、蜷川龍夫、深谷善三郎、吉田熊次及び雪子より来状、○書状を蜷川龍夫に送る、○午后、「中学修身」一千五百枚の奥附を文学社に付与す、○米国ユニオン神学校長の演説を大学に聴

く、○夜、小清水金藏来訪す、○宮崎濁卑より「神器之世」を送

来る、

十九日、午前、石川幸吉、及び大日本仏教徒大会本部より来状、○書状及び新聞を里昂市に送る、○森良三郎来訪す、○帝国人名辞書ノ序を作る、○午后、ホール博士歓迎の茶話会に大学の集会所

に赴く、フヒツセル夫妻、コーツ、井深梶之介、朝河貫一などと会

見す、○夜、「帝国人名辞書」の序を集文館に送る、

二十日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部に赴く、○木山熊次郎より来状、○東京勸業博覧会開会、「頁下部」に関連新聞記事切抜貼付(記事に「時事」と朱書きあり)○午后、Lafadio Hearn, The

Life and Letters を読む、○「中学修身」一千枚の奥附を文学社に付与す、○夜、勉強、

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○不在中那須宥高、天澤文雅来訪す、○加藤駒二より来状、○午后、成田衡夫、川田鏡弥来訪す、

○「女子修身」三千枚及び「師範修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○丙申会より来状、○夜、中村茂文来訪す、○「東亜の光」を甫森謹吾及び村上三元子に送る、○此日、「武士道」遼東新

報に出づ、

廿二日、午前、鯉節一箱を手塚光貴ミツタに、書状と鯉節一箱を木山熊次郎に送る、○加藤駒二より来状、○午后、手塚光貴及び帝国文学

会より来状、○保々清音来訪す、○夜、勉強、

廿三日、午前、浅野和三郎より来状、○書状を手塚光貴に送る、○午后、三時半重野安釋の欧州に赴くを送る、○石黒忠恵、南摩綱紀、金井之恭、田中光顕、古市公威、小牧昌業、寺田弘、横井忠

直、須藤求馬、安井小太郎等と会見す、○夜、木山熊次郎の結婚披露に三縁亭に赴く、西田敬止、横井時雄並に妻、龍野元之並に妻等と会見す、○帝国大学より来状、

廿四日、午前、尾上八郎、小谷重、金仙宗諱、熊谷五郎、外崎寛、手塚岸衛、石川松溪来訪す、○書状を集文館に送る、○宇野哲人より来状、○「女子修身」二千三百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、史籍集覽二冊を受取る、○「中学修身」三百四拾枚の奥附を文学社に付与す、○浅野和三郎より英文学史を送来る、○夜、手塚光貴の結婚披露に富士見軒に赴く、小牧昌業、木場貞長、棚橋一郎等と会見す、

廿五日、午前、遠藤隆吉より近世社会学を送来る、○宣光高等小学一年を卒業す、○春枝東京府第二師範学校附属小学校に於て試験を受く、○午后、「中学修身」八百枚の奥附を文学社に付与す、○藤原喜一をして二宮翁の事を速記せしむ、○「日清英語学教案」の序を川田鉄弥テツミに付与す、○夜、勉強、

廿六日、午前、山梨勝治来訪す、○午后、大学の評議会に赴く、○不在中藤原隲藏来訪す、○夜、勉強、○此日、伊沢千世子来訪す、廿七日、午前、山鹿素行の小伝を稲垣満次郎に送る、○「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、○手塚岸衛をして速記せしむ、○藤原喜一より来状、○午后、文科大学の教授会に赴く、○「中学修身」千百枚の奥附を文学社に付与す、○夜、「二宮尊徳の人格」を藤原喜一に送る、

廿八日、午前、所得税式拾円六拾壹銭、市税所得税附加壹円八拾銭、

区費所得税割四拾四銭を区役所に払込む、○「小学教員に対する希望」を手塚岸衛に送る、○「女子修身」一千五百枚の奥附を金港堂に付与す、○菊池広、津野富子と共に来る、○午后、船田三郎、広池千九郎来訪す、○夜、「倫理と宗教」を訂正す、○石川松溪より来状、○此日、飯炊女中入代る、

廿九日、午前、東京府第二師範学校附属小学校に入学す、○中島徳藏来訪す、○国語調査会の手当金式百円を受取る、○午后、三好愛吉、吉田豊より来状、○「中学修身」一千二百廿五枚の奥附を文学社に、「中学修身」八千枚の奥附を金港堂に付与す、○「陽明哲学」一百枚、「朱子哲学」一百枚の奥附を富山房に付与す、○「倫理と宗教」を訂正す、○夜、勉強、

三十日、午前、外崎寛より来状、○「倫理と宗教」とを訂正す、○午后、岩佐重一来訪す、○「倫理と宗教」及び書状を中島徳藏に送る、返書来る、○夜、日本政記を読む、

卅一日、午前、遠藤隆吉、木山熊次郎、清原徳次郎、松浦一、浦谷熊吉、甫森謹吾、得能文、藤井甚太郎来訪す、○小金沢久吉より「漢字」一冊を送来る、○午后、「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、奥附八拾式枚を返来る、○土肥竹次郎来訪す、成田衡夫より来状、○夜、日本政記及び武道初心集を読む、

四月

一日、午前、写真を藤原喜一に貸附す、○Bradley, Appearance and Realityを読む、○午后、「東亜の光」第三号を中村茂文に送る、○夜、書状を野田義夫に送る、○国史眼を読む、

二日、午前、正勝、東京府師範学校附属小学校に入学し、此日より

授業を受く、○松扉得悟、椎尾弁匡、浦谷熊吉来訪す、○「中学修身」二千枚、「農業修身」三百枚、「女子修身」五百枚を金港堂に付与す、○書状を井上健児に送る、○書状を小川恂蔵、清水金右衛門、細貝勝逸、渡邊尚広、内田信一郎、小崎弘道に送る、○午后、西田幾太郎来訪す、○夜、文学社手代鈴木某来訪す、○「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、

三日、午前、中村茂文、塩谷温より来状、○保々清音より武士道論を送来る、○妻子五人、博覧会に赴く、○午后、速記を訂正す、

○夜、深作安文来訪す、○小崎弘道より返事来る、

四日、午前、山川健次郎より来状、○小笠原実成、黒木安雄、Ray Sidney L. Gulick 来訪す、○午后、渡邊武助、藤井甚太郎、浦谷熊吉来訪す、○石川松溪、建部遜吾より来状、○夜、新聞を読む、○此日、「女子修身」三百枚の奥附を金港堂に付与す、

五日、午前、清水金右衛門来訪す、○電話使用料拾六円五拾銭を小石川郵便局に納む、○雪子に化粧品を送る、○午后、吉田熊次の書籍二箱を郵船会社より受取る、運搬費七拾五銭、○夜、帝國学士院及び日本弘道会より来状、○此日、博文館より宮崎虎之助の「基督観」を送来る、

六日、午前、書状を土井林吉、渡邊武助及び船田三郎に送る、○午后、同窓会通知書を和田垣謙三、丹後直平、岡倉寛三に送る、○「中学修身」二千枚の奥附を文学社に付与す、○赤沢晃及び文学社鈴木某来訪す、○所得税通知書を万世橋稅務署に送る、○夜、

勉強、

七日、午前、野田義夫、本莊了一、佐伯俊一より来状、○高楠順次郎、小林一郎、船田三郎、坂本嘉治馬来、遠藤良子来訪す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○夜、保々清音来訪す、○小川恂蔵より来状、○石川松溪来訪す、以故不遇、○此日、鳥海宝子より来状、

八日、午前、真綿と下帯とを鳥海宝子に送る、○午后、工科大学展覽会を観る、関野貞及び伊東忠太之を説明す、○補永茂助より来状、○夜、勉強、○Grammky より来状、○「学生宝鑑」再版の校正来る、

九日、午前、岡本敏行、宮坂詰宗来訪す、○午后、岡田良平来訪す、○夜、鳥海宝子と堀越岩松との結婚式に神楽坂吉熊に赴く、田村豊久、桐谷文平、柴原和、冷泉為伸等と会见す、○不在中一千七百六十枚の奥附を文学社に付与す、○此日、小川恂蔵より「肥前国誌」を送来る、

十日、午前、高瀬代次郎、三好愛吉来訪す、○午后、校正を大倉書店に送る、○「東亜の光」を小杉熙、島文次郎、村上茂登子、甫森謹吾、松平直亮に送る、○鶏卵箱を建部遜吾及び高瀬代次郎に送る、○夜、新聞及び雑誌を読む、

十一日、午前、井上健児、土井林吉、志水直、志水代次郎より来状、○午后、外国語学校に赴き、生徒の為に講演をなす、○春山作樹、藤井甚太郎、田中義能、遠藤良子、石原謙来訪す、○建部遜吾より来状、○午后、「女子修身」二千二百枚の奥附を金港堂に付与す、○中村某より来状、○「女子修身」二千二百枚の奥附を金港堂に

付与す、○夜、勉強、

十二日、午前、「東亜の光」(二の四)出づ、○浦谷熊吉来訪す、○午后、井上成美来訪す、○国語調査会に赴き、尋いで帝国学士院に赴く、○夜、田中経太郎より来状、

十三日、午前、電報を富田順吉に送る、○午后、「新聞」を吉田熊次に送る、○「中洲老母危篤に近し」の電報、富田順吉より来る、○「中学修身」五百枚の奥附を文学社に付与す、○Sidney L. Gulick 4s The White Peril in the Far East, Arthur Lloydより Historical Development of Shushi philosophy in Japan を送る、○山梨勝治、井上成美来訪す、○大日本統藏経第一輯第廿四套を受取る、○夜、富田順吉より電報又来る、○吉田熊次夫婦より来状、○九時中洲老母逝く、○夜半、井上成美来訪す、十四日、石原謙、辻本卯藏、遠藤良子、井上成美、徳谷豊之助、保々清音来訪す、○電報を富田順吉に送る、○富田順吉より妻女に電報を送来る、○午后、三時半縫子博多に向かつて出発す、○岩瀬三治来訪す、○夜、日之出生命保険会社及び齋藤儀八より来状、○校正を大倉書店に送る、

十五日、午前、金澤庄三郎、浦谷熊吉来訪す、○校正を大倉書店に送る、○福島徳平より来状、○午后、書状を文科大学、及び富田順吉に送る、○有馬祐政、及び筑前学友会幹事法科大学生某来訪す、○夜、勉強、

十六日、午前、雑務をなす、○午后、校正を大倉書店に送る、○端書を有馬祐政、大村欣一、和田垣謙三等に送る、○児玉実徳、浦

谷熊吉来訪す、○山川健次郎を訪ふ、○夜、帝国大学より「除服出仕」の辞令書来る、○「中学修身」九百六十枚の奥附を文学社に付与す、○葬式を行ふ、

十七日、午前、学習院に赴き、尋いで、女学部に赴く、○浦谷熊吉、小豆澤英男来訪す、○午后、大下藤次郎より来状、○文科大学教授会に赴く、○夜、清水直清水代次郎養子披露の宴に上野精養軒に赴く、加藤高明、嘉納治五郎、澤柳政太郎等と会見す、○「中学修身」五百五十枚の奥附を文学社に付与す、○小林照朗、蜷川龍夫より来状、○不在中児玉実徳来訪す、

十八日、午前、講義に大学に赴く、○児玉実徳来訪す、○午后、原平吉、藤田明、加藤玄智、石川幸吉来訪す、○小林照朗より「日本之社会」を送来る、○遠藤隆吉より来状、○夜、同窓会に富士見軒に赴く、来会者は、牧野伸顕、木場貞長、和田垣謙三、中隈敬造、岡倉覚三、国府寺新作、○富田順吉より来状、

十九日、午前、「中学修身」七百五十枚の奥附を文学社に付与す、○校正を大倉書店に送る、○午后、無事、○夜、東亜協会評議員会を自宅に開く、○金港堂より来状、

二十日、午前、岡本敏行来る、乃ち「日之出生命保険会社」の爲めに百廿五円(五株)を払込む、○石井波平より招待状来る、○伊藤六蔵来訪す、○午后、「中学修身」七百廿七枚の奥附を文学社に付与す、○竹柏会より記念品を送来る、○夜、十時妻女博多より帰来る、○石川松溪来訪す、

廿一日、午前、加藤玄智、戸渡丑郎、赤澤晃、都河不老、来訪す、

○石橋友次郎、田村勲、児玉実徳より来状、○午后、山梨勝治、松本正一來りて写真を取る、○加藤玄智再び来る、○書状及び玉子箱を石井波平に送る、○夜、日本宗教家協和会に三縁亭に赴く、小崎弘道、加藤駒一郎、神崎一作等と会見す、○勉強、○此日、Hegel, Philosophie des Geistes を読む、○村上茂登子より来状、

廿二日、午前、講義に大学に赴く、○井上成美来訪す、○瀧村斐男より来状、○午后、姉崎袖子、全増子来訪す、○齋藤増吉をして速記せしむ、○夜、石井波平の結婚披露に上野精養軒に赴く、尾崎行雄、戸野周次郎、濱幸一郎等と会見す、○富田順吉より来状、廿三日、午前、関城書を読む、○浦谷熊吉来訪す、○「女子修身」五百枚、「新編倫理」五百枚、「商業修身」三百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、石川松溪をして速記せしむ、○夜、関根正直来訪す、

廿四日、午前、学習院に赴く、○午后、大学の教授会に赴く、岡村勇二と会見す、○千賀鶴太郎、鈴木徳三郎来訪す、○夜、「師範修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○観桜会の招待状来る、○講座給九百円となる、

廿五日、午前、大学赴き、小試験を行ふ、○不在中岩佐重一來訪す、○午后、「我邦に於ける宗教の運命」を秀英舎に送る、○手塚光貴、千葉亀雄、辻本卯藏来訪す、○黒木安雄及び大倉書店等より来状、○元良勇次郎より書状と幾那鉄葡萄酒二瓶を送来る、○山梨勝治、写真を携来る、○夜、速記を訂正す、廿六日、午前、使者を関根正直に遣はす、○渡邊融、江部淳夫来訪

す、○波多野精一、加藤玄智二氏の論文を大学の使者に付与す、○速記を訂正す、○午后、「中学修身」五百廿七枚の奥附を文学社に付与す、○西村時彦、山梨勝治、加藤駒二来訪す、○「武士道の話」を山梨勝治に付与す、○夜、日本学会に大学集会所に赴く、来会者凡そ拾五名、○校正を大倉書店に送る、

廿七日、午前、辻本卯藏及び日之出生命保険会社より来状、○書状を瀧村斐男及び岡本敏行に、端書を黒木安雄及び関根正直に送る、○午后、書状を元良勇次郎、佐々木信綱に、端書を真田永清及び孔子祭典会に送る、○夜、古典科同窓会に大学集会所に赴く、西田敬止、竹中信次、生田目経徳、松本愛重、佐々木信綱、三島桂、関根正直、岡田正之等と会見す、一同写真を取る、○浦谷熊吉来訪す、

廿八日、午前、補永茂助、葉山万次郎、小林義則、戸渡丑郎、徳谷豊之助、来訪す、○午后、孔子祭典会講演に高等商業学校に赴き、「孔子の人格に就いて」一場の講演をなす、高木兼寛、辻新次、松平直亮、徳川達孝、土屋弘、杉浦浩太郎等と会見す、○岡村勇二来訪す、○富山房より金五拾円を送来る、○津軽英磨より来状、○夜、Leumann より絵端書来る、

廿九日、午前、孔子祭典会の講演、報知、万朝等の諸新聞に出づ、○午后、大庭雄貴来る、之に五拾円の寄附金を付与す、○鶏卵箱を瀧村斐男に送る、○浦谷熊吉来訪す、○夜、磯部武者五郎来訪す、○小宮八十二をして速記せしむ、○外崎寛及び大野太衛より来状、○此日、校正を大倉書店に送る、

三十日、午前、校正を大倉書店に送る、○午后、書状を大野太衛、外崎寛、谷慶祐、齋藤儀八、渋谷啓蔵及び金港堂に送る、○長谷川誠也来訪す、○夜、瀧村斐男の結婚披露の宴に富士見軒に赴く、神田乃武、橋橋一郎、柴田一能等と会見す、

五月

一日、午前、講話に学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○渋谷啓蔵、谷慶祐、清水金右衛門、及び学習院女学部より来状、○夜、図書会社より蒙文読本三冊、蒙文義人伝一冊を送来る、○杉浦浩太郎、磯部武者五郎より来状、○「武士道」時事新報に、「学者の応接室」国民新聞に出づ、

二日、午前、三好愛吉より来状、○講義に大学に赴く、○午后、吉村寅太郎、枝元長夫、高橋直臣、尾上八郎、境野哲、堀内尚同来訪す、○校正を大倉書店に送る、○夜、浦谷熊吉及び坂上嘉治馬と相談会を開く、

三日、午前、「東亜の光」第五号出づ、○佐々木高行及び金港堂より来状、○午后、国語調査会に赴く、○夜、浦谷熊吉、手塚光貴来訪す、○書状を新渡戸稲造に送る、

四日、午前、上野春平来訪す、○尾上八郎より来状、○午后、三井銀行に赴き、尋いで正金銀行に赴く、○神道同志者大会に赴き、一場の演説をなす、清浦奎吾、千家尊福、肝付兼行、井上頼国、藤岡好古等と会見す、「頁下部に新聞記事（神道同志者大会について）切抜貼付」○英国大使館より来状、○武藤長平来訪す、○石川幸吉、学習院及び教員検定委員より来状、○夜、書状と金巻

千円（此英貨一〇二磅一シリング八ペンニー）を吉田熊次に仏国巴里日本大使館に送る、○書状を福岡市長佐藤平太郎及び伯爵津軽英麿に送る、

五日、午前、遠藤良子、葉山万次郎、藤井甚太郎、吉田充夫、宮坂詰宗、浦谷熊吉来訪す、○午后、書状を浦谷熊吉に送る、○校正をなす、○夜、木村鷹太郎より「マゼッパ」を送来る、○「学生宝鑑」の校正を大倉書店に送る、

六日、午前、清水直義来訪す、○「学生宝鑑」の校正を大倉書店に送る、○午后、書状を英国大使館に送る、○浦谷熊吉、小谷重来訪す、○願書を高等商業学校に送る、○「独文日本哲学」を杉浦浩太郎に送る、○帝国学士院より来状、○夜、校正をなす、

七日、午前、赤井直好来訪す、乃ち添書を付して之を吉村寅太郎に遣はす、○フローレンツより「天地麗気記」を返来る、○柳生を文部省に遣はす、○午后、「農業修身」二百枚「女子修身」四百枚の奥附を金港堂に付与す、○葉山万次郎来訪す、○長瀬蘇舟及び文科大学より来状、○校正をなす、○書状を田村勲及び清水金右衛門に送る、田藤鎮、勲記を携来る、○夜、赤井直好来訪す、○上野春平より来状、

八日、午前、学習院に赴く、○吉田熊次の論文を文部省に提出す、○「武士道」の続稿、時事新報に出づ、○午后、立木鶴子来訪す、○夜、学生の論文を読む、○東亜協会講演の招待状を発送す、○清水直義より来状、

九日、午前、学生の論文を読む、○午后、安田旭軒、清水金右衛門、

姉崎正治、横田仙仙来訪す、○岩谷季雄、富田春山、若木貞一、安倍叔吾より来状、○夜、野中天潮来訪す、○学生の論文を読む、十日、午前、浦谷熊吉、中田鎌来訪す、○松村正一より来状、○金尾文淵堂より回光録を送来る、○午后、吉村寅太郎来訪す、○書状を読売新聞に送る、○松平直亮より来状、○Höfding, Psychologie in Umrissen を読む、○夜、佐藤平太郎より来状、○Höfding を読む、

十一日、午前、金子堅太郎を訪ふ、○吉田熊次及び雪子より絵端書来る、○午后、Höfding, Psychologie in Umrissen を読む、○「女子修身」六百枚の奥附を金港堂に付与す、○桑原隲蔵、大野太衛より来状、○弘道館より心理学綱要を送来る、○夜、Höfding を読む、〔頁下部に記事(素行の遺書遺物について)切抜貼付〕

十二日、午前、長谷川誠也、佐伯俊二、杉浦浩太郎来訪す、○「女子修身」五百枚の奥附を金港堂に付与す、○大日本統藏経第壹輯第廿五套を受取る、○午后、東亜協会講演大会を高等商業学校講堂に開く、聴衆約八百名、○溝淵進馬より来状、○不在中内山正居来訪す、○夜、田中喜一來訪す、○此日、田村勲、田中禮より来状、

十三日、午前、書状を富田春山及び井上健児に送る、○午后、安田旭軒をして速記せしむ、○梶山延太郎より来状、○書状を大野太衛に送る、○学生の論文を読む、○夜、学生の論文を読む、十四日、午前、浦谷熊吉来訪す、○金尾文淵堂より「見神論評」を送来る、○午后、書状を加瀬駒太郎及び三好愛吉に、新聞包を吉

田熊次に送る、○清水金右衛門、原田秀泰来訪す、○学生の論文を読む、○夜、内山正居来訪す、○速記を訂正す、○此日、宣光風邪に悩む、○金井之恭逝く、

十五日、午前、学習院に赴く、○中川愛氷来訪す、○午后、大学の教授会に赴く、○不在中鷹野勇雄来訪す、○山梨勝治、時事新報附録を携来る、○「二宮尊徳翁の人格に就いて」を文明堂に付与す、○夜、浦谷熊吉来訪す、○速記を訂正す、

十六日、午前、逢恩承、鬮鐸、古城貞吉来訪す、○速記を訂正す、○午后、「中学修身」三百五十枚の奥附を文学社に付与す、○安田旭軒来訪す、乃ち之に「教育雜感」を付与す、○高橋直臣来訪す、乃ち之をして筆記せしむ、○加藤玄智来訪す、○阿部次郎及び佐藤平太郎より来状、○夜、長尾景堯来訪す、○学生の論文を読む、○柳生を尾上八郎に遣はす、

十七日、午前、校正を大倉書店に送る、○本莊了一、山口志げ来訪す、○学生の論文を読む、○坂本嘉治馬、長谷川誠也、鷹野勇雄と電話にて談話す、○午后、フローレンツ、石川幸吉、加瀬駒太郎より来状、○写真二枚と旧原稿とを博文館に付与す、○学生の論文を読む、

十八日、午前、大学の教授会に赴く、○中川愛氷来訪す、○午后、東京高等工業学校に赴き、「精神の修養法」を演説す、○不在中齋藤唯信、仏教学概論を携来る、○大島順三郎より来状、○夜、校正を大倉書店に送る、○鳥居龍蔵より蒙文初等算術を送来る、十九日、午前、佐野友三郎、遠藤隆吉、補永茂助、石井大造、浦谷

熊吉、徳谷豊之助、赤井直好来訪す、○富田春山及び古城貞吉より来状、○午后、織田祐萌、渡辺素一來訪す、○高橋直臣より来状、○吉川半七より続日本高僧伝を送来る、○校正を大倉書店に送る、○夜、妻子一同上野に遊ぶ、○白鳥庫吉来訪す、○筆記の訂正をなす、

二十日、午前、原稿を浦谷熊吉に送る、○井上円了より来状、○丸山篤来訪す、○午后、関根正直、古典科出身者の写真を携来る、○荒浪市平をして速記せしむ、○筆記を高橋直臣に付与す、○相馬種丸来訪す、○夜、姉崎正治来訪す、○東亜協会の速記を訂正す、〔頁下部に「桑港暴行事件」の新聞記事切抜貼付〕

廿一日、午前、勲記の領票を文科大学に送る、○農業修身二百枚の奥附を金港堂に付与す、○東亜協会演説速記の訂正を浦谷熊吉に送る、○金港堂より「訂正女子修身」二部を送来る、○「日本最近政学調査記」の序を作る、○高子の療治をなす、○午后、序文を古城貞吉に送る、○書状を吉田熊次に仏国日本大使館当に送る、○新村出、塩谷温、吉田熊次、全雪子より絵端書来る、○学位記を姉崎正治に送る、○学生の論文を読む、○夜、書状を岩谷小波に送る、○学生の論文を読む、

廿二日、午前、学習院に赴く、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、学生の論文を読む、○保々清音、倉成久米吉来訪す、○書状を佐藤平太郎、加瀬駒太郎に送る、○晩景、鷺尾順敬来訪す、○夜、吉田熊次及び雪子より来状、

廿三日、午前、学生の論文を読む、○目黒和三郎来訪す、○校正を

大倉書店に送る、○午后、木山熊次郎、鷹野英雄、高瀬武次郎、吉田圭、藤塚鄰来訪す、○学生の論文を読む、

廿四日、午前、学生の論文を読む、○午后、柳生をして林峰子の葬式に会せしむ、○校正を大倉書店に送る、○山口県事務官（第二部長）梶山延太郎来訪す、○石原謙の論文を中島力造に送る、○夜、「煩悶と修養」（前半）を鷹野英雄に送る、

廿五日、午前、加瀬駒二より来状、○礼状を吉川半七及び木村鷹太郎に送る、○午后、金参円の為換と書状とを加瀬駒太郎に送る、○西田幾多郎の「實在に就て」を読む、○妻女小児を拉して大学病院に赴く、○此日より朝日新聞を取る、

廿六日、午前、西田幾多郎の「實在に就て」を読む、○書状を西田幾太郎に送る、○中村久四郎、大島正徳、松本新、中川愛氷、古城貞吉、深谷善三郎来訪す、○午后、研究、○辻本卯藏来訪す、○夜、乙竹岩造より絵端書来る、○此日、井上静子、吉武誠（福岡工業学校教諭）と結婚す、

廿七日、午前、講義に大学に赴く、尋いで点数会議に集会所に赴く、○午后、Historical Development of Shushi philosophy by Arthur Lloyd を中島力造に送る、○書状を井上健児に、端書を松本新に送る、○夜、有馬祐政、大村欣一來訪す、

廿八日、午前、鷺尾順敬より来状、○浦谷熊吉、保々清音及び中川愛氷来訪す、○Sidney L. Gulick より Evolution of the Japanese を送来る、○午后、校正を大倉書店に送る、○研究、○夜、研究、

廿九日、午前、学習院に赴く、○鷺尾順敬より来状、○建部遯吾よ

り餅と鯉節とを送来る、○午后、本朝武芸小伝を読む、○山梨勝治、御礼の爲めに来訪す、○夜、校正をなす、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○東洋倫理の講義を結了す、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、大村欣一、五十嵐博厚来訪す、○西田幾太郎及び加瀬駒太郎より来状、○夜、堀田相爾外学生三人来訪す、○松村正一より来状、○校正をなす、
卅一日、午前、水道使用料五円、家屋税五円九拾七銭、地租七拾五銭六厘を区役所に納む、○中川愛永より来状、○校正を大倉書店に送る、○午后、三井銀行に赴き、尋いで国語調査会に赴く、○夜、試験の答案を読む、

六月

一日、午前、「猛志修養法」成功に出で、「井上博士の家庭」ムラサキに出づ、○三好愛吉より来状、乃ち之に返書を送る、○午后、勉強、○夜、勉強、○文科大学より来状、○夜、藤田季莊来訪す、○早稲田大学より来状、

二日、午前、遠藤良子、河出静一郎、豊原清作、堀内尚同、田中経太郎、金仙宗諱、安田旭軒来訪す、○英文勅語を成美堂に送る、○午后、勉強、○此日、「猛志修養法」成功に出づ、

三日、午前、講義に大学に赴く、此日を以て講義を終結す、○加藤駒二より来状、○「中学修身」百拾五枚の奥附を文学社に付与す、○「女学生の修養」女鑑に出づ、○午后、村上静里（名は和三四郎）来訪す、○夜、校正を大倉書店に送る、○栃原■、よ及びゆり上州より来る、

四日、午前、「東亜の光」（二の六）出づ、○浦谷熊吉来訪す、○女中千代を解雇す、○井上健児より来状、○校正をなす、○午后、校正をなす、○夜、鷺尾順敬より来状、○校正を大倉書店に送る、○尾上柴舟より「静夜」を送来る、

五日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学教授会に赴く、○柳生をして山中立木妻の葬式に会せしむ、○夜、女中せつ及びたまを解雇す、○大村仁太郎逝く、享年四十五、

六日、午前、哲学科の試験を行ふ、○午后、報徳会より来状、○校正を大倉書店に送る、○織田祐萌来訪す、○夜、帝国学士院より来状、○Louis Bridelより Trois Etudes Sociales et juridiques 及び法学協会雑誌を送来る、

七日、午前、「東亜の光」を富田春山、齋藤庸一郎、小杉熙、吉田豊、藤田季莊、小野藤太に送る、○校正を大倉書店に送る、○午后、国語調査会に赴く、○松崎藏之助、島貫彦次郎より来状、○柳生を三井銀行に遣はす、○新聞包を吉田熊次に倫敦日本大使館に送る、○夜、櫻井、河本、寺野三教授の送迎会に大学会議所に赴く、○速記の校正をなす、○此日、小林一郎来訪す、

八日、午前、印度哲学試験に大学に赴く、○東筑中学より来状、○午后、柳生をして大村仁太郎の葬式に会せしむ、○速記の訂正をなす、○安田旭軒来訪す、○帝国学士院より来状、○此日、「教育」雑感」教育界に出づ、

九日、午前、都河不老、浦谷熊吉、齋藤木来訪す、○成美堂より「近世社会学」を送来る、○速記の訂正をなす、○午后、子女

を拉して博覽会に赴き、美術館を觀る、○不在中浦永茂助及び Gramatzky 來訪す、○古城貞吉、日本最近政學調査記を送來る、○島貫彦次郎來訪す、○夜、東亞協會員の集會に富士見軒に赴く、十日、午前、社会学の試験に大學に赴く、○午后、葉山万次郎、安田旭軒來訪す、○齋藤木より來狀、○夜、屆書を學習院及び女學部に送る、○中井宗太郎來訪す、○吉武静子より來狀、○速記の訂正をなす、○校正を大倉書店に送る、○此日、「煩悶と修養」中學世界に出づ、○不在中 Gramatzky 來訪す、〔頁下部に「片野重久氏自殺」の新聞記事切抜貼付（明治四十年六月十日付）〕十一日、午前、倫理學の試験に大學に赴く、○午后、引続いて試験をなす、○不在中興教書院より茶、及び「二宮尊徳翁と仏教」二部を送來る、○夜、葉山万次郎、新井重來訪す、乃ち新井重をして金港堂の爲めに速記せしむ、○博文館より來狀、○「孔子の人格に就いて」を孔子祭典會に送る、○不在中村上静里來訪す、十二日、午前、倫理學の試験に大學に赴く、○午后、引続いて試験をなす、○不在中唐仁原菅夫來訪す、○伊藤銀月より來狀、○夜、帝國學士院に赴く、○雪子より繪端書を送來る、○此日より読売新聞を取る、

十三日、午前、関口正雄、Gramatzky 來訪す、○伊藤銀月より「現代日本之思想界」二部を送來る、○午后、寺澤巖男、石川松溪、浦谷熊吉、浦永茂助、黒住宗武、和田肇、近藤歌太郎來訪す、○博文館より菓子器及び扇子二本を送來る、○夜、小林一郎來訪す、○速記の訂正をなす、○此成功雜誌社より御札の爲めに來る、

十四日、午前、支那哲學の試験に大學に赴く、○大日本統藏經第一輯第廿六套を受取る、○不在中博文館より反物を送來る、○午后、清水直より鶴子餅を送來る、○「女子教育論」を金港堂に送る、○桑木巖翼來訪す、○夜、「陽明哲學」一百枚の奥附を富山房に付与す、○点数を文科大學に送る、○速記の校正をなす、十五日、午前、金港堂より來狀、○書狀を東筑中學校及び小林義則に送る、○午后、端書を藤田季莊、古城貞吉、尾上八郎、内山正居、長瀬蘇舟及び一喝社に送る、○夜、博文館創業二十週年紀念祝宴に精養軒に赴く、三宅雄次郎、嘉納治五郎、森泰次郎、手島精一、平山太郎、成瀬仁藏等と會見す、○「明治名著集」出づ、中に「倫理新説」を収む、

十六日、午前、辻本卯藏、小川義堂、龍谿觀興、田中伊藤次、浦谷熊吉來訪す、○校正を大倉書店に送る、○午后、書狀を東北中學校に送る、○中川愛氷、小林一郎來訪す、○端書を松原行一、鈴木徳三郎、飯島魁、及び東筑中學校に送る、○吉田熊次夫妻より繪端書を送來る、○夜、姉崎正治、深田康算、朝永三十郎の送別會に大學山上御殿に赴く、○中熊直喜より來狀、

十七日、午前、無事、○午后、帝國學士院委員會に大學集會所に赴く、○不在中深田康算來訪す、○夜、日本學會に大學集會所に赴く、來會者凡そ十五名、○不在中竹若伊右衛門、永富吉太郎來訪す、○此日、「東亞の光」を森泰次郎に送る、

十八日、午前、妻女を拉して巢鴨村に到り、帰路、雜司ヶ谷を経て還る、○午后、Sylvain Lévi の紹介により M. Fossey 來訪す、○

市川万平より来状、○速記の訂正をなす、○夜、「煩悶と修養」(残部)を博文館に送る、

十九日、午前、学習院に赴く、○教授会に大学に赴く、○午后、B. G. Teubner より為換を送来る、○中川愛氷及び Sidney L. Gulick より来状、○夜、新聞を読む、

二十日、午前、芥川正雄より来状、○浦谷熊吉来訪す、○速記の訂正をなす、○柳生を第百銀行に遣はす、○午后、深作安文、加藤玄智、林太吉、松浦一、近藤歌太郎、和田肇来訪す、○史籍集覧最後の二冊を送る、○夜、帝国学士院及び宮内省より来状、○速記の訂正をなす、

廿一日、午前、金仙宗諄、浦谷熊吉来訪す、○宮内省に参内し、賜物を拝領す、○「意志の修養に就いて」を浦谷熊吉に付与す、○午后、建部遯吾、相馬種丸来訪す、○柳生を三井銀行及び東海銀行に遣はす、○文部省年報を読む、○夜、引続き年報を読む、

廿二日、午前、澤柳政太郎を訪ふ、○「農業修身」一百枚の奥附を金港堂に付与す、○船田三郎、中川愛氷来訪す、○午后、「日本女子の将来」を女子教育講演会に演述す、○明義雜誌創立賛員より来状、○夜、吉武誠より来状、

廿三日、午前、長井真琴、金仙宗諄、黒木安雄、大森万次郎、岩崎卯太郎、奥田立実、阿部維巖来訪す、○女子教育講演会に於ける演説の概要、報知新聞に出づ、○午后、中川愛氷より来状、○山崎直三、浦谷熊吉来訪す、○西田幾太郎より来状、

廿四日、午前、「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○成瀬

仁蔵、観山覚道、大島直治来訪す、○午后、川崎直衛来訪す、○井原市次郎より来状、○夜、姉崎正治、朝河貫一、山崎直三等の送別会に富士見軒に赴く、坪内雄蔵、高田早苗、南條文雄、久米邦武、島村瀧太郎、前島密、浮田和民等と会见す、○杉浦浩太郎より来状、○教員検定臨時委員被仰付、(内閣)○此日、縫子すみれ会に千葉鉦蔵邸に赴く、

廿五日、午前、朝河貫一、五島法眼、志水次次郎、松川新平、大畑裕来訪す、○秋穂兼子に金五円を寄附す、○午后、書状を三宅雄次郎に送る、○トイプ子ルより来状、○小谷重来訪す、○宮崎濁卑、和田肇来訪す、有故不遇、○夜、成瀬仁蔵より来状、○「東亜の光」を村上茂登子、飯田御世吉郎、武島又次郎、和田垣謙三、島文次郎に送る、

廿六日、午前、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○不在中岩佐重一来訪す、○夜、池端宮内に往き写真を取る、○哲学会委員会に山上御殿に莅み、尋いで德育談話会を開く、来会者、元良勇次郎、中島力造、海老名弾正、小崎弘道、村上専精、前田慧雲、姉崎正治、○加藤駒二より来状、○大城谷桂樵逝く、

廿七日、午前、坂本嘉治馬来訪す、○書状を加藤駒二に、端書を大阪毎日新聞社に送る、○午后、武島又次郎より来状、○藤田明来訪す、○夜、無事、

廿八日、午前、加藤駒二より来状、○鈴木徳三郎来訪す、○午后、岩崎卯太郎より来状、○長谷川誠也、谷慶祐来訪す、○国語調査会に赴く、○夜、著作をなす、

廿九日、午前、浦谷熊吉、高橋俊英来訪す、○午后、岡部安輔より来状、○葉山万次郎来訪す、○書状を三宅雄次郎に送る、○夜、各種の雑誌を読む、

三十日、午前、井上健児、加瀬駒太郎等より来状、○本年度春期の教科書検印総数を調査するに、金港堂の中学修身式万六千式百八拾参枚、女子修身壹万参千九百枚新編倫理五百枚農業修身八百枚商業修身五百枚師範修身四百枚、文学社の中学修身壹万九千六拾四枚、総計六万千式百四拾七枚、○安田旭軒来訪す、○午后、幣原坦、宮北亀之進来訪す、○夜、荒浪市平をして速記せしむ、

七月

一日、午前、浦谷熊吉、市村瓊次郎来訪す、○三井銀行に赴く、○午后、Gramatzkyを訪ふ、○辻本卯藏来訪す、○夜、「女子の道徳」を彩雲閣に送る、

二日、午前、柳生を地方裁判所に遣はす、○三矢禅英来訪す、○Gramatzkyより来状、○午后、三島復来訪す、○書状を井上健児、大城谷良文、中熊直喜に送る、○夜、校正を大倉書店に送る、

三日、午前、学習女学部に赴く、○堀田相爾来訪す、○午后、教授会に赴き、尋いで德育談話会を開く、来会者は、三宅雄二郎、嘉納治五郎、井深梶之介、釈宗演、黒田真洞、元田作之進、片山国嘉、澤柳政太郎、新渡戸稲造、鎌田栄吉、海老名弾正、村上專精、中島力造、前田慧雲、姉崎正治、近角常観、○夜、九時頃帰宅、○「東亜の光」(二〇七)出づ、

四日、午前、中山鬼骨、Gramatzky来訪す、○午后、小柳司気太、

石原謙、林博太郎来訪す、○書状及び為換を井上健児、富田順吉、加瀬駒太郎に送る、○夜、書状を吉田静致に、校正を大倉書店に送る、

五日、午前、「東亜の光」を安倍叔吾、塩井正男、森泰二郎、加瀬駒太郎、島文次郎、小杉熙、村上茂登子に送る、○原平吉、相原熊太郎来訪す、○午后、松浦一来訪す、○校正を大倉書店に送る、○夜、吉田静致、保々清音及び帝国学士院より来状、○速記の訂正をなす、○此日、「孔子の人格に就いて」太陽に出で「女子教育論」教育界に出づ、

六日、午前、森良三郎来訪す、○電話使用料拾六円五拾銭を納む、○「大日本統藏経」第一巻輯第廿七套を受取る、○速記の訂正をなす、○書状を齋藤木に送る、○午后、書状を松浦一に送る、○岡村勇二より来状、○夜、卒業生送別会に赴く、○速記の訂正をなす、

七日、午前、堀内尚同、森良三郎、遠藤隆吉、尾上八郎、田中義能、安田旭軒、田村寛貞、石川松溪来訪す、○堀田相爾亦来訪す、○齋藤木、松浦一、栃原甚六より来訪す、○午后、瀧精一、東敬治、田村喜作来訪す、○夜、修身科検定予備試験問題を中島力造に、神道大会に於ける演説筆記を目黒和三郎に送る、

八日、午前、堀田相爾来訪す、○午后、福来友吉来訪す、○書状を堀内尚同に送る、○雑誌類を読む、○校正を大倉書店に送る、○夜、雑誌類を読む、

九日、午前、松浦一来訪す、○堀内尚同より来状、○午后、中熊直

喜、富田順吉及び文科大学より来状、○安田旭軒をして速記せしむ、○夜、校正をなす、

十日、午前、和田肇来訪す、○齋藤つねより来状、○校正を大倉書店及び成美堂に送る、○午后、「武士道講論」の原稿を石川松溪に付与す、○森良三郎来訪す、○夜、雑誌類を読む、

十一日、午前、大学に卒業式に赴く、法科百八十四人、医科百二十人、工科百四十五人、文科九十二人、理科二十人、農科四十四人、合計六百〇五人、渡邊又次郎、吉田宇之助、井原豊作等と会見す、○不在中淀野耀淳来訪す、○午后、有朋館より吉田熊次の印税を送来る、○安倍叔吾より来状、○伊澤千世子来訪す、○夜、校正をなす、○中川愛氷より来状、

十二日、午前、石川松溪、広田房太郎より来状、○投票を帝国学士院に送る、○国語調査会に赴く、○安藤正純来訪す、○井上淳より「カステラ」を送来る、○午后、笹川貞子、田中喜一、林高美来訪す、○校正を大倉書店に送る、○夜、ケーベルの招燕に赴く、○井上健児より来状、

十三日、午前、宮坂喆宗、安藤正純来訪す、○淡路町の江木に赴き、学生と共に写真を取る、○午后、「女子教育論」を金港堂に送る、○夜、校正をなす、

十四日、午前、安藤正純、補永茂助、和田綱紀、福井晋太郎、松川新平来訪す、○吉田夫婦より絵端書二枚来る、○午后、「日本女子の将来」を女鑑編輯局に送る、○菓子を富田春山、吉田栄次郎、村上茂登子に送る、○砂糖を間端吾に、金参拾円を佐藤三吉に送

る、○夜、「煩悶と修養」を大倉書店に送る、○校正をなす、○白鳥庫吉より来状、○此日、植木屋五人来る、

十五日、中村茂文、和田綱紀より来状、○金参拾五円とビール壱箱を入澤達吉に、金参円と菓子箱を久賀六郎に、ビール壱打（手形）を齋藤基次郎に送る、○校正を大倉書店に送る、○佐久間象山の櫻賦を読む、○森良三郎、菊池広来訪す、○午后、加藤十四郎、井上健児より来状、○岡澤鉦三郎来訪す、○夜、高瀬武次郎の送別会に精養軒に赴く、白河次郎、工藤一記、高島平三郎等と会見す、○不在中吉田豊来訪す、○校正を大倉書店に送る、

十六日、午前、隆文館より来状、○姉崎袖子来訪す、○吉田静致より「倫理学要義」を送来る、○「東垂の光」七を高島平三郎及び広池千九郎に送る、○書状を高島円に送る、○午后、「倫教と教育」の原稿を整頓す、○夜、中学校長の懇親会に植物園に赴く、山崎来代矩、児玉実徳、江崎誠、秋田実、石田悟雄、河口隆太郎、永山時英、末久喜十郎、駒井徳太郎、国井清音、堤寛、大里猪熊、中山再次郎、高橋重蔵、飯田御世吉郎、吉田豊、尾原亮三郎、笹倉新治、隈本繁吉等と会見す、○吉田夫婦より来状、

十七日、午前、堀田相爾来訪す、○浦谷熊吉、畔柳都太郎、金子三四郎より来状、○日之出生命保険会社より五株を送来る、○午后、井上健児よりカステラ壱箱を送来る、○夜、腹痛を患ふ、○此日、笹川種郎来訪す、

十八日、午前、村上俊江、福井晋太郎、辻本卯蔵、来訪す、○午后、波多野精一、堀内尚同、佐藤吉次来訪す、○夜、吉田豊来訪す、

○此日、Gramatzky 及び後藤朝太郎来訪す、有_レ故不_レ遇、

十九日、午前、吉田夫婦より絵端書を送来る、○山口県教育会長梶山延太郎より来状、○契約書を弘道館に送る、○韓国皇帝位を譲り、皇太子位に即く、「頁上部に「新韓国皇帝、名拓、字君邦」と書込み」○午后、講義要目を梶山延太郎に送る、○夜、校正を大倉書店に送る、○金港堂より来状、

二十日、午前、東敬治来訪す、乃ち之に「大学一家私言」を貸付す、○辻本卯藏より来状、○浦谷熊吉来訪す、○校正を大倉書店に送る、○午后、妻女、元良、伊澤、間及び笹川諸氏を訪問す、○齋藤唯信来訪す、○Gramatzky を訪ふ、○畔柳芥舟より「文談花談」を送来る、○書状を坪井学長に送る、○夜、堀田相爾来訪す、○中元の到来物は如_レ左、

浴衣二反	磯江潤	カスリ一反	菊池広
文墨一箱	同文館	ビール半打	林平次郎
菓子盆	石橋臥波	カステラ	井上健次
ビール半打	弘道館	骰具	姉崎
ピースビール一打	製造本	鶏卵一箱	浦谷
ビール壺箱	国光社	浴衣一反	吉田豊
ビール半打	佐々木	カステラ	笹川
マジヨリカ二箇	高等工業	鶏卵及釵	伊澤
齒ミガキ粉	石川栄司	鶏卵箱	三省堂
ビール一打(手形)	富山房	菓子箱	浅倉屋
ビール半打	村松	ビール壺打	隆文館

三品漬 森良三郎 鯉節 村田五郎
鶏卵壺箱 齋藤 砂糖 野田書店

廿一日、午前、友枝高彦、葉山万次郎、江崎誠、後藤朝太郎、生姜塚慶量、満田新造、遠藤良子、石川松溪来訪す、○本田種竹より来状、○午后、尾原亮太郎来訪す、○山崎洋服店員来る、○夜、「冷水養生法」を読む、○Höfding, Psychologie in Umriszen を読む、

廿二日、午前、柳生を入澤病院に遣はし、「東亜の光」七冊を本田種竹に送る、○Höfding, Ethik を読む、○人類学教室より「苗族調査報告」を送来る、○中川愛氷より来状、○不在中朝永三十郎来訪す、○妻子五人植物園に遊ぶ、○午后、川田鍊弥来訪す、○法然上人の「一枚起請文」及び Höfding, Ethik を読む、○彙報を秀英舎に送る、○鳩山和夫及び The Living Age Co. より来状、○山崎洋服店員来る、○夜、堀長啓より来状、○Höfding, Psychologie in Umriszen を読む、「頁下部に「教員検定試験日割」の記事切抜貼付」

廿三日、午前、石川松溪、隆文館の契約書を携へて来る、○校正を成美堂に送る、○Höfding, Psychologie in Umriszen を読む、○冷水浴を始め、○節酒を力行す、○午后、杉山富樫来訪す、○Höfding, Psych. in Umriszen を読む、○夜、千賀孝善及び山口志げ来訪す、○校正を大倉書店に送る、

廿四日、午前、浦谷熊吉、渡部坦治来訪す、○Höfding, Psychologie in Umriszen を読む、○菓鴨よりじやが芋五俵を送来る、○午后、

朝永三十郎妻来訪す、○山崎末吉仮縫試みの為に来る、○校正をなす、○夜、Höfding, Psychologie in Umrissen を読む、

廿五日、午前、辻本卯藏、間千代、山口志げ来る、○笹倉新治及び松村正一より来状、○日本の提案、韓皇の同意を得て調印を了す、○書状を渡部董之介に送る、○妻女、婦人博覧会に赴く、○文学社より砂糖を送来る、○午后、木場政雄、小谷重、鍵谷徳三郎来訪す、松村正一より来状、○Höfding, Psychologie in Umrissen を読む、○夜、大阪朝日新聞社より来状、○Höfding, Ethik 及び Psychologie を読む、

廿六日、午前、野田義夫、渡部董之介より来状、○書状を上村觀光に送る、○宗像逸郎、本田種竹より端書を送来る、○本田種竹を病院に訪ふ、○川口万之助、長尾折三、松平頼壽、萩野由之、三上参次、安井小太郎、島田鈞一、黒木安雄等と山上御殿に会食し、柴野栗山及び井上通女の事蹟に就いて談話す、○午后、濱尾総長を訪ふ、○朝永三十郎より来状、○山崎洋服店員来る、○渡部董之介より「生徒誦読用書籍目録」を送来る、○夜、船田三郎より来状、○Höfding, Ethik を読む、

廿七日、午前、文科大学に赴き、尋いで文部省に赴き、渡部董之介及び白仁武を訪ふ、帰途丸善、大倉書店等を廻はりて還る、○不在中福岡市長佐藤平太郎、福岡市議員梶原景克来訪す、○午后、徳山より電報来る、○森田守太郎来訪す、○校正を秀英舎に送る、○原稿を大倉書店に送る、○夜、小谷重及び大倉書店より来状、○校正及び口絵を秀英舎に送る、

廿八日、午前、赤井直好、浦谷熊吉来訪す、○書状を友枝高彦に送る、○午后、反物一枚を友枝高彦に、鏗節式円を佐々木信綱に送る、○梶山延太郎より来状、○書状を大阪朝日新聞社に送る、○夜、神田に赴き、旅行用品を求む、○Sidgwick, The Principles of Political Economy を読む、

廿九日、午前、波多江泰岳来訪す、○文部大臣を官邸に訪ひ、尋いで三井銀行に至る、○市街宅地租参円参拾六錢八厘、水道修繕費五拾参錢を区役所に納む、○不在中広池千九郎来訪す、○午后、三、三〇新橋出發、石川松溪、辻本卯藏、浦谷熊吉及び柳生送来る、○汽車中田川辰一と会見す、

三十日、午后、五、四六徳山着、杉山富槌、白石芳三と会見す、杉山氏は小郡迄随伴し来る、○六、四九小郡着、石田屋に投ず、梶山延太郎来る、

三十一日、午前六、三〇出發、梶山氏随伴し来る、○午后二、三〇萩着、好日館（藤原）に投ず、○松下郵塾を訪ふ、〔傍点朱筆〕○夜、高大亭の歓迎会に莅む、○此日、会見する者、杉民治、吉田庫三、楢取公弼、藤富嘉作（阿武郡長）、信国顕治（椿東小学校長）、中田伝平（萩警察署長）、都野知若（明倫小学校長）山田正路（郡書記）益田潜（郡書記）岩田博藏、片山元造（郡視学）等と会見す、

八月

一日、午前九時頃出發、赴「郡役所」、於「教員總會」為「一場演説」題曰、觀「村下郵塾」有感、○一一、〇〇頃出發、向「山口」、○午后

五時頃山口着、投^二上田屋^一、米澤菊五郎（県視学） 関靖（全上）
来訪す、○夜、雪舟寺及び洞春寺の蔵書目録を見る、（頁下部に「井
上文学博士の講話」の新聞記事切抜貼付）

二日、午前八時、与^二梶山氏^一訪^二知事渡邊融^一、尋^二赴^二常栄寺^一、（俗
云、雪舟寺、） 転^二赴^二洞春寺^一、為^二一場演説^一、山口に於て会見す
る者、知事渡邊融、荒川道隆、秦政治郎、関靖、米沢菊五郎、佐
野友三郎（図書館長）、依田鍋三郎（県属） 大味久五郎（警務長）
告森良、大久保到、山川源一等、○午后三、○〇出発、全四、一
○小郡着、全四、四五出発、全五、一○徳山着、投^二広瀬旅館別
荘^一、○夜、荳^二徳山有志者歓迎会^一、来会者は、梶山延太郎、杉
山富槌、岡村勇二、河口隆太郎、菊池直人、白石芳三、綿貫彦四
郎、櫛引友三郎、河村卯作、富田武一、松浦貞固（都濃郡長）

三日、午前八時、中学校に赴き、講習会開会式に莅み、尋いで講演
を開く、赤松昭憧、長沢^{マツ}秀、河野郁太郎等と会見す、○午后、水
泳を観る、○村上華石来訪す、
四日、午前、講習会に赴く、○午后、河口隆太郎、神代敬亮、岡村
勇二来訪す、

五日、午前、講習会に赴く、○一〇、五五出発、赴^二三田尻^一、食^二於
石田屋^一、有田要治（佐波郡視学） 青木忠一（佐波郡書記）と会
見す、○男爵楯取素彦を訪ふ、尋いで武光信雄を訪ふ、菅席（松
崎神社）に謁す、転じて国分寺を訪ひ、宝物を観る、○午后、五、
一〇の汽車にて徳山に還る、○夜、信国顕治来訪す、○此日、「東
亜の光」（二の八）出づ、

六日、午前、講習会に赴く、○劍持勝之来訪す、○午后、衆と俱に
舟遊をなす、○夜、書状を留守宅に送る、○此日、深作安文より
来状、○此日、児玉図書館を観る、

七日、午前、講習会に赴く、○午后、山口県教育総会に於て「国体
と武士道」を講演す、聴衆約五百人、大野直輔、武弘宜路、藤井
牛之助等と会見す、○杉田平四郎、河口隆太郎来訪す、○夜、書
状を深作安文に送る、

八日、午前、講習会に赴く、○菊池直人、石橋五郎、片山元造来訪
す、○午后、川上瀧男、梶山延太郎と共に練炭製造所を観る、武
田秀雄、水谷千万吉と会見す、○夜、梶山延太郎、杉山富槌来訪
す、

九日、午前、講習会に赴く、此日を以て講演を結了す、○警察署長
白鹿虎槌、郡長松浦貞固等来訪す、○午后、一二、一六出発、全一、
四九岩国着、県視学米沢^{マツ}菊五郎隨行し来る、杉田平四郎来迎ふ、
乃ち岩国町に赴き、旅館に投ず、既にして共に俱に錦帯橋を渡り、
中学校に赴き、尋いで吉香文庫に到る、藤田葆と会見す、葆唱歌
あり、云く、

ふる庭の草ふみ分けて尋ねますか、露の光も中にありやと、
杉田平四郎、佐藤馬太と共に会食して去る、○夜、八、一一出発、
十日、午前、九、五五、馬場着、菊屋に赴く、○午后一時半頃出発、
全五時頃山上講習会場に到着、

十一日、午前、「松下邨塾を訪ふて感あり」を演述す、高原操、石
橋為之助、松田芳次郎、小池信美、長井正巳、等と会見す、○正

午頃下山、途上三宅雄二郎に遭ふ、○午后一、三〇坂下村着、赴「延暦寺」、觀「古書画」、尋赴「来迎寺」、○五、五五大津着、投「竹清亭」、○夜、八、五六出發、汽車中上田万年に逢ふ、

十二日、午前、食堂にて嘉納治五郎に逢ふ、○午前九、〇〇新橋着、全一〇、〇〇頃帰宅、○浦谷熊吉來訪す、○「中学修身」四百五十枚の奥附を文学社に付与す、○午后、帰京届書を文科大学に送る、○夜、校正を大倉書店に送る、○不在中加藤玄智、乙竹岩造、佐伯俊二、佐藤金造、浦谷孫三郎、桑原隲藏、菊池広、宮坂詰宗、吉田夫婦及び Spiller, Gramatzky 等より來状、○不在中の來訪者は、若木貞一、石川岩一、野上俊夫、白松孝次郎、川口申雄、高橋正熊、曾根松太郎、黒木安雄、広江万次郎、平川泉吉、深作安文、櫛引成夫、○金港堂よりハンケチ壱箱を送来る、○広江氏はハンケチ壱箱、平川氏は巻煙草入壱筒を來贈る、○此日、五山文学全集を本田種竹に送る、

十三日、午前、新聞雜誌類を読む、○午后、保々清音來訪す、○徳山より小包を送来る、○夜、梶山延太郎、杉山富槌、荒川道隆、松平直亮より來状、○辻本卯藏來訪す、

十四日、午前、高瀬武次郎、浦谷熊吉來訪す、○「旅行日程」を文科大学事務室に送る、○午后、校正を大倉書店に送る、○高橋正熊、神田左京、石川松溪、堀田相爾、中村某、平川泉吉、辻本卯藏來訪す、○此日、福羽美静逝く、

十五日、午前、補永茂助來訪す、○全一一、〇〇兒女四人を拉して新橋より出發す、○午后四、四六大仁着、大風雨、○六、〇〇頃

修善寺着、投「菊屋」、○汽車中松下村塾零話を読む、

十六日、午前、端書を留守宅及び隆文館に送る、○午后、「倫理と教育」の訂正をなす、○夜、菊屋の別荘を觀る、

十七日、午前、別荘に移る、○「倫理と教育」の訂正をなす、○午后、兒女を拉して修禪寺を訪ふ、尋いで拈笑園に遊ぶ、○夜、無事、

十八日、午前、徳川達孝を訪ふ、○兒女を拉して修禪寺宝物を觀る、尋いで頼家及び範頼の墓に展す、○石川松溪及び留守宅より來状、○午后、新聞類を読む、○夜、無事、

十九日、午前、兒女を拉して旭瀧を觀る、○午后、修禪寺縁起及び天桂和尚年譜を読む、○夜、兒女を拉して皆宜園に遊ぶ、

二十日、午前、天桂和尚年譜を読む、○午后、股野藍田を訪ふ、○饒歌余響を読む、○夜、兒女を拉して市街を散歩し、「寄せ」に入りて帰る、

廿一日、午前、八時半頃出發、○九、三五大仁出發、○午后、三、五二新橋着、○五、〇〇頃帰宅、○夜、新聞類を読む、○此日、途上秦敏之に邂逅す、○不在中本田幸之助、原田秀泰、水谷保芳、中熊直喜、佐藤重三郎より來状、○高島平三郎、法貴慶次郎、山

田修より絵端書を送来る、○不在中の來訪者は、安藤健太郎、鍵谷徳三郎、櫻井義肇、桑木或雄、宮原一郎、船山曄智、○渡辺海旭より貝葉の写真を送来る、

廿二日、午前、浦谷熊吉來訪す、○午后、三井銀行に赴く、○縫子、庭園に躓いて、唇邊を傷づく、○井上成美來訪す、○白井進來訪

す、有故不遇、○夜、深作安文来訪す、○大阪朝日新聞社より来状、

廿三日、午前、堀田相爾来訪す、○午后、藤田安藏、岩瀬三治来訪す、○新聞類を読む、○夜、小杉熙より来状、○此日、風雨、

廿四日、午前、「東亜の光」(二の八)を小杉熙、小林法樹、村上茂登子、富田春山、加瀬駒太郎に送る、○書状を大阪朝日新聞社、杉田平四郎、佐藤平太郎に、端書を広瀬国蔵及び大阪朝日新聞社に送る、○午后、書状を藤富嘉作、松浦貞固に送る、○夜、端書を久保猪之吉、中熊直喜、瀧精一、九州日報社及び中越修身教会に送る、○此日、高楠順次郎より「臨邑八楽」論を送来る、

廿五日、午前、赤井直好、加藤玄智来訪す、○書状を小杉熙に送る、○菅井米吉、大森万次郎、大森哲介より来状、○午后、大森哲介より小包(反物とふきの砂糖漬)を送来る、○原秀四郎来りて「中等国史地図」を贈る、○「古学哲学」の補遺の二を作る、○夜、辻本卯藏来訪す、○各地方洪水出づ、

廿六日、午前、「古学哲学」の補遺の二を草し了る、○午后、友枝高彦、全富子、中村元雄来訪す、○書状を大森哲介及び手塚光貴に送る、○夜、紀平正美来訪す、○東京市大洪水によつて包围せらる、鉄道四大線皆不通となる、

廿七日、午前、洪水の増大、益々甚し、或は云ふ、安政六年以来の大洪水なりと、○新聞雑誌類を読む、○午后、浦谷熊吉来訪す、○金尾文淵堂より静観余録を送来る、○「東亜の光」を和田垣謙三に送る、○安藤健太郎より来状、

廿八日、午前、森良三郎、大工を拉し来りて屋後崖下の地所を検せしむ、○Bradley's Appearance and Realityを読む、○高原操より端書を送来る、○午后、原田秀泰の「勅諭衍義」を閲す、○「勅諭衍義」一千部の奥附を成美堂に付与す、○保々清音来訪す、○夜、「東亜の光」を河口隆太郎及び広池千九郎に送る、○端書を紀平正美に送る、○「勅諭衍義」を閲す、

廿九日、午前、森良三郎、松本新、姉崎袖子、平川泉吉来訪す、○大阪朝日新聞社より写真と原稿とを送来る、○午后、後藤朝太郎、時田儀一来訪す、○雪子より電報を送来る、○巢鴨村に赴く、○富山房より「最新生理学及衛生学」を送来る、○夜、原田秀泰の「勅諭衍義」を閲す、○姉崎正治来訪す、

三十日、午前、森良三郎、淵幸一来訪す、○水野清藏より来状、○書状を原田秀泰及び岡澤鉦三郎に送る、○「勅諭衍義」を讀し、之を原田秀泰に送る、○午后、原平吉来訪す、○Bradley's Appearance and Realityを読む、○井上健児より女子出産を報道し来る、○書状を松本順吉及び中島力造に送る、○夜、「倫理と教育」を訂正す、

三十一日、午前、高島平三郎及び吉田夫婦より絵端書、吉田熊次より端書、及び弥吉為三郎より書状を送来る、○森良三郎、岡本金太郎、浦谷熊吉来訪す、○力丸東山の「武学啓蒙」を読む、○縫子、姉崎を訪ふ、○午后、清国寧鴻銘よりThe Universal Order or Conduct of Lifeを送来る、乃ち之を閲読す、○深作安文に修善寺の土産を送る、○夜、Anesaki's Religions History of Japan を読

む、○「倫理と教育」を訂正す、○吉田夫婦帰朝す、

九月

一日、午前、森良三郎、豊原清作来訪す、○宇野哲人より来状、○力丸東山の「武学啓蒙」を読む、○午后、辻本卯蔵来訪す、○小野藤太よりビール壺打を送来る、○Bradley's Appearance and Realityを読む、○夜、富田春山、中川愛氷、加瀬駒太郎より端書、飯沼まつ江より書状を送来る、○「倫理と教育」を訂正す、

二日、午前、森良三郎来訪す、○井上円了及び宮坂詰宗より端書を送来る、○Bradley's Appearance and Realityを読む、○午后、坂本嘉治馬、阿部維巖、浦谷熊吉、保々清音来訪す、○夜、力丸東山の「武学啓蒙」を読む、○此日、島田蕃根逝く、○陸実逝く、三日、午前、鈴木徳三郎、森良三郎、姉崎正治来訪す、○博文館より来状、○午后、守屋恒三郎来訪す、○加藤弘之より「吾国体と基督教」を送来る、○文部省より「検定試験答案」を送来る、○夜、無事、

四日、午前、姉崎正治の欧米に赴くを送る、坪内雄蔵、海老名弾正、高橋作衛、弘田長、石黒忠憲、土方寧等と会見す、○吉田夫婦、横浜に赴く、○京華中学より来状、○午后、検定試験答案を読む、○「学生宝鑑」目次を大倉書店に送る、○夜、無事、○此日、森良三郎、測量師某等来る、

五日、午前、吉田栄次郎、磯野貞、小林法樹より来状、○島田蕃根の葬式に増上寺に赴く、鈴木充美、棚橋一郎、亀谷馨、齋藤唯信等と会見す、○帰途文部省に赴き、白仁武を訪ふ、○午后、吉田

升太郎、相馬種丸来訪す、○夜、西田敬止来訪す、○書状を菅井米吉に送る、○徳谷豊之助及び都成塾門下生より来状、

六日、午前、森良三郎来訪す、○午后、藤田季莊来訪す、○小林一郎より来状、○書状を吉武誠に送る、○夜、石原謙、写真を携来る、○菊池芳秀来訪す、○此日、宅地測量地図成る、

七日、午前、岡村勇、松村正一、辻本卯蔵より来状、○「倫理と教育」の原稿を弘道館に送る、○乃木希典来訪す、○午后、大島正徳、原平吉、浦谷熊吉、太田雅市、森良三郎来訪す、○夜、検定試験答案を読む、○此日、北尾次郎逝く、

八日、午前、藤岡作太郎、松浦一、川上生八来訪す、○磯部武者五郎より来状、○午后、書状を磯部武者五郎及び大倉書店に、端書を岡村勇二に送る、○岩崎卯太郎来訪す、○検定試験答案を読む、○夜、引続き、答案を読む、

九日、午前、森良三郎来る、○吉田夫婦、山形に赴く、○書状を徳谷豊之助、端書を磯野貞子に送る、○岡澤鉦次郎より端書を送来る、○午后、ビール壺打を吉田静致に、全壺打を松浦一に、全半打を葉山万次郎に、全半打を尾上八郎に送る、皆東亜協会の為めなり、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○井上健児より茶を送来る、○「新体詩抄」を三上参次に貸付す、○検定試験答案を読む、○力丸東山の「武学啓蒙」を読む、○夜、山鹿高恒の「武事提要」を読む、○吉田升太郎及び若木貞一より来状、○此日、柳生をして波多野精一母の葬式に真浄寺に赴かしむ、十日、午前、北尾次郎の葬式に青山墓地に赴く、○吉田升太郎及び

原田秀泰より来状、○鍵を吉田熊次に送る、○堀田璋左右より「井上通女全集」を、六盟館より谷本氏の教育書二種を送来る、○午后、浦谷熊吉、太田雅市来訪す、○雅市に写真を貸付す、○端書を井上健児及び堀田璋左右に送る、○山鹿高恒の武事提要を読む、○夜、吉田静致より来状、○津軽耕堂の「武治提要」を読む、○此日、井浚をなごしむ、○菅井米吉より来状、

十一日、午前、学習院女学部へ赴く、○「武治提要」を読む、○森良三郎来訪す、○大日本統藏経第巻第廿九套を受取る、○午后、浦谷孫三郎より来状、○葉山照子来訪す、○松浦貞固より紅茶を送来る、○人物画伝及び武道初心集を読む、○夜、勉強、○此日、井浚了る、

十二日、午前、大学に赴き、講義を始む、○午后、丁酉倫理、弘道会叢記、等を読む、○山口志げ来訪す、○夜、堀田相爾来訪す、○富田貞松より来状、○丁酉倫理及び日本及日本人を読む、○此日、木村鷹太郎より「含羞草」を送来る、

十三日、午前、山崎直三より来状、○松崎藏之助よりラッドの Commercial Ethics を送来る、○Bradley's Appearance and Reality を読む、○森良三郎来訪す、○静岡市教育会の招聘を辞す、○校正を富山房に送る、○午后、書状を建部遜吾、松崎藏之助、木村鷹太郎、松浦貞固、水谷保芳、棚橋一郎、吉田静致に送る、○山崎直三、森良三郎来訪す、○棚橋一郎より「井上通女全集」を送来る、○引続や Bradley を読む、○校正を秀英舎に送る、○柳生を芳村正乘（神習教管長）方に遣はす、○夜、広池千九郎

及び町田則文より来状、○引続や Bradley を読む、○裏側崖下の家屋を建創む、

十四日、午前、森良三郎、柳谷謙太郎、高橋直臣来訪す、○書状を山岸荷葉、湯浅廉孫に送る、○午后、水谷保芳来訪す、乃ち之をして筆記せしむ、○吉田夫婦帰来る、松村正一より来状、○裏崖下の家屋上棟式畢る、○松本美之助父より来状、○夜、Bradley, Appearance and Reality を読む、○岡倉寛三、大澤謙二より来状、○網島栄一郎逝く、享年卅五、

十五日、午前、大峽秀栄、外崎覚、遠藤隆吉、尾上八郎、宮崎虎之助、全光子、木村武雄、広江万次郎、鞍智芳章、有馬祐政来訪す、○徳谷豊之助、深作安文より来状、○書状を柳谷謙太郎、留岡幸助に送る、○校正を富山房に送る、○仏教学概論を読む、○弘道館より「仮名遣要義」を送来る、○夜、仏教学概論を読む、○此日、間端吾、深作安文妻等亦来訪す、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○秦敏之夫妻より来状、○浦谷熊吉来訪す、○午后、小笠原敬三、副島八十六来訪す、○池田久米次郎より書状及び「但馬聖人」を送来る、○赤井直好より来状、○夜、勉強、

十七日、午前、論文を作る、○午后、吉田夫婦白山御殿町に移居す、○留岡幸助及び大阪朝日新聞社より来状、○夜、子女三人を拉して神習教本祠に赴き、鎮火式を觀、遂に宣光と共に火を渡る、○芳村正乘、宮城雲洞と会見す、○大雨、

十八日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学教授会に赴く、○

齋藤木より来状、芳村正乘より神饌及び「宇宙之精神」を送来る、
○阿部維巖来訪す、○書状を芳村正乘に送る、○夜、堀田相爾来訪す、

十九日、午前、講義に大学に赴く、○龍谿觀興、望月世教来訪す、
○鵜飼金三郎来より「愛知師範同窓会雑誌」を送来る、○「農業修身」一百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、龍谿觀興、補永茂助、福井晋太郎来訪す、○書状を工藤一記、杉本美之助父、大倉書店、山崎直三に送る、○夜、高瀬武次郎、野村靖より来状、
二十日、午前、浦谷熊吉、森良三郎、コーツ来訪す、○不在中
島徳藏来訪し、且つ「倫理学要領」を送る、○午后、Bradley, Appearance and Reality を読む、○副島八十六に開国五十年史に儒教の事を寄与することを約す、○夜、引続き Bradley を読む、
廿一日、午前、進藤端堂より来状、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、書状を畔柳都太郎、中島徳藏、鹿田静七、人事興信録編纂所、大庭雄貴、上野春平、進藤端堂に送る、○川田鍊弥より「日清英学教科書」を送来る、○夜、山崎直三の招燕に上野精養軒に赴く、山崎直胤、大隈重信、菊池大麓、千坂高雅、坪内雄蔵、高田早苗等と会見す、○帝国学士院より来状、
廿二日、午前、阿部維巖来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、前川亦三郎（文栄閣）来訪す、○「釈迦牟尼伝」五百部の奥附を文栄閣に付与す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○小柳司気太より来状、○玉利喜造の「冷水浴の実験と学理」を読む、○夜、Schopenhauer, Ueber den Willen

in der Natur を読む、

廿三日、阿部維巖より来状、○森良三郎来訪す、○講義に大学に赴く、○午后、田邊元来訪す、○上野春平及び富田秀吉より来状、
○検定試験の答案を読む、○夜、吉田熊次来訪す、○検定試験の答案を読む、

廿四日、午前、小谷重より来状、○櫻井義肇、浦谷熊吉、志水次次郎来訪す、○検定試験の答案を読む、○釈悟庵より「禪と武士道」を送来る、○午后、山口志げ、山田修来訪す、○検定試験の答案を読む、○夜、山崎直三の仏国に赴くを送る、伊澤修二、坪内雄蔵、高田早苗等と会見す、○検定試験答案を読む、

廿五日、午前、学習院に赴く、天野一之亟と会見す、○阿部維巖より来状、○検定試験答案を読む、○山崎直三より Renan の哲学書を送還来る、○午后、検定試験問題を查了す、○夜、金仙宗諱より来状、○鹿田静七より姫鏡等四部の書を送来る、

廿六日、午前、講義に大学に赴く、○進藤端堂より来状、○「学生宝鑑」一千枚の奥附を大倉書店に付与す、○午后、牛込宗三寺に於て山鹿素行の法会を営む、乃木希典、野村靖、肝付兼行、松平直亮、山鹿旗之進、吉田庫三、岡田良平、白仁武等と会見す、○吉丸一昌の率来れる生徒約百名に向つて素行墓前に演説す、○岩田博蔵及び奉公会より来状、○相馬種丸来訪す、○不在中大島正徳、中野彰麿、藤田季莊来訪す、○夜、新聞を読む、
廿七日、午前、宮本右次より来状、○書状を櫻井義肇及び池田久米次郎に送る、○金参円を都成塾に送る、○凶書刊行会より新群書

類従「第九」及び続々群書類従「第四」を送来る、○午后、三島復来訪す、○書状を毎日電報社に送る、○秋田実より来状、○宮崎虎之助の「基督観」を読む、○夜、宮崎虎之助夫妻来訪す、廿八日、午前、阿部維巖及び博文館より来状、○山崎直三より絵端書を送来る、○森良三郎、浦谷熊吉来訪す、○所得税式拾五円九拾八銭を区役所に納む、○式円七拾五銭を鹿田静七に送る、○「宇宙之精神」を読む、○校正を秀英舎に、広告文を大倉書店に、端書は大村欣一及び溝淵進馬に送る、○午后、Bradley, Appearance and Reality を読む、○夜、東京府第三中学〔校〕長八田三喜より礼状来る、○Schopenhauer, Willen in der Natur を読む、廿九日、午前、加藤駒二(Coenobium (Rivista Internazionale) より来状、○K. Florenzより絵端書を送来る、○富山房より「東亜の光」の爲めに金五拾円を送来る、○埜口徳太郎、船田三郎、木山熊次郎来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、藤田季莊、岡部為吉、森良三郎来訪す、○宮坂喆宗、大村欣一より来状、○研究、○夜、加藤駒二より来状、○此日、本田幸之助逝く、享年四十六、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○志田美襄、井上淳の贈物を携来る、○不在中矢野太郎来訪す、○金子三四郎より書状及び「天国実現」を送来る、○午后、有馬祐政来訪す、○夜、「宇宙之精神」を読む、

十月

一日、午前、矢野太郎、添野信来訪す、○「宇宙之精神」を読む、

○午后、石山基威来訪す、○縫子、姉崎及び吉田を訪ふ、○叡山講演筆記を訂正す、○夜、堀田相爾来訪す、

二日、午前、学習院に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○午后、文科大学の教授会に赴く、○吉川弘文館より書状と「蔚堂譚叢」を送来る、○池田久米次郎より絵端書を送来る、○大日本史料「第十二編之十」を文科大学より受取る、○Coenobium 来る、○夜、原祐道、武士道の原稿を携来る、○富山房より来状、○阪上半七逝く、

三日、午前、講義に大学に赴く、○菅井米吉、宮本右次及び大学図書館より来状、○「学生宝鑑」第九版成る、○「東亜の光」(二の十) 出づ、○「女子修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○午后、藤原正、雨森巖之進、浦谷熊吉、大村欣一、川田鏡弥来訪す、○菅野善雄来訪す、有故不遇、○柳生をして本田種竹の葬式に会せしむ、○夜、Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を読む、

四日、午前、木山熊次郎、齋藤々三郎、安武宗兵衛より来状、○柳谷謙太郎、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○「古学哲学」一百枚の奥附を富山房に付与す、○Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を読む、○中島力造より「新著梗概」(三の上)を送来る、○午后、中村久四郎、本庄精次、小川義堂来訪す、○引続き Schopenhauer を読む、○夜、市島謙吉及び東洋高等女学校並に報徳会、歌道奨励会より来状、

五日、午前、「東亜の光」を若木貞一、河口隆太郎、秋田実、小杉熙、富田春山、村上茂登子、加瀬駒太郎に送る、○旧校正を大倉

書店に送る、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、宮城雲洞、保々清音、森良三郎、元良勇次郎妻来訪す、○引続き Bradley を読む、○夜、乃木希典陸爵、菊池大麓婦朝等の祝賀会に上野精養軒に赴く、秦政次郎、田部隆次、白石正邦、瀬川秀雄等と会見す、○帝国学士院より来状、○桑木巖翼より絵端書を送来る、○加藤弘之より来状、○加藤弘之の「吾国体と基督教」を読む、

六日、午前、Bradley, Appearance and Reality を読む、○端書を外崎寛及び歌道奨励会に送る、○午后、書状を市島謙吉に、端書の中島力造、菅井米吉、池田久米次郎、秋山悟庵、吉川半七に送る、○「中学修身」二百枚の奥附を金港堂に付与す、○研究、○夜、研究、

七日、午前、講義に大学に赴く、○不在中中山鬼骨来訪す、○午后、望月信亨より来状、○大島正徳、磯江潤来訪す、○国史眼を読む、○夜、叡山講演の筆記を訂正す、○加瀬駒太郎より松茸一箱を送来る、

八日、午前、浦谷熊吉来訪す、○叡山講演筆記を訂正す、○宮崎光太郎より葡萄酒を送来る、○黒木安雄及び佐伯俊二、東亜協会特別会員となる、○午后、書状を若木貞一に、端書を三島復及び加瀬駒太郎に送る、○「近世漢文家の特色」文章世界に出づ、○筆記を訂正す、○夜、「東亜の光」(二の十)を白仁武、志水代次郎、齋藤木、藤田葆、吉丸一昌、八田三喜に送る、○藤田季荘及び大
学図書館より来状、○筆記を訂正す、

九日、午前、叡山講演筆記を大阪朝日新聞社に送る、○講義に学習院に赴く、○午后、国史眼、公家法度、武家法度を読む、○夜、諸士法度を読む、○専ら研究、

十日、午前、講義に大学に赴く、○日本文学会、御笠銀行太宰府支店及び齋田耕陽より来状、○山田時之助、広江万次郎、大矢梅太郎、田部隆次、東亜協会に入会す、○午后、太田雅市、樋口長衛、藤田季荘、加藤玄智、古城貞吉来訪す、○秋山悟庵より来状、○宇野哲人より端書を送来る、○王仁俊より著書三部、闕鐸より「無氷閣詩」を送来る、○夜、「日本女史」を読む、

十一日、午前、森良三郎、浦谷熊吉、時田儀一來訪す、○勉強、○午后、島尾好平来訪す、○Spencer's Autobiography を読む、○夜、報徳会より来状、○Sidgwick, Political Economy を読む、

十二日、午前、森良三郎来訪す、○Sidgwick, Political Economy を読む、○午后、中井宗太郎来訪す、○跡見学校に赴き、「女子の感化」を演述す、○富山房より来状、○夜、帝国学士院に赴く、十三日、午前、木山熊次郎、五十嵐博厚、坂本嘉治馬来訪す、○午后、報徳会に赴き、「道德と経済との關係」を演説す、○夜、吉田熊次、藤井健次郎の歓迎会に大学集会所に赴く、

十四日、午前、講義に大学に赴く、○樋口長衛来訪す、○朝河貫一より来状、○午后、姉崎正治より絵端書を送る、○齋藤木より来状、○「東亜の光」(二の十)を高島平三郎及び小林法樹に送る、○宣光、腹痛を患ふ、○夜、同文館の為に丹羽瀧男をして速記せしむ、○雑誌類を読む、

十五日、午前、浦谷熊吉、本庄精次、森良三郎来訪す、○午后、福井彦次郎、中井宗太郎来訪す、○三上参次より来状、○夜、吉田東伍の「大日本地名辞書」祝賀会上野精養軒に赴く、大隈重信、久米邦武、成瀬仁蔵、島田三郎等と会見す、○文科大学及び志田美襄より来状、○吉田夫婦来訪す、○裏側崖下の家屋漸く成る、○北畠道龍逝く、

十六日、午前、学習院女学部に赴く、○佐伯俊二より来状、○浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○速記を訂正す、○跡見学校泉会より礼状来る、○午后、文科大学教授会に赴く、○不在中古川義天、清水広次来訪す、○若木貞一より来状、○「道德上より見たる衛世」と経済」を同文館に送る、○夜、書状を菅井米吉、及び遠藤隆吉に、端書を藤田季莊及び有馬祐政に送る、○幽室文稿を読む、○裏側の家屋借屋人定まる、○加藤弘之及び宮澤倉吉より来状、十七日、午前、岩田徳太郎、森良三郎、武内道純来訪す、○幽室文稿を読む、○郡山修養会より来状、○午后、秋山悟庵、浦谷熊吉、藤井健次郎、古川義天、岡部龍玄、石川岩吉来訪す、○山崎直三より絵端書、桐谷文平より書状を送来る、○「古学哲学」朱子哲学「陽明哲学」各壹百枚の奥附を富山房に付与す、○幽室文稿を読む、○夜、勉強、○遠藤隆吉より来状、○堀田相爾来訪す、○此日、松浦家天覧目録を三上参次に送る、○阿部二郎、堀内尚同、村上龍英、磯江潤、塚原秀峯、東亜協会々員となる、十八日、午前、森良三郎、浦谷熊吉、有馬祐政来訪す、○「中学修身」三百枚の奥附を金港堂に付与す、○勉強、○宣光快癒す、○

書状を堀田相爾に送る、○午后、藤田季莊来訪す、○服部活民（学生倶楽部主幹）来訪す、有故不遇、○電報を郡山教育部会、修養会及び桐谷文平に送る、○勉強、○Galen M. Fisherより来状、○夜、「東亜の光」原稿を浦谷熊吉に送る、○電報を桐谷文平に送る、

十九日、午前、七、三〇上野発、○汽車中前田慧雲と会見す、○午后、一、四八郡山着、直に和久屋に投ず、○茶話会に莅み、「日本今後」の宗教」に就いで一場の講話をなす、○夜、「修養会」に共楽座に赴き、「修養談」をなす、此日、会見するもの、石橋朗、鯨岡寅吉、慶徳多一、伊藤豊十、水谷幸太郎、○不在中「中学修身」三百部の奥附を文学社に付与す、

二十日、午前、池上安政（安積郡長）来訪す、○午前一一、〇〇頃安積郡教育部に莅み、「道德と宗教」を演説す、桐谷文平と会見す、○午后、一、五六桐谷文平と共に出發、全三、一一福島市着、直に松葉館支店に投ず、○市公会堂に於て「道德上より見たる経済と衛生」を演説す、○夜、有志者の歓迎会に莅む、○此日、二宮哲三（市長）、平島松尾（衆議院議員）、堀江九郎、鈴木謙（市助役）、木村新太郎、海野善堯と会見す、○不在中豊原清作、田中久、深作安文来訪す、

廿一日、午前、一二、〇二出發、前田慧雲と同車す、○全七、四〇上野着、○不在中弘道館より「倫理と教育」の校正を送来る、○岩田徳太郎より書状と「聖論衍義」及び、「聖論教本」を送来る、○午后、山本和吉来訪す、有故不遇、○帝国学士院及び東京毎

日新聞社より来状、○雑誌類を読む、○夜、西田幾太郎マツより来状、○国史眼を読む、

廿二日、午前、森良三郎、浦谷熊吉来訪す、○国史眼を読む、○此頃秋田実、古川義天、辻善之助、東亜協会に入会す、○午后、松本新一郎、佐藤貞三、森良三郎来訪す、○国史眼を読む、○夜、勉強、

廿三日、午前、学習院に赴く、○高等商業学校に赴く、○牧野文相より来状、○午后、研究、○蟹養齋の武家須知を読む、○森良三郎来訪す、乃ち裏側崖下左方の家屋建築を確定す、○夜、研究、○幽室文稿を読む、○此日、文部省より来状〔頁下部に「贈位」の新聞記事切抜貼付〕

廿四日、午前、「女子修身」二百部「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○講義に大学に赴く、○高島円より「寒山詩新釈」を送来る、○武田篤郎より来状、○午后、服部活民、木山熊次郎来訪す、○武教講録を読む、○「女子修身」(上級用)を訂正す、○渡部董之介より来状、○縫子、姉崎を訪ふ、○夜、「女子修身」を訂正す、○此日、笹川潔の「日本の将来」を読む、

廿五日、午前、安田旭軒来訪す、乃ち之に山鹿素行の写真を貸附す、○浦谷熊吉来訪す、○早稲田より写真師来る、乃ち之に中江藤樹と伊藤仁齋との写真を貸附す、○啓成社より「難訓辞典」を送来る、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、引続きBradley を読む、○大槻快尊来訪す、○吉田夫婦荷物を取りに来る、○夜、「女子修身」を訂正し了る、○校正を弘道館に送る、

廿六日、午前、加藤駒二、岩田僊太郎来訪す、○宮内省及び安積教育部会より来状、○岡井安次郎より借家証を入マツ来る、○午后、阿部莊二、吉丸一昌、東亜協会々員となる、○研究、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、藤田季莊及び芳賀矢一の講演あり、来会者約廿名、○松本愛重、江部淳夫等、東亜協会々員となる、

廿七日、午前、加藤玄智、田中久、豊原清作、甫守謹吾、清水広次、田中義能来訪す、○午后、研究、○森良三郎来訪す、○夜、研究、廿八日、午前、講義に大学に赴く、○「中学修身」二百九拾壹部の奥附を文学社に付与す、○和田垣謙三、東亜協会賛助員となる、○午后、「東亜の光」(二十)を富山富槌、岩田博蔵、江崎誠、湯浅廉孫、倉成久米吉に送る、○藤田季莊来訪す、○夜、校正を日清印刷会社に送る、○文部省及び西田政造より来状、

廿九日、午前、西田政造より松茸を送来る、○校正を活版所に送る、○「新編倫理」一百部の奥附を金港堂に付与す、○柳生を三井銀行に遣はす、○浦谷熊吉来訪す、○午后、校正をなす、○原稿を活版所に送る、○夜、研究、○陸義猶より来状、

三十日、午前、学習院に赴く、○不在中伊澤千世子来訪す、○午后、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○伊澤千世子来訪す、○翁草を読む、○夜、佐藤直方の「四十六士論」を読む、○研究、三十一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、岩橋遵成来訪す、○大倉書店、印税を送来る、○夜、書状を加藤弘之、西田政造に、端書を田中富士太、宮坂喆宗に送る、○「倫理と教育」の校正を覽る、

十一月

一日、午前、校正をなす、○金参円を田中富士太に送る、真野文二の爲めなり、○阪本嘉治馬来訪す、○午后、国語調査会に赴く、○校正を活版所に送る、○夜、書状を吉田静致に送る、○井上円了より来状、○Bradley, Appearance and Reality 及び Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を読む、

二日、午前、浦谷熊吉来訪す、○松本新外一名来訪す、有故不遇、○午后、Galen M. Fisher に書状に送る、○堀田相爾、伊藤朝往来訪す、○Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を読む、○国書刊行会より第二年度第九回分の図書を送来る、○夜、研究、○市島謙吉より来状、○齋藤木、東亜協会々員となる、

三日、午前、Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を読む、○宮中に参内、新渡戸稲造、和田垣謙三等と会見す、○富山房より「東亜の光」(二の十一)十部及び「古学哲学」巻部を送来る、○増田義一より来状、○吉田雪子及び井上成美来遊す、○午后、研究、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○夜、研究、

四日、午前、講義に大学に赴く、○午后、「四十六論」「忠士筆記」及び「国史眼」を読む、○夜、「学生座右銘」を作る、○「武治提要」及び「武家拾要記」を読む、

五日、午前、黒河内英二、松村正一の書状を携へて来訪す、○「東亜の光」を湯浅廉孫、岩田博藏、江崎誠、杉山富槌、本多浅治郎、若木広良、小野竹三、青木倉蔵に送る、○浦谷熊吉来訪す、○書状を井上健児及び飯沼まつ江に送る、○午后、「武治提要」及び「武

家拾要記」及び「武士訓」を読む、○山崎明之、渡部董之介の紹介状を携来る、○夜、勉強、

六日、午前、英国大使館、田中富士太、加藤駒二より来状、○書状を加藤駒二に送る、○辻本卯藏来訪す、○午后、文科大学教授会に赴く、○校正を秀英舎に送る、○富山房より「東亜の光」(二の十一)拾部を送来る、○夜、加藤駒二及び京華同窓会より来状、○松村正一より「天籟松風」を送る、○勉強、

七日、午前、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○加瀬駒太郎より来状、○午后、書状を中島力造に送る、○大島正徳、紀平正美、森山章之丞来訪す、○校正を活版所に送る、○吉田静致より来状、○夜、「吾国体と基督教」を読む、○此日、遠藤隆吉、文学博士となる、

八日、午前、山崎明之来訪す、○高須梅溪来訪す、有故不遇、○校正を活版所に送る、○岡崎遠光より来状、○家屋税六円七拾参銭、地租七拾五銭六厘を区役所に納む、○午后、勉強、○姉崎増子来訪す、○縫子、姉崎袖子を大学病院に訪ふ、○夜、勉強、○宗教論に関する諸論文を読む、○乙骨三郎、東亜協会々員となる、

九日、午前、浦谷熊吉来訪す、○午后、東亜協会講演大会を東京高等商業学校講堂に開く、聴衆約一千五百人、「学生座右銘」を配布す、○「加藤博士の『吾国体と基督教』を読む」を演述す、外に加藤弘之、上田敏、芳賀矢一各々講演をなす、肝付兼行、白仁武等と会見す、○夜、評議員、編輯委員等二十人を三河屋に招燕す、種々商議する所あり、十時頃散会、

十日、午前、加藤玄智、高須梅溪、相馬種丸、吉田升太郎、岩田櫻太郎、山口志げ子、榎並英次郎、西邨谷齊来訪す、英次郎と谷齊とは有_レ故不_レ遇、○午后、白井進(婦人名鑑編輯部)来訪す、有_レ故不_レ遇、○夜、勉強、

十一日、午前、校正を活版所に送る、○午后、浦谷熊吉、相馬種丸、後藤朝太郎、藤田季莊来訪す、○榎並英次郎来訪す、有_レ故不_レ遇、○夜、阿部維巖、渡邊真来訪す、○書状を中村安太郎に、端書を浅倉屋に、校正を活版所に送る、○此頃、柿山清、松平治郎吉、中村熊男、東亜協会々員となる、

十二日、午前、書状を加藤弘之、常盤大定、望月信亨に、端書を遠藤隆吉に送る、○常盤大定より書状と林檎とを送来る、○家秘を讀む、○午后、伯爵林友幸の葬式に青山に赴く、工藤一記、十時弥等と会见す、○不在中新田芳来訪す、○本庄精次来訪す、○義人録及び家秘を讀む、○夜、勉強、○此日、長島弘裕より来状、

十三日、午前、大島正徳、遠藤隆吉、文芸協会及び国語調査会より来状、○学習院に赴く、○Revon's De arte forali apud Japonenses を遠藤隆吉に貸付す、○午后、白石正邦来訪す、○家秘を讀む、○松浦一より来状、○夜、石原即聞より来状、○研究、十四日、午前、講義に大学に赴く、○途上戸谷某と会见す、○阿部

維巖、磯江潤来訪す、○大隈重信より来状、○松本新来訪す、有_レ故不_レ遇、○午后、立柄教俊、白井進、補永茂助、新田芳、大森万次郎来訪す、○夜、吉田修夫、望月信亨、青木倉蔵より来状、○吉田夫婦来談す、縫子共に出遊す、○校正を活版所に送る、○

青木倉蔵、小牧喬定、東亜協会々員となる、○此日、縫子、津野菊子を訪ふ、

十五日、午前、宇野東風、野田義夫、辻本卯蔵より来状、○校正を活版所に送る、○電報を長島弘裕に送る、○森良三郎、巢鴨より薩摩芋を携来る、○巢鴨の地租式円六拾五銭を納む、○午后、国語調査会に文部省大臣室に赴く、○「倫理と教育」の校正をなす、○夜、校正を活版所に送る、○勉強、

十六日、午前、八、○新橋出發、○午后、零時、一七静岡市着、直に大東館に赴く、暫時休憩の後、物品陳列場に赴き「理想と信念」を演述す、聴衆約二三百名、角谷源之助、綾部関、伊東信広、大石峰八、藤本藤平と会见す、○午后四、四五出發、○夜、九、○新橋着、○十時頃帰宅、○此日、不在中宮内省及び報徳会等より来状、

十七日、午前、松浦一、石原謙、長谷川福平、八杉貞利、五十嵐博厚、岡田次郎作、清原徳次郎、植村道次郎、村上某、加藤市三来訪す、石幡竹子より来状、○午后、堀田相爾来訪す、○夜、報徳会に赴く、重野安釋、池田謙三、内田周平、岡田良平、一木喜徳郎、留岡幸助、大久保利武、小河滋次郎等と会见す、○会食後先賢の事蹟学門等に就いて談話をなす、○此日、裏崖下第二号家屋貸借人は水野清に決定す、

十八日、午前、届書を宮内省に、書状を石幡竹子に送る、○浦谷熊吉来訪す、○尾上八郎より「鴨菖羽」を送来る、○午后、保科孝一、岡田正之、東亜協会々員となる、○書状を浦谷熊吉に送る、○

○後藤朝太郎来訪す、○勉強、○夜、永持徳一、三浦元盛、松浦一、宮崎虎之助より来状、○端書を松浦一に送る、

十九日、午前、「東亜の光」(二の十一)を小杉熙、高島平三郎、高橋正熊、小林照朗、八田三喜に送る、○森良三郎来る、○午后、研究、○端書を松浦一に、書状を浦谷熊吉に送る、

二十日、午前、学習院女学部に行く、○午后、北千住に赴き、高等小学校に於て「理想と人道」を演述す、山崎明之、武市啓(南葛飾郡長) 西本徳藏(北豊高郡視学) 小宮徳右衛門(南足立郡教育会副会長) 名倉謙藏等と会見す、○高島平三郎、新島善之及び筑前学友会より来状、○丸善より Kaempfer's History of Japan 三冊を送来る、○夜、校正をなす、[頁下部に「松陰神社申告祭」の新聞記事切抜貼付]

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○新島善之より「新島源介遺稿」を送来る、○不在中松川新平来訪す、○午后、三島復、岩田僊太郎、葉山万次郎、浦谷熊吉、坂上忠之介来訪す、○校正を活版所に送る、○夜、渡邊真来訪す、○校正を活版所に送る、○此日、検定本試験を行ふ。^マ○文部省より書状及び答案を送来る、

廿二日、午前、校正を日清印刷会社に送る、○森良三郎来る、○午後、石原謙、谷井済、今川滋海、東亜協会特別会員となる、○松浦一より来状、○国語調査会に赴く、○川田鏡弥より「日清英語学教科書」拾部を送来る、○夜、校正をなす、○鶏声堂より「社会主義綱要」を送来る、○マニユフハクチューラス生命保険会社より来状、

廿三日、午前、浦谷熊吉来る、○校正を活版所に送る、○書状を新島善之、高島平三郎に送る、○午后、コーツ夫人来訪す、○校正を活版所に送る、○書状を長島弘裕に送る、○吉田升太郎より来状、○縫子、吉田の宅に赴く、○夜、校正を活版所に送る、○検定試験答案を読む、○元良勇次郎より「全国師範学校長議要項附録」を送来る、

廿四日、午前、葉山万次郎、深作安文、木村鷹太郎来訪す、○高島平三郎及び山崎直三より各々絵端書を送来る、○宇野哲人より来状、○岡澤鉦次郎より「言文一致の取捨」を送来る、○午后、西田敬止、清水谷善照来訪す、○妻子数人、团子坂に遊ぶ、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○使者を遣はして書状を長岡半太郎に送る、○長岡氏より返書来る、○晩景、森良三郎、崖下垣根の成るを報道し来る、○検定試験答案を読了す、○夜、勉強、廿五日、午前、講義に大学に赴く、○中村安太郎、野崎隆代より来状、○水道使用料金五円を区役所に納む、○藏経書院より「大日本統藏経」第七輯第三十二套及び第三十三套を送来る、○午后、中島力造、阿部維巖、森良三郎来訪す、○加藤駒二より来状、○阪上忠之介、使者を遣来る、○山崎明之、御礼の為に来る、岡澤鉦次郎より来状、○夜、山田修来訪す、○校正を二回活版所に送る、

廿六日、午前、伊藤豊十、大橋新太郎より来状、○使者をコーツ夫人及び重野安釋宅に遣はす、○校正をなす、○上田敏、告別の為め来訪す、○午后、岩田僊太郎、岡田良平、大峽秀英来訪す、○

縫子清子俱に築地 St. Margaret Hall に赴く、○校正を活版所に送る、○夜、赤穂義人録を読む、

廿七日、午前、講義に学習院に赴く、○上田敏、出発、欧米に赴く、○大阪朝日新聞社より「叡山講演集」三部を送来る、○午后、義人録及び赤穂義士実話を読む、○岩崎卯太郎来訪す、○西浦貞章より来状、○夜、赤穂義士実話を読む、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○樋口秀雄、浦谷熊吉来訪す、○阪上忠之介より来状、○午后、亀谷行(号二省軒一)より書状及び「論語管見」を送来る、○淀野耀淳来訪す、○夜、乃木希典の招燕に偕行社に赴く、○夜、La Bible amusante 及び La vie de Jesus, par Léo Taxil を覽る、○此日、不在中小谷重、藤田季莊来訪す、学習院女学部長下田歌子非職となり、松本源太郎学習院女学部長となる、

廿九日、午前、修身科検定本試験の爲め、文部省修文館に赴く、○午后、引続試験をなす、○夜、八時頃帰宅、○不在中石川岩吉、淀野耀淳及び富山房等より来状、

三十日、午前、検定試験の爲めに文部省に赴く、○「学生宝鑑」を渡部董之介に贈る、○三好愛吉より来状、○東洋平和協会より「万国平和論」を送来る、○午后、浦谷熊吉来訪す、○保々清音より来状、○夜、William James, Pragmatism を読む、○吉田夫婦及び有馬祐政来訪す、○阪上忠之介より来状、○此頃佐々政一及び柴田孫太郎日本学会々員となる、

十二月

一日、午前、小谷重、阪上忠之介より来状、○竹内松治、安田旭軒、須藤求馬、浦谷熊吉来訪す、○午后、哲学会に大学に赴き、「意志と理想との関係」を演述す、○夜、山上御殿に会食す、○阪上忠之介及び立柄教俊より来状、

二日、午前、講義に大学に赴く、○所得税貳拾五円九拾八錢を区役所に納む、○午后、阿部維巖、浦谷孫三郎、溝淵貞重より来状、○「明治教育史序」を作る、○夜、深作安文来訪す、○安田旭軒、山鹿素行の写真を返来る、○東洋大学より招待状来る、

三日、午前、「赤穂義士実話」を読む、○浦谷熊吉来訪す、○午后、立柄教俊、山崎明之より来状、○「明治教育史序」を育英舎に送る、○「中学修身」二百枚の奥附を文学社に、「師範修身」一百枚の奥附を金港堂に付与す、○「赤穂義士実話」を読む、○「東亜の光」(二の十二)成る、○原田純一より「人生の研究」を送来る、○夜、引続き「義士実話」を読む、

四日、午前、学習院に赴く、○午后、文科大学教授会に赴く、○菊池大麓より来状、○田貝定太郎より「精神界之統一」を送来る、○夜、新公論社及び田貝定太郎より来状、○「赤穂義士実話」を読了す、○勉強、○此日、裏崖下第二家屋成つて人來住す、

五日、午前、講義に大学に赴く、○不在中溝淵貞重、森良三郎来訪す、○午后、浦谷熊吉、深谷善三郎、大田黒作次郎、渡辺徹、古城貞吉、石原謙、岩橋遵成、藤田季莊来訪す、○夜、帝国学士院、報徳会及び矢部藤吉より来状、

六日、午前、校正を同労社及び日清印刷会社に送る、○午后、国語

調査会に赴く、○書状を阿部維巖に送る、○黒田家より鴨二羽を送来る、○丸善より William James, Pragmatism を送来る、○夜、日本学会に赴く、三上参次、常盤大定講演をなす、○八田三喜、宮田修、竹内松治東亜協会々員となる、
 七日、午前、野田義夫及び開国五十年史編纂所より来状、○森良三郎、山内雄太郎来訪す、○勉強、○午后、金四拾七円八拾五円を岡本金太郎に付与す、○「中学修身」五百部、「女子修身」二百九十部の奥附を金港堂に付与す、○勉強、○「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○夜、勉強、
 八日、午前、矢野太郎、堀内尚同、藤井甚太郎、安田旭軒、吉田修夫、溝淵貞重来訪す、○深作安文より来状、直に返書を送る、○小林照朗、加藤玄智より来状、○小林照朗、吉田修夫、東亜協会々員となる、○午后、「東亜の光」を千葉鉦蔵、小野竹三、安倍叔吾、相良益次郎、小林照朗、小豆澤英男、江崎誠、岩城準太郎に送る、○縫子、書状と品物を遠藤夏子に送る、○浦谷熊吉、深谷善三郎来訪す、○書状を三好愛吉に送る、○夜、校正を活版所に送る、○広井辰太郎より来状、○礼状を亀谷行、朝吹英二、伏見勤之助に送る、○浦谷熊吉、郷里に赴く、
 九日、午前、端書を山崎明之、山内雄太郎、広井辰太郎に送る、○午后、有馬祐政来訪す、○勉強、○夜、勉強、
 十日、午前、「開国五十年史」中に編入すべき「儒教」を草す、○午後、「山陽先生行状」を読む、○吉田雪子来遊す、○立柄教俊来談す、○勉強、○夜、千葉鉦蔵及び易風社書房より来状、○引続

き勉強、○暴風、怒濤の如し、○榎本勝多より興風会委員当選の報来る、○此日、奈良哲次郎来訪す、
 十一日、午前、学習院に赴く、○弘道館より来状、○午后、長嶋弘裕、西澤之助、野田義夫より来状、○勉強、○奈良哲次郎来りて原稿を要求す、有故不_レ与、○夜、日之出生命保険会社より来状、
 十二日、午前、講義に大学に赴く、○濱尾総長と会見す、○午后、堀内尚同、永持徳一、藤田季荘、木山熊次郎来訪す、○夜、深作安文来訪す、○安田旭軒をして速記せしむ、○加瀬駒太郎及び大阪時事新報社より来状、○書状を日之出生命保険会社に送る、
 十三日、午前、「東亜の光」(二の十二)を藤井健治郎、大森金五郎、高橋正熊、瀬川秀雄、本多浅次郎に送る、○森良三郎来訪す、○午后、書状を岡田良平、宇野東風に送る、○桑田芳蔵来訪す、○山崎洋服店手代来る、○森雄一、桑田芳蔵東亜協会特別会員となる、○夜、坪井九馬三より来状、○勉強、○裏崖下第二家屋は佐藤金次郎に貸借することに確定す、
 十四日、午前、隆文館より来状、○安田旭軒、速記を携来る、○勉強、○午后、深作安文、堀田相爾、曾根松太郎来訪す、○藤井健次郎より来状、○夜、深作安文、相良益次郎より来状、○石川岩吉をして談話を筆記せしむ、
 十五日、午前、大森金五郎より来状、○中井宗太郎来訪す、○速記の訂正をなす、○午后、姉崎袖子、鳥海岩松来訪す、○飯沼松枝より真綿及びかじか、伊澤氏より雉子、唐墨及び清茶を送来る、○夜、藤田季荘より来状、○大江孝之、宮地巖夫、東亜協会々員

となる、○姉崎正治絵端書を送来る、○速記を訂正す、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○深作浅次郎より来状、○午后、

浦谷熊吉、星野小次郎来訪す、○校正を活版所に送る、○夜、勉強、

十七日、午前、勉強、○午后、巢鴨より大根を送来る、○夜、三浦

元盛、岡田良平より来状、○勉強、○「開国五十年史」中の儒教
成る、

十八日、午前、学習院に赴く、○織田得能来訪す、○東京音楽学校

長湯原元一より来状、○午后、遠藤隆吉より来状、○夜、女学部の
の送迎会に富士見軒に赴く、○此日、富山房より手形を送来る、

○中澤澄男、東亜協会々員となる、○学習院及び女学部より手当
を受取る、○雉子一羽を姉崎宅に贈る、

十九日、講義に大学に赴く、○三上参次を史料編纂所に訪ふ、○柳

生を東海銀行に遣はす、○午后、龍谿觀興、中島徳藏、加藤玄智、

浦谷熊吉夫妻来訪す、○夜、速記を訂正す、

二十日、午前、「追贈されたる四大教育家」を安田旭軒に付与す、

○山本和吉来訪す、○三宅大太郎より来状、○勉強、○午后、宮
内省より来状、○「儒教」を副島八十六の使者に付与す、○山口

志げ来訪す、○夜、有馬祐政来訪す、○新井勝弥をして速記せし
む、○尾上八郎、愛媛教育会及びマヌフハクチューラスより来状、

○此日、星野恒に書状を送り、直に返事を得、○有馬祐政の履歴
書を乃木希典に送る、○手塚光貴、東亜協会々員となる、

廿一日、午前、書状を乃木希典に送る、○川田鏡弥より鴨二羽を送
来る、○宮内省に赴き、賜物を拝領す、芳川顕正、有賀長雄、林

博太郎、伴正臣、中村秋香、宮地巖夫等と会見す、○午后、深作

安文及び帝国大学より来状、○小谷重、河出静一郎来訪す、○校

正を活版所に送る、○夜、帝国学士院及び大隈重信より来状、○
経済雑誌社より「大日本名家肖像集」を送来る、○此日、河出静

一郎、東亜協会々員となる、○益之進風邪に罹る、

廿二日、午前、竹内松治、堀内尚同、吉田熊次、樋口長衡、山本和
吉、三宅大太郎、遠藤隆吉、阿部維巖来訪す、○午后、三宅大太郎、

山鹿旗之進、藤井健治郎来訪す、○夜、「宗教以上の道徳」を中
島徳藏に、「教育雑感」を石川岩吉に送る、○此日、三宅大太郎、

藤井健治郎、東亜協会特別会員となる、
廿三日、午前、金式円式拾壹銭を学習院女学部に送る、○石幡登美

子、心理学通論を携来る、○浦谷熊吉来訪す、○午后、校正を活
版所に送る、○須藤求馬来訪す、○育英舎より「明治教育史」を

送来る、○夜、校正を活版所に送る、○此日、新聞紙報して云く、
十一月十二を以て家出して行衛不明なりし東京商工銀行頭取山田

忠兵衛の屍体、鎌倉円覚寺内富陽院の旧井戸に発見せらる、実に
廿二日なり、実業家の不幸、可_レ想焉、

廿四日、午前、柳生を文部省と大学に遣はす、○西田政造、原平吉
来訪す、○午后、柳生を日本銀行及び三井銀行に遣はす、○吉田

宅に赴く、○夜、文部省より「職務・勉強ニ付其賞トシテ金百五十
円下賜」の辞令書来る、○宮内省より新年宴会の御招待状来る、

○校正をなす、○外崎覚及び櫻井錠二より来状、
廿五日、午前、金式拾円の為換を西正寺に送る、○校正をなす、○

富尾木知佳よりビール壺箱、清水満之助より鶏卵箱を送来る、○
 午后、「中学修身」七百八拾四部の奥附を文学社に付与す、○姉
 崎宅より鯛を送来る、○夜、中村恭平より来状、○校正を活版所
 に送る、○此日、満五十二歳、

廿六日、午前、金港堂及び桂有文より来状、○石川幸吉より鮭二尾
 を送来る、○校正を活版所に送る、○女中に反物及び金五拾銭宛
 を贈与す、○午后、富尾木知佳、松本文三郎、手塚光貴、尾上八
 郎、浦谷熊吉、梶山彬、小清水金蔵、池田三男也、秋山悟庵、藤
 田季莊、谷口哲介来訪す、○六盟館及び富山房より各々ビール壺
 箱を送来る、○夜、深作安文、原祐道来訪す、○湯原元一より「中
 学唱歌」を送来る、○森山章之丞及び湯原元一より来状、

廿七日、午前、浦谷熊吉、国友文次郎外一名来訪す、○西正寺檀家
 総代及び大澤謙二並に三上参次より来状、○森内政昌遺族吊慰料
 参円の為換と書状を西田幾太郎マヅに送る、○校正を活版所に送る、
 ○成美堂、弘道館、村松喜太郎より歳暮の贈物来る、○午后、手
 塚光貴、日比野寛、天野一之丞、山崎明之、池田三男也来訪す、
 ○三省堂より鶏卵箱を送来る、○夜、渡部董之介より来状、○西
 田政造来訪す、有故不遇、

廿八日、午前、藤田季莊より来状、○勉強、○齋藤基次郎より生鴨
 二羽、植木屋より盆栽を送来る、○姉崎増子来訪す、○午后、佐
 藤金造来訪す、○生鴨二羽を入沢達吉マヅに送る、○渡辺真に薬価を
 払ひ、診察料を送る、○国光社よりビール壺箱、元良氏より鶏卵
 箱を送来る、○夜、吉田雪子、キウラソー二瓶を携来る、○文科

大学及び富尾木知佳より来状、

廿九日、午前、井上成美、織田祐萌、齋藤謙蔵、平川泉吉来訪す、
 ○飯沼源次郎、三宅大郎マヅ、日之出生命保険会社等より来状、○浅
 草苔を富田春山、井上道喜、齋藤儀八に送る、○年始状を数百枚
 出だす、○午后、山鹿素行贈位報告祭に宗参寺に赴く、○不在中
 望月信亨、石橋臥波、及び笹川老母来訪す、

三十日、午前、鷲尾順敬、山鹿誠之助、齋藤謙蔵来訪す、○齋藤謙
 蔵をして筆記せしむ、○ビール壺打宛を松浦一、小林一郎、尾上
 八郎、葉山万次郎に、鴨一羽を有馬祐政に、鶏卵壺箱宛を佐々木
 信綱及び伊澤修二に、砂糖壺樽を森良三郎に送る、○柳生を三井
 銀行に遣はす、○午后、陽明哲学の補正を作る、○通俗農業道德
 を閲す、○夜、松本文三郎より来状、○西田政造来訪す、

卅一日、午前、ビール半打を吉田熊次に、乾葡萄を笹川氏に送る、
 ○坂本嘉治馬、浦谷熊吉来訪す、○柳生を勸工場に遣はす、○午
 后、「陽明哲学の補遺」を富山房に送る、○間端吾及び田中義能、
 各々贈物を携へて来訪す、○「東亜の光」(三の二)成る、○夜、
 過去一年間の事を瞥見す、○購入書籍総計五拾貳部(内洋書七部)
 ○寄贈書類総計百七拾四部(百八拾七冊)○七月以後の教科書帳
 印総数は、女子一千〇九十、農業一百、師範二百、倫理一百、中
 学一千、之を六月以前の分と合計すれば、中学修身式万七千貳百
 八拾参部、女子修身式万四千九百九拾部、新編倫理六百部、農業
 修身九百部、商業修身五百部、師範修身六百部、合計参万四千八
 百七拾参部、(以上金港堂)、○六月以後文学社の中学修身検印総

数は式千式百參拾五部、之を六月以前の分と合計すれば、式万千式百九拾九部、○兩者を合計すれば五万六千七百七拾式部、

年未到來物如左

ビール壺打	六盟館	鶏卵一箱	秋山悟庵
ビール壺打	富山房	鴨四羽	黒田家
ビール壺打	富尾木	反物一ツ	磯江
ビール壺打	国光社	乾葡萄	志水代次郎
支那茶、支那墨及び雉子一ツ	隆文館	鮭二尾	伊沢修二
鶏卵壺箱	清水満之助	味淋漬一樽	石川幸吉
全上	弘文館	ビスケット一缶	成美堂
鴨一羽及びビスケット一ツ	深作安文	蟹	龍谿
栗饅頭	飯沼松枝	兎	成美
川魚と真綿	浅倉屋	鶏卵一箱	三省堂
菓壺箱	姉崎	砂糖一樽	文学社
鯛壺尾	鳥海岩松	湯吞一箇	佐藤金造
菓子一箱	野田義夫	鰹節	村田五郎
反物一ツ	川田鏡弥	真綿	浦谷内
鴨二羽	西田政造	生鴨二羽	齋藤基次郎
桑酒及び缶詰	植木屋	キュラソー二瓶	吉田
植木鉢	元良	菓子一箱	石橋臥波

ビール半打 佐々木信綱 鰹節 実業之日本

菓物及び漬物 笹川 菓子 伊藤朝往

狸皮 平川 ハンケチ一箱 望月信亨

ビール半打 林平次郎 キジ二羽 大笹村

乾葡萄 磯辺弥一郎 玉子 田中義能

甘露二瓶 間端吾 漬物一樽 金港堂

総計 四拾九ヶ所より来る、

外に森良三郎より蜜柑箱を送来る

故に総計五十ヶ所

異軒日記

明治四十一年（西曆一九〇八）

一月

一日、午前、十時參内、十時三十分拝賀し、尋いで青山御所に赴く、
 ○吉田熊次、井上成美、浦谷熊吉来賀す、○午后、齋藤基次郎来賀す、○真浄寺より、菓子、富田順吉より翫具を送来る、○夜、年始状を認む、○此日、来賀者一百參拾八人、賀状、端書一百九拾枚、封書六拾四通、総計式百五拾五通、
 二日、午前、杉山富槌より来状、○堀田相爾来訪す、○午后、原田秀泰来訪す、○齋藤謙蔵より来状、○夜、「実業家と精神教育」の訂正を齋藤謙蔵に送る、○此日、来賀者五拾參名、賀状、端書

一百式拾六枚、封書參拾八通、總計百六拾四通、

三日、午前、年賀に杉浦重剛、佐々木祐太郎、中野初子、寺野精一、箕作佳吉、三宅秀、狩野亨吉、菊池大麓、高嶺秀夫、大熊氏広、塚本靖、伊澤修二、久保田讓、濱尾新、澤柳政太郎、星野恒邸に赴く、○午后、書状を伊藤豊十、相良益次郎に送る、○夜、藤田

季莊來訪す、○書状を宇野哲人に送る、○此日、來賀者廿五名、賀状、端書七拾四枚、封書拾八通、總計九拾式通、○林勃爾來遊す、四日、午前、年始に加藤弘之、金子堅太郎、乃木希典、牧野伸顯、鍋島直大、黒田長成邸及び独逸大使館に赴く、○午后、福來友吉、吉田雪子來訪す、○夜、年始状を發送す、○此日、來賀者三名、賀状、端書七拾七枚、封書拾六通、總計九拾參通、

五日、午前、友枝高彦來訪す、○新年宴會に宮中に赴く、辻新次、肝付兼行、真野文二、片山国嘉、林博太郎等と會見す、○不在中、岩田僊太郎真綿を齎して來訪す、○帝國學士院より來状、○午后、中黒に赴き、写真を取る、○書状を牧野伸顯、石川幸吉、飯沼まつ江に送る、○「東亜の光」を牧野伸顯、宇野哲人に送る、○夜、年始状をケーベル、エック、コーツ、デニング、グラマツキ、及び佐々木高行に送る、○此日、來賀二名、賀状、端書八拾六枚、封書拾八通、總計一百〇四通、

六日、午前、吉田熊次來訪す、○年始状を發送す、○午后、電話使用料拾六円五拾錢を郵便局に納む、○柳生を東海銀行に遣はす、○広井辰太郎及び曹洞宗大學林生徒某來訪す、○佐伯俊二より來状、○夜、「東亜の光」(二の十二)を永井万太郎及び杉浦浩太郎

に送る、○年始状を發送す、○校正をなす、○此日、賀状を検するに、端書三十一枚、封書六通、總計三十七、

七日、午前、正誤文を朝報社に送る、○午后、校正をなす、○松村正一より來状、○校正を活版所に送る、○夜、新聞雜誌を読む、○此日、賀状を検するに、端書十二枚、封書二通、總計十四通、八日、午前、佐々木信綱來訪す、○蟹江操子より來状、○午后、今福忍、小林郁、浦谷熊吉來訪す、○塚原政次より英文論文 (Problem of the Relation of Intensity of Sensation to attention) を送來る、○書状を岡田良平に送る、○夜、校正を活版所に送る、○国史眼を読む、○帝國學士院より來状、○此日、賀状、端書十七枚、封書三通、總計式拾通、

九日、午前、校正を活版所に送る、○国史眼を読む、○午后、姉崎増子、藤田季莊、黒河内英二來訪す、○杉本美之助より漬物壺樽を送來る、○国史眼を読む、○龍谿觀興來りて、Hofding's Ethik を返す、○縫子、吉田の宅に赴く、○夜、国史眼を読む、○此日、賀状、端書五枚、封書三通、總計八通、

十日、午前、校正を活版所に送る、○国史眼を読む、○午后、校正をなす、○あさひより鮭を送來る、○縫子、コーツの茶話會に赴く、○式部職より招待状來る、○夜、相良益次郎より來状、○校正を活版所に送る、○此日、賀状、端書五枚、○相良益次郎、東亜協會々員となる、○工科大学教師ウエスト逝く、

十一日、午前、Pragmatism by William James を読む、○午后、浦谷熊吉、山鹿誠之助、藤崎禪智、木全一、磯野七平來訪す、○山

鹿誠之助、山鹿門人 井上寅之介、本澤五郎、松山雲八、近藤輝治及び山鹿文五郎の謝辞を齎し来る、○縫子、吉田笹川及び姉崎の三家を訪うて帰る、○小杉熙より蟹、井上健児よりギスケ煮三箇を送来る、○中黒より写真を送来る、○夜、岡田良平、小杉熙、辻新次より来状、○校正を活版所に送る、○瀬川秀雄、浅野和二郎、東亜協会々員となる、○此日、賀状、端書五枚、封書壱通、総計六通、

十二日、午前、梶原彬、豊原清作来訪す、○国史眼を読む、○午后、平川泉吉来訪す、○三輪福治より来状、○夜、帝国学士院に赴く、○櫻井時太郎より来状、○不在中大島正徳来訪す、○此日、賀状、端書五枚、封書壱通、総計六通、○櫻井時太郎、東亜協会々員となる、

十三日、午前、書状を富尾木知佳に、端書を小杉熙、内山正如、辻新次、志水代次郎に送る、○「宗教以上の道徳」丁酉倫理に出づ、○活宗教社より来状、○午后、浦谷熊吉、藤崎禪智、木全一、磯野七平、岩崎歌郎、小谷重来訪す、○柳生をして森篤次郎の葬式に赴かしむ、○国史眼を読む、○「女子修身」(上級用) 成る、○夜、磯野貞子、立柄教俊より来状、○国史眼を読む、○大島正徳来訪す、○水月哲英より絵端書の年始状を送来る、○橋本雅邦逝く、享壽七十五、

十四日、午前、国史眼を読む、○浦谷熊吉来訪す、○松平円次郎、東亜協会々員となる、○「実業家と精神修養」愛媛新報に出づ、○午后、立柄教俊、磯野七平来訪す、○勉強、○富山房より校正

を送来る、○野田書店より海苔を送来る、○夜、勉強、○「陽明哲学」補遺の三の校正をなす、○此日、通信大臣山県伊三郎、大蔵大臣阪谷芳郎辞職す、○西村捨三逝く、

十五日、午前、学習院に赴く、○八木光貫、深澤伊三郎、山鹿高三より来状、○宣光、病気の為に臥す、○雪ふる、○午后、文科大教授会に赴く、○不在中土井林吉来訪す、○校正を富山房に送る、○夜、勉強、○地震、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○石川幸吉及び大学図書館より来状、○午后、James, Pragmatism を読む、○高橋直臣来訪す、○渡辺真来診す、○柳生をして新村猛雄(出の父)の葬式に谷中に会せしむ、○帝国教育会に赴く、贈位先哲祝典大会を二月廿三日を以て東京高等商業学校講堂に開くことに決す、○不在中藤田季莊来訪す、○夜、James, Pragmatism を読む、○此日、来賀者名、賀状、端書壱枚、

十七日、午前、James, Pragmatism を読む、○藤崎禪智来訪す、○午后、浦谷熊吉来訪す、○引続々James, Pragmatism を読む、○若木広良及び高橋正熊、東亜協会々員となる、○縫子、間千代を訪ふ、○夜、小西重直より来状、○臯月会より招待状来る、○書状を加瀬駒太郎に送る、○大島正徳及び日之出生命保険会社より来状、○宣光稍々軽快、

十八日、午前、「中学修身」五百部、「女子修身」三百六拾部の奥附を金港堂に付与す、○書状を帝国教育会書記に送る、○「東亜の光」の彙報を草す、○午后、鳥居龍蔵蒙古より賀状を送来る、○

書状を日之出生命保険会社に送る、○速記の訂正をなす、○夜、帝国教育会より来状、○校正を富山房に送る、○書状を友枝高彦に送る、

十九日、午前、小林照朗、安田式一、加藤玄智、小林義則、原平吉来訪す、○柳生を吉田宅に遣はす、○午后、辻本卯藏来訪す、○大隈重信より「開国五十年史」(上巻)を送来る、○James, Pragmatism を読む、○夜、引続をPragmatism を読む、

二十日、午前、講義に大学に赴く、○杉本美之助父より来状、○時枝誠之米国より賀状を送来る、○稲垣満次郎西班牙より賀状を送来る、浦谷熊吉来訪す、○午后、有馬祐政、深作安文、樋口かつみ来訪す、○宇野哲人より来状、○恩地轍、瀧村斐男、東亜協会々員となり、大隈重信、賛助員となる、○夜、国史眼を読む、○校正をなす、○深作安文再び来訪す、

廿一日、午前、校正を活版所に送る、○午后、校正を富山房に送る、○帝国学士院より来状、○浦谷熊吉来訪す、○夜、勉強、○幽室文稿を読む、

廿二日、午前、学習院に赴く、○松本源太郎と会見す、○午后、前田慧雲、大島正徳、岩田僊太郎来訪す、○坂本馬太郎より来状、○夜、勉強、

廿三日、午前、講義に大学に赴く、○吉田修夫、堀田相爾、源某等と大学に会見す、○文学士守屋恒三郎、全乗杉嘉壽、東亜協会々員となる、○午后、古城貞吉、藤田季莊来訪す、○書状を松本源太郎に送る、○夜、校正を富山房に送る、○James, Pragmatism

及び蘭洲瑣語を読む、

廿四日、午前、書状を白井光太郎、齋田耕陽、金子堅太郎に送る、○前原仙次郎より来状、○所得税金式拾五円九拾八錢、市街宅地租金參円參拾六錢八厘を区役所に納む、○平田和夫、印度カルカッタより賀状を送来る、○午后、谷慶祐、間千代、岩橋遵成来訪す、○縫子、吉田宅に赴き、帰途姉崎宅を訪ふて還る、○辻本卯藏より来状、○James, Pragmatism を読む、○端書を吉田修夫、有馬祐政、松平乗統、杉本美之助父に送る、○夜、James, Pragmatism を読む、○隣家の松本某来訪す、○豊原清作より来状、

廿五日、午前、白井光太郎より来状、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○「師範修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、常盤大定より鴨壺羽を送来る、○宮崎虎之助夫妻来訪す、○書状を常盤大定に送る、○勉強、○富山房より「国民性十論」を送来る、○夜、吉田熊次来訪す、○蠣瀬彦藏及び神田左京より賀状を送来る、○勉強、○縫子、宣光及び益之進を携へて井上成美を訪ふて帰る、○松壽院一條順子(忠香公後室)薨去。

廿六日、午前、友枝高彦、安倍叔吾、藤山茂実、安田英吉より来状、○浦谷熊吉、矢野太郎、渡邊徹、水島耕一郎、久保田辰彦、梶山彬来訪す、○安倍叔吾、東亜協会々員となる、○谷慶祐、水島耕一郎「東亜の光」編輯委員となる、○午后、松浦一、井上知博、齋藤精輔来訪す、○丁酉倫理会に赴く、浮田和民、吉田賢龍、宮田修、千葉鉦藏等と会見す、○夜、古賀快象、より来状、○Bradley,

Appearance and Reality を読む、○此頃「学生宝鑑」を教育博物館に、「朱子哲学」を白井光太郎に送る、

廿七日、午前、講義に大学に赴く、○三刀谷扶綱、浦谷熊吉、齋藤基次郎母来訪す、○午后、三島復、姉崎袖子来訪す、○在桑港の内田融より賀状来る、○小野元彦、黒木安雄の書状を携来る、○長連樹、相馬政雄より来状、○函峰文鈔を読む、○夜、「倫理と教育」の原稿を整理す、○此日、清子の写真、丸木より来る、○川田繁太郎より「天地人生之秘義」を送来る、

廿八日、午前、紀平正美より来状、○井上成美来訪す、○「倫理と教育」の原稿を整理す、○「実業家と精神修養」讃岐日々新聞に出づ、○午后、「倫理と教育」の続稿を活版所に送る、○「中学修身」の訂正をなす、○夜、「中学修身」五百五拾部の奥附を文学社に付与す、○「中学修身」訂正の原稿を文学社の使者に託す、○成田衡夫、酒井真より来状、○勉強、

廿九日、午前、学習院に赴く、○深作安文、山田佐太郎より来状、○「国定教科書と漢字」東京日々新聞に出づ、○午后、「伝習録」(下巻)を小野元彦に貸付す、○一家皆種痘をなす、且々高子は之を除く、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○柳生を高等師範附属中学に遣はす、○夜、引続き Bradley を読む、○辻新次、及び金港堂より来状、○塩谷温、独国より賀状を送来る、○「学生座右銘」を乃木希典に送る、○国史眼を読む、三十日、午前、齋藤精輔来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○木村鷹太郎より「美的道德」を送来る、○午后、堀内

尚同、本庄精次来訪す、○引続き Bradley を読む、○夜、清水彦五郎を訪ふ、○引続き Bradley を読む、

卅一日、午前、私立高知商業学校より来状、○書状を松浦寅三郎に送る、○浦谷熊吉来訪す、○Bradley, Appearance and Reality を読む、○午后、James, Pragmatism 及び Bradley, Appearance and Reality を読む、○史料編纂掛より「山鹿素行日記」を送来る、○夜、勉強、○此日より「大阪朝日新聞」を取る、○此月来賀者式百貳拾貳人、賀状七百拾通、総計九百參拾貳、○到来物は如左、

ぎすけ煮三ツ	井上健児	風呂敷二ツ	大倉書店
鮭	あさひ	香茸	立柄
菓子(カル、ス)	原田秀泰	蟹	小杉熙
真綿	岩田僊太郎	八千代袋	磯野
菓子及手帳	浅倉	真綿	ゆう
漬物壺樽	杉本美之助	海苔	野田書店
菓子	真浄寺	菓子	加藤玄智
玩具	富田順吉	鴨葱羽	常盤
菓子	樋口	海草	山田修
ジャボン外二品	間千代	カステイラ	齋藤基次郎
浅草苔	大工	仏手柑二ツ	岩橋遵成
藍胎陶器	谷慶祐		

総計貳拾參種

二月

一日、午前、使者を田所美治の許に遣はす、○勉強、○幸田露伴の「秒針」を読む、○午后、清子を拉して井上大使歓迎会に赴く、乙竹岩造、大森房吉、入沢達吉、田中館愛橘、野尻精一、福原鎌二郎、藤井健治郎、加藤正治、箕作元八等と会見す、○夜、十時過帰宅す、○大学図書館より来状、

二日、午前、葉山万次郎、長井真琴、加藤玄智、弥富濱雄、岩田僊太郎、紀平正美来訪す、○桑木巖翼、新村出、及び石橋友次郎より賀状を送来る、○午后、月島の宮崎虎之助宅に至る、洪沢栄一、寺尾亨、中野覚道、安孫子貞治郎、高瀬敏徳、綿貫吉秋等と会見す、○夜、七時帰宅す、○此日、「東亜の光」(三の二)成る、

三日、午前、講義に大学に赴く、○岩田僊太郎より来状、○午后、吉田熊次、原平吉来訪す、○書状を弥富濱雄に送る、○田貝定太郎より来状、○独和字典を訂正す、○「農業修身」八百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、「初等勅語教本」を訂正す、○加藤弘之より来状、

四日、午前、田貝定太郎の「精神界の統一」一名「全霊神道論」を読む、○書状を田貝定太郎に送り、「精神界の統一」を牧野伸顕に送る、○午后、磯江潤、立柄教俊、浦谷熊吉来訪す、○東明館に赴く、○宮内省より紀元節の招待状来る、○夜、国史眼を読む、○弥富濱雄及び原平吉より来状、○矢野太郎、澤野祖天、新保翼、東亜協会々員となる、

五日、午前、学習院に赴く、○松本源太郎及び松本愛重と女学部に会見す、○「女子修身」二百四拾部の奥附を金港堂に付与す、○

大倉書店より「故事成語大辞典」を送来る、○井上健児及び辻本卯藏より来状、○午后、大学教授会に赴く、○宇野哲人より来状、○夜、帝国学士院より来状、○勉強、○此日、宇野哲人、東亜協会々員となる、○城井久之助、崖下第二家屋に移来る、

六日、午前、講義に大学に赴く、○長島弘裕、金澤智融、金尾文淵堂より来状、○午后、寺澤巖男、梶山彬、松浦一、藤田季莊来訪す、○書状を弥富濱雄に送る、○吉田熊次より来状、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、加藤吉次郎より来状、

七日、午前、James, Pragmatism を読む、○吉田静致より「倫理学講和」を送来る、○中村熊男及び副島八十六と電話、○使者を時計屋に遣はす、○大日本統藏経第巻輯第三十六及三十七套を受取る、○午后、国語調査会に赴く、○深作安文来訪す、○興学会に赴く、○夜、諸雑誌を読む、○此日、検定委員被免、

八日、午前、笹川種郎、浦谷熊吉来訪す、○松浦寅三郎より来状、○午后、高崎正風来訪す、○「東亜の光」(三の二)を牧野伸顕及び洪沢栄一に送る、○大島義修及び吉岡郷甫、東亜協会々員となる、○夜、弥富濱雄、芹澤政衛等より来状、○「藤樹先生賛」を作る、

九日、午前、杉本美之助、田中伊藤次、矢野太郎、手塚光貴、遠藤夏子、隆文館手代来訪す、○市川代治、独逸より賀状を送来る、○午后、長澤六郎より「絡石の落葉」二冊を送来る、○勉強、○山鹿素行の写真を水谷景長に付与す、○夜、勉強、○此日、宣光は腹痛の為に、益之進は風邪の為に臥蓐、○田中伊藤次、東亜協

会々員となる、

十日、午前、講義に大学に赴く、○午后、有馬祐政、岩田僊太郎来訪す、○杉本七百丸より来状、○浮田和民、椎尾弁匡、東亜協会々員となる、○夜、深作安文来訪す、○「初等勸語教本」を修正す、十一日、午前九時頃参内、先づ賢所参拜、次いで宮中の宴会に赴く、辻新次、中隈敬蔵、斯波淳六郎、田中芳男、戸水寛人、小牧昌業等と会见す、○午后、浦谷熊吉、中村熊男、吉田雪子来訪す、○「中学修身」壹万千部及び「女子修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○同文館より「教育大辞書」第四巻を送来る、○本庄精次、東亜協会々員となる、○正法輪社より来状、○夜、吉田熊次来訪す、

十二日、午前、書状を帝国学士院に送る、○学習院に赴く、○松本源太郎と女学部にて会談す、○午后、縫子、吉田宅に至る、○勉強、○夜、勉強、

十三日、午前、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○午后、井上成美、八木光貫、秋山悟庵、葉山万次郎来訪す、○杉谷泰山、高田儀光、東亜協会々員となる、○夜、「勸語教本」を訂正す、○此日、井上勝之助より来状、○正勝、眼病に罹る、

十四日、午前、文学社及び葉山万次郎等より来状、○笹川種郎、吉田雪子来訪す、○正勝眼病軽快、○「勸語教本」を訂正す、○府税地租割拾六錢八厘を区役所に納む、○午后、「中学修身」を訂正す、○端書を戸川安宅、高桑駒吉、外崎覚、和田万吉、岩田僊太郎等に送る、○坂本嘉治馬と電話、○書状を文学社に送る、○

山鹿旗之進より素行会名簿を送来る、○夜、八木光貫結婚の披露に上野精養軒に赴く、帰途山上御殿に寄り、黒板勝美と会见す、○「中学修身」を訂正す、

十五日、家屋税貳円〇六錢を区役所に納む、○James, Pragmatismを読む、○午后、浦谷熊吉、岩田僊太郎、岡島誘、竹井駒哲来訪す、○立柄教俊、岩田僊太郎、小西重直、東亜協会々員となる、○「中学修身」訂正の原稿を文学社に付与す、○春枝、雪子と共に仏和女学校に赴く、○夜、James, Pragmatismを読む、

十六日、午前、竹内松治、秋山悟庵、杉本美之助、補永茂助、田中伊藤次来訪す、○James, Pragmatismを読む、○「中学修身」一千部「女子修身」二千部の奥附を金港堂に付与す、○石山福治より来状、○午后、James, Pragmatismを読む、○富尾木知佳来訪す、○「中学修身」の原稿を文学社に付与す、○勉強、○夜、友木饒、磯野七平、木全一、藤崎禅智より来状、○勉強、

十七日、午前、講義に大学に赴く、○濱尾新を総長室に訪ふ、○黒旋風の月旦、東亜新報に出づ、○午后、近藤次繁と山上御殿に会见す、○葉山万次郎来訪す、○縫子、吉田宅に赴く、○新仏教を読む、○夜、山岡鋳舟の「武士道」を読む、

十八日、午前、山岡鋳舟の「武士道」を読む、○浦谷熊吉、深作安文来訪す、○中村春二、渡辺丹治、東亜協会々員となる、○午后、齋田耕陽及び小石川有志者より来状、○引続き「武士道」を読む、○岡島誘、「西洋哲学史」を寄贈す、○夜、「武士道」を讀了す、○Robert-Kastorより来状、

十九日、午前、学習院に赴く、○深作安文より来状、○千葉鉦蔵、東亜協会々員となる、○大澤謙二の「本邦人の酒量」を読む、○午后、三種の雑誌を大澤謙二に返す、○「中学修身」(巻一)一千部の奥附を文学社に付与す、○小清水金蔵より来状、○夜、齋藤庸一郎、亀谷馨及び帝国学士院より来状、○川田鏡弥より「日本程朱学の源流」亀谷馨より「吾国体と宗教」を送来る、○勉強、二十日、午前、講義に大学に赴く、○三上参次を史料編纂所に訪ふ、○不在中浦谷熊吉来訪す、○大江孝之及び安倍叔吾より来状、○磯江潤来訪す、○午后、浦谷熊吉、色川国士、加藤玄智、岩田僊太郎、田中経太郎来訪す、○「女子修身」三千部の奥附を金港堂に付与す、○日就社及び小林一郎より来状、○「中学修身」を訂正す、

廿一日、午前、柳生を森良三郎宅に遣はす、○笹川種郎より来状、○「中学修身」を訂正す、○浦谷熊吉来訪す、○素行家譜を読む、○午后、田中経太郎、平川泉吉来訪す、○「中学修身」の原稿を文学社に付与す、○縫子、伊澤元良二氏宅を訪ふ、○齋藤儀八より小魚を送来る、○薄暮三刀谷扶綱来訪す、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、久米邦武、藤岡勝二講演す、烏丸伯爵、西田敬止、村岡素一郎、外崎寛、松本愛重等と会見す、○三上参次より来状、○廿二日、午前、浦谷熊吉来訪す、○柳生を帝国教育会に遣はす、○大森金五郎、市川源三、西田敬止外二名、東亜協会々員となる、○船越やすより来状、○午后、文学社より「中学修身」(巻一)三部を送来る、○「中学修身」二千三百部の奥附を文学社に付与

す、○「中学修身」(巻二)原稿の残部を文学社に付与す、○齋藤精輔、田内八百久万、井上成美来訪す、○夜、友枝高彦、白河次郎より来状、

廿三日、午前、杉本美之助、菓子箱を贈来る、○贈位先哲祝典大会に高等商業学校に赴く、高島平三郎、井口あくり子、松平直亮、谷千城、三宅雄二郎、内田周平、等と会見す、○午后、四時頃帰宅、○新聞を読む、○夜、引続き新聞を読む、○此日、東京医学会より「大澤謙二五年祝賀論集」を送来る、

廿四日、午前、谷理蔵より小魚壺包を送来る、○井澤蟠龍の「武士訓」を読む、○午后、小谷重来訪す、○「武士訓」及び「武道便蒙録」を読む、○夜、藤田季莊来訪す、○Rodolphe Brodaより来状、○書状を大江敬香に送る、○此日、贈位先哲祝典大会の状況、各新聞に出づ、○雪ふる、

廿五日、午前、浦谷熊吉来訪す、○新独和辞典の校正をなす、○午后、柳生を東海銀行に遣はす、○縫子、すみれ会に吉田宅に赴く、○登張信一郎来訪す、○三神礼次の「日本武士道」を読む、○夜、引続き「日本武士道」を読む、○此日、登張信一郎、東亜協会々員となる、

廿六日、午前、学習院に赴く、○午后、浦谷熊吉来る、○勉強、○山崎明之より来状、○夜、勉強、

廿七日、午前、講義に大学に赴く、○午后、上原勝之進、稲田克巳、岩田僊太郎来訪す、○加藤玄智の英語神道論文を読む、○「陽明哲学」一百部の奥附を富山房に付与す、○縫子をして船越やすに

書状を送らしむ、○菊池大麓より A Sketch of Japanese National Development, more especially with reference to Education を送る、○夜、引き続き加藤玄智の英語神道論文を読む、

廿八日、午前、書状を牧野伸顕に送る、○高島円より「誠の志るべ」を送来る、○午后、「一徳会の創設を祝す」を草す、○端書を谷理蔵、高島円、菊池大麓、亀谷馨、川田鍊弥、川田繁太郎、木村鷹太郎に送る、○夜、哲学会に赴く、○田村喜作より来状、

廿九日、午前、酒井真より来状、○浦谷熊吉来訪す、○贈位先哲祝典大会に於ける「山鹿素行に就て」の演説大意、東京日々新聞に出づ、其切抜以「此日」来る、○午后、「一徳会の創設を祝す」を色川国士に送る、○如意遺稿及び James, Pragmatism を読む、○書状を酒井真及び保科孝一に送る、○夜、端書を加藤玄智及び浦谷熊吉に送る、○ James, Pragmatism を読了す、○古事類苑の予約を明治書院に申込む、○逍遙遺稿を読む、

三月

一日、午前、亀谷馨より来状、○小原要逸、浦谷熊吉、上野春平、岩崎歌郎、辻本卯蔵来訪す、○午后、色川国士、長島弘裕より来状、○勉強、○夜、吉田夫婦来訪す、○勉強、

二日、午前、講義に大学に赴く、○浦谷孫三郎より来状、○午后、柳生を高等師範附属中学に遣はす、○三島復、長谷川誠也、加藤玄智、森良三郎来訪す、○「東亜の光」(三の三)成る、○新保徳壽、東亜協会々員となる、○若木広良より来状、○夜、辻本卯蔵、酒井真、吉田熊次より来状、○逍遙遺稿を読む、○此日、東

亜協会々員を調査するに、特別会員式百〇七人、賛助員四拾人、外通常会員約七拾人、総計約参百拾七人、日本学会は会員六拾式人、客員拾九人、総計八拾壹人、○那珂通世逝く、享年五十八、〔頁下部に「故那珂博士の閲歴」の新聞記事切抜貼付〕

三日、午前、「日本武士道」を読む、○帝国教育会より謝礼としてビール壺打及び会長辻新次の礼状を送来る、○山口志げ来訪す、○午后、「東亜の光」(三の三)を田村喜作、及び亀谷馨に送る、○「日本武士道」及び「肝要工夫録」を読む、○夜、校正を活版所に送る、

四日、午前、学習院に赴く、○不在中乗杉嘉壽来訪す、○明治書院より来状、○午后、勉強、○国書刊行会より「新群書類従」一冊及び「伴信友全集」一冊を送来る、○夜、開国五十年編纂所より来状、○此日、雪、○菊池大麓より Female Education in Japan を送来る、

五日、午前、講義に大学に赴く、○明治書院に金拾七円の為換を送る、○配水工費式円参拾九銭を区役所に納む、○柳生を東海銀行に遣はす、牧野文相より来状、○午后、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○福井嘉納、西村武雄、小原要逸、坂本喜治馬来訪す、○夜、新聞雜誌類を読む、○此日、A Review of the World's Progress を送来る、○帝国学士院より来状、

六日、午前、浦谷熊吉来訪す、○金澤来蔵より来状、○湯原元一、白仁三郎、外一名東亜協会々員となる、〔頁上部に「外一名は中川忠順」と書込み〕○長谷川誠也より書籍二部を送来る、○午后、

書状を亀谷聖馨、田村喜作に送る、○柳生をして西須賀雄の葬式に会せしむ、○「中学修身」一千〇式拾部の奥附を文学社に付与す、○藤田季莊来訪す、○開国五十年中の Confucianism in Japan を訂正す、○岡田善吾より来状、○夜、引続き Confucianism in Japan を訂正す、○上原勝之進より来状、

七日、午前、Confucianism in Japan を訂正す、○柳生を高等師範附属中学に遣はし、「入学試験受験票」を受取る、○宣光遠足に横須賀附近に赴く、○亀谷馨より来状、○宣光、雨天のため品川より帰る、○午后、Confucianism in Japan を訂正す、○大山郁夫来訪す、○逍遙遺稿を読む、○中島万次郎より書状と原稿とを送る、○夜、校正をなす、

八日、午前、得能文、松浦一、遠藤隆吉、大塚素江、木山熊次郎、木内禎一、福井嘉納、豊原清作、杉原九郎来訪す、○亀谷馨より来状、○午后、岩田僊太郎、上田整次、西田敬止来訪す、○「倫理と教育」の原稿の残部を日清印刷会社に送る、○上田整次、亀谷聖馨、吉田東伍、東亜協会々員となる、○「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、吉田雪子来訪す、○勉強、

九日、午前、講義に大学に赴く、○田村喜作より来状、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、有馬祐政、川田鏡弥来訪す、○加藤玄智より書状及びビール壺箱を送る、○夜、尾上八郎来訪す、○此日、岡島誘、長井真琴、塚原政次、宗像逸郎、牧瀬五一郎、東亜協会々員となる、

十日、午前、浦谷熊吉、来訪す、○笹川種郎、東亜協会々員となる、

○「日本武士道」を読む、○木内禎一より来状、○午后、「日本武士道」及び「肝要工夫録」を読む、○長谷川福平、大山郁夫来訪す、○雪ふる、○夜、勉強、○此日、弘文館より「続百家説林」を送る、○宣光病に罹る、

十一日、午前、学習院に赴く、○松本源太郎と会見す、○「朱子哲学」四拾部の奥附を富山房に付与す、○午后、元良夫人及び亀谷聖馨、桑田芳蔵来訪す、○忠文舎より「社会主義運動史」を送る、○弘道館より来状、○日本紀を読む、○夜、校正を岩田僊太郎に送る、○日本紀を読む、○有馬祐政及び中島力造と電話、○佐藤誠実逝く、

十二日、午前、講義に大学に赴く、帰途元良勇次郎を訪ふ、○杉原九郎より来状、○午后、葉山万次郎、大島正徳、本庄精次、村上龍英及び隆文館の原某来訪す、○不在中戸上昌二来訪す、○長谷川福平より桑木の「倫理学講義」を送る、○帝國学士院に赴く、○夜、川田鏡弥及び富田順吉内より来状、○校正を岩田僊太郎に送る、

十三日、午前、坂本嘉治馬、浦谷熊吉来訪す、○亀谷聖馨より来状、○乙竹岩造より書状及び「報告十二集」を送る、○校正をなす、○平田盛胤、東亜協会々員となる、○宣光回復す、○午后、尾上八郎来訪す、○国語調査会に赴く、○校正を岩田僊太郎に、原稿を日清印刷会社に送る、○井口あくり子及び下田次郎、東亜協会々員となる、○吉田雪子、縫子の油絵を携来る、○葉山万次郎より来状、○夜、「女子修身」三千五百部の奥附を金港堂に付与

す、○校正をなす、○田村喜作より来状、○田村喜作、東亜協会
々員となる、○中将上村正之丞逝く、

十四日、午前、浦谷熊吉来訪す、○姉崎正治より正勝及び益之進に
絵本を送来る、○千代木研来訪す、有_レ故不_レ遇、○高島円より「最
新論理学」を送来る、○校正を日清印刷会社に送る、○午后、「中
学修身」九百部の奥附を文学社に付与す、○柳生をして文学博士
佐藤誠実の葬式に正行寺に会せしむ、○辻本卯藏来訪す、○有馬
祐政より来状、○「益軒楽観序」を作る、○亀谷聖馨の「吾国体
と宗教」を読む、○夜、西田敬止来訪す、○「吾国体と宗教」を
読む、

十五日、午前、松本愛重、坂本謹吾、竹内松治、大塚素江、中島徳
藏来訪す、○縫子、東京府師範学校に赴く、○吉田弥平、高桑駒
吉、山本信哉、副島知一、神崎一作、御橋惠玄、内山正居、東亜
協会々員となる、○午后、相馬種丸来訪す、○西田敬止より来状、
○書状を西田敬止に送る、○野田義夫より「近世教育史綱」富山
房より「陽明哲学」二部及び「東亜の光」三部を送来る、○勉強、
○夜、文学社より来状、○勉強、○此日、千代木研、風紀革新研
究会の為めに来る、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○田中義成を史料編纂所に訪ふ、
○浦谷熊吉来訪す、○文学社より「中学修身」(巻二)三部を送
来る、○「続藏経」(一の卅八及び卅九)を受取る、○午后、岩
田僊太郎、有馬祐政、井上成美来訪す、○上野鎮雄来訪す、有_レ
故不_レ遇、○「東亜の光」を乙竹岩造、菊池広、牧瀬五一郎に送

る、○書状を乙竹岩造、岩田僊太郎、菊池広に送る、○夜、原田
理一より来状、○校正をなす、

十七日、午前、書状を嘉納治五郎、洪沢栄一に端書を淀野耀淳に送
る、○新公論社及び洋風美術家追弔会より来状、○巢鴨地租割式
拾九錢四厘を納む、○外崎寛、東亜協会々員となる、○午后「中
学修身」九百部の奥附を文学社に、「師範修身」四百部の奥附を
文学社に付与す、○大山郁夫来訪す、○新公論社より「現代名家
自伝」五部を送来る、○「吾国体と宗教」を読む、○夜、書状を
亀谷馨に送る、○辻本卯藏より来状、

十八日、午前、学習院に赴く、○船越湊より上京を報道し来る、○
午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○神皇正統記及び栗里先生雜
著を読む、○夜、勉強、
十九日、午前、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○峯岸迷造、
小山内薫、鈴木純太郎、東亜協会々員となる、○午后、吉田宇之
助、木山熊次郎、田邊元、岩崎歌郎来訪す、○国語調査委員会よ
り来状、○夜、小学教員吉田某来る、○「小学教師座右銘」を作
る、○亀谷聖馨より来状、○端書を三宅雄次郎、南條文雄、前田
慧雲、村上專精に送る、

二十日、午前、常盤大定来訪す、○早稲田学会より来状、○「中学
修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○端書を福井晋太郎に送
る、○国書刊行会より「神田本太平記」一冊「菅政友全集」一冊
を送来る、○午后、国語調査会に赴く、○不在中菊池謙二郎来訪
す、○乙竹岩造、吉田熊次より来状、○「東亜の光」(三の三)

を菊池大麓に送る、○吉田某来りて宣光を教ふ、○夜、富山県教育会より来状、○「小学教師座右銘」を同文館に付与す、○此日、乙竹岩造、東亜協会々員となる、

廿一日、春季皇霊祭、○午前、平川泉吉、福井晋太郎、菊池謙二郎、広江万次郎来訪す、○帝国学士院より来状、○文学士村上正五郎及び村岡素一郎、東亜協会々員となる、○「武士道叢書上巻五百部、中巻五百部の奥附を博文館に付与す、○午后、鳥居龍蔵より来状、○宮崎虎之助来訪す、有故不遇、○校正を活版所に送る、○男爵菊池大麓を訪ふ、○菊池大麓、東亜協会賛助員となる、○夜、校正をなす、

廿二日、午前、長谷川福平、田中万逸、星野伊三郎、浦谷熊吉、三塩熊太、淀野耀淳来訪す、○鳥田義純来訪す、有故不遇、○午后、木山熊次郎をして談話を筆記せしむ、○磯江潤、保々清音来訪す、○「中学修身」一千六百五十部（内千部無印税）の奥附を文学社に付与す、○文学士黒住宗武東亜協会々員となる、○加藤弘之より来状、○夜、校正をなす、

廿三日、午前、講義に大学に赴く、○岩田徳太郎来訪す、○午后、倫理宗教談話会に大学集会所に赴く、来会者は菊池大麓、松村介石、小崎弘道、海老名弾正、近角常観、村上専精、前田慧雲、元良勇次郎、中島力造、井深梶之助、三宅雄次郎、浮田和民、○夜、東亜協会研究会を開く、来会者廿七八名、○原田理一及び弘道館より来状、○不在中深作安文来訪す、

廿四日、午前、菊池謙二郎より来状、○浦谷熊吉来訪す、○松田孫

次郎、東亜協会々員となる、○午后、田辺元、井上琢道来訪す、○書状を穂積陳重に送る、○帝国教育会より書状及び演説筆記を送来る、○校正を活版所に送る、○逍遙遺稿を読む、○夜、雑誌を読む、

廿五日、午前、須藤求馬來訪す、○学習院女学部に赴く、○松本源太郎と会见す、○午后、文科大学教授会に赴く、○夜、深作安文より来状、○佐藤吉次及び吉田夫婦来訪す、○此日、千家尊福、司法大臣となり、堀田正養、通信大臣となる、○大島直治、東亜協会々員となる、○男爵岩崎弥之助逝く、享年五十八、

廿六日、午前、東京市長尾崎行雄より来状、○縫子、書状を姉崎正治に、金拾五円の為換を富田順吉に送る、○校正を活版所に送る、○柳生を森良三郎宅に遣はす、○午后、須藤求馬、小林一郎、枝元長夫、碧海康温来訪す、○「新編倫理」二百部の奥附を金港堂に付与す、○八木光貫より「赤飯」を送来る、○夜、深作安文来訪す、○校正を活版所に送る、○此日、宣光、高等師範附属中学の試験を受く、不合格、○西田敬止より写真を送来る、○杉浦八重子来訪す、有故不遇、○スチーヴンス逝く、

廿七日、午前、「中学修身」九百五拾部の奥附を文学社に付与す、○吉田熊次より来状、○所得税貳拾参円四拾六銭、市税所得税附加貳円〇貳銭、区費所得税割五拾銭、合計貳拾五円九拾八銭を区役所に納む、○文学社及び金港堂をして「中学修身」を相馬種丸に送らしむ、○逍遙遺稿を読む、○春枝、尋常四年卒業、正勝尋常一年卒業、○午后、縫子、吉田宅に赴く、○書状を嘉納治五郎

に送る、○校正を活版所に送る、○大島正徳来訪す、○東京市役所に赴く、尾崎行雄、末松謙澄、井上通泰、幸田成行等と会見す、○夜、十時頃帰宅す、○菊池謙二郎より来状、○不在中宇野哲人来訪す、○井上成美来談す、

廿八日、午前、森良三郎、浦谷熊吉、三津木一実来訪す、○柳生を文部省及び三井銀行に遣はす、○午后、書状を菊池謙二郎に送る、○岡島誘来訪す、○校正をなす、○夜、書状と「東亜の光」を井上通泰に送る、○校正を活版所に送る、○専ら校正に従事す、

廿九日、午前、福井晋太郎、松浦一、薄井秀一、浦谷熊吉及び宗教大学生徒二名来訪す、○速水滉、東亜協会々員となる、○スガ子、高等女学校より賞状を受く、○午后、山崎明之及び宗教大学生徒一名来訪す、○浦谷熊吉妻携「贈物」来る、○丁酉倫理会研究会に赴く、○夜、八時頃帰宅す、○不在中大塚保治来訪す、○井上通泰より来状、○校正を活版所に送る、

三十日、午前、松村正一、三島復より来状、○海苔巷缶と金五円を吉田徳之助に遣はす、○校正をなす、○午后、「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、○宇野哲人、宮川大壽（トシシ）来訪す、○校正を活版所に送る、○書状を有馬祐政、円藤鎮（チカ）に送る、○夜、書状を安倍正人に、端書を菊池謙二郎に送る、○目白僧園より書状、及び「教育の本義」を送来る、○「教育の本義」を読む、○Dritter internationaler Kongress für Philosophie (Heidelberg 1908) より来状、○櫻井錠二夫妻より来状、○校正を活版所に送る、

卅一日、午前、森良三郎来訪す、○校正をなす、○宣光暁星中学校に赴き、試験を受け、及第す、○午后、三島復、内山信太郎、有馬祐政、村岡素一郎、保々清音、Gaston Bourgeois（ガストン・ブールジョイ）来訪す、○深作安文より来状、○夜、富田順吉より来状、○齋藤基次郎、吉田徳之助来訪す、○此日、宣光、暁星中学校に入学す、○此月、招待状を送来る者は、共立女子職業学校、三輪田高等女学校、成女学校、高等師範学校、女子音楽学校、東洋高等女学校、東京美術学校、東京音楽学校、

四月

一日、午前、小柳司気太、浦谷熊吉来訪す、○校正を活版所に送る、○文学士広瀬哲士、東亜協会々員となる、○午后、田中喜一より来状、○書状を菊池謙二郎に送る、○柳生を暁星中学校に遣はす、○夜、東明館に赴く、○書状を元良勇次郎及び文科大学事務所に送る、○此日、「東亜の光」(三の四)成る、

二日、午前、八、四〇上野発、○午后、一二、四三水戸着、直に芝田屋に投ず、○彰考館を観る、○深作浅次郎来訪す、○夜、観迎（ミカド）会に垂楊亭に赴く、席上演説をなす、来会者約三十名、

三日、午前、六五五水戸発、全七、五〇太田着、義公の墓及び舜水の墓に謁し、又舜水の像を観る、帰途西山に遊び、義公の像を拝す、○一〇、五五太田発、全一一、五〇水戸着、○午后、林毅陸来訪す、○一時頃女子師範学校に赴き、「修養上より見たる我れ」を演説す、聴衆約五百名、○演説後有志者と共に環翠楼に赴き、晚餐を喫す、○五、三三林毅陸と共に水戸発、○夜、一〇、一五

- 上野着、一一、〇〇頃帰宅、〇水戸にて会見せし人々は、菊池謙二郎、栗田勤、皆川朝吉、(清水炭鉱坑主)、豊田美雄子、塙七平、大部熊(参事会員)、古賀快象、田口五郎作(師範教諭)、藤井専随、立見四郎(教育会常議員)、本田嘉種(女子師範学校長)、松山茂三郎(市会議員)、中村豊吉(師範学校長)、片野文助、堀江午之介、大森苗之介(高等小学校長)、根本良顕(参事会員)、齋藤斐(農工銀行頭取)、古川澄(尋常小学校長)、大高織右衛門、久木久俊、鈴木山路、富岡三造、小林元茂、岩田衛(事務官)、内林永成(判事)、久木東海男(常総新聞記者) 佐藤五右衛門、根本正、〇有栖川裁仁親王薨去、
- 留守宅事件は如左、
- 二日、石川栄司来訪し、「勅語読本」を寄贈す、〇福井晋太郎来訪す、〇岩田僊太郎より「初頭勅語教本」の奥附千枚を取りに来る、出版届に印を捺して之を与ふ、〇金港堂より「女子修身」の奥附千枚を取りに来る、〇磯江潤より電話かゝる、〇文芸社より「中学修身」三百部の奥附を取りに来る、
- 三日、新渡戸稲造より電話かゝる、〇高橋喬松、友枝高彦来訪す、〇加藤弘之より来状、
- 四日、午前、高橋喬松、高桑駒吉、友枝高彦及び姉崎宅書生来訪す、〇午后、約定書を岩田僊太郎に送る、〇新聞雑誌類を読む、〇夜、「中学修身」九百六拾部の奥附を文学社に付与す、〇帝国学士院及び保科孝一より来状、
- 五日、午前、若木広良、浦谷熊吉、三塩熊太、岩村宝作来訪す、〇郁文館卒業式に臨み、一場の演説をなす、棚橋一郎、塩谷時敏、山田安栄等と会見す、〇不在中伊藤房太郎来訪す、〇船越やすより来状、〇午后、「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、〇伊藤房太郎、中村翁来訪す、〇加藤弘之及び菊池謙二郎より来状、〇藤岡作太郎より「国文学史講話」を送来る、〇校正をなす、
- 〇夜、野田義夫来訪す、〇校正を活版所に送る、
- 六日、午前、倉川鐵洲、阿部維巖より来状、〇深作安文より書状と原稿とを送来る、〇電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、
- 〇榎本勝多及び中村熊男に電話を掛く、〇午后、日本女学校卒業式に臨み、一場の演説をなす、柏田盛文、湯地幸平及び深田某、山根某等と会見す、〇若木広良より来状、〇夜、校正を活版所に送る、
- 七日、午前、西澤之助、竹内松治、浦谷熊吉来訪す、〇野田義夫、贈物を携へて来る、〇午后、「中学修身」八百三拾枚の奥附を文学社に付与す、〇浄土宗々祖降誕会に伝通院に赴き、「精神上の話」をなす、黒田真洞、前田慧雲と会見す、〇安倍正人より来状、
- 〇「東亜の光」(三の四)を菊池謙二郎、本多辰次郎、洪沢栄一、中村勝磨、渡辺又次郎に送る、〇校正をなす、〇夜、校正を活版所に送る、〇中村翁より電話かゝる、乃ち朝日講演会に於て「時代精神の一大欠陥」を演説することを約す、
- 八日、午前、校正をなす、〇嘉納治五郎より電話かゝる、〇富山房、日清印刷会社及び朝日新聞社に電話を掛く、〇午后、書状を菊池

謙二郎及び栗田勤に送る、○校正を活版所に送る、○辻本卯蔵来訪す、○校正をなす、○夜、「東亜の光」(三三の四)を尾崎行雄、嘉納治五郎、辻新次に送る、○書状を澁沢栄一、尾崎行雄、辻新次、嘉納治五郎に、端書を櫻井錠二に送る、○校正をなす、○此日、縫子、書状を船越やすに送る、○「中学修身」四千五百部及び「新編倫理」一百部の奥附を金港堂に付与す、○「東京朝日新聞」を取る、

九日、午前、校正を活版所に送る、○浦谷熊吉来訪す、○原秀四郎、東亜協会々員となる、○大風雪、電話線経つ、○縫子、宮下つまに贈物を送る、○「盛に精神教育を興すべし」内外教育評論に出づ、○午后、加藤弘之より来状、○書状を坪井九馬三に送る、○「女子修身」一千部の奥附を金港堂に付与す、○富山房より「東亜の光」拾部送来る、○校正を活版所に送る、○本庄精次来訪す、○夜、校正を活版所に送る、

十日、午前、校正を活版所に送る、○尾崎行雄、辻新次より「東亜協会賛助員」承諾の端書来る、○書状を阿部維巖に送る、○午后、「東亜の光」を石原即聞、藤井専隨、石塚龍学、日比野寛、吉川万次郎に送る、○宗教大学より御礼と菓子二箱とを送来る、○山口志げ来訪す、○校正を活版所に送る、○夜、書状を山田安栄に送る、○校正を活版所に送る、

十一日、午前、笹川種郎来訪す、○校正を活版所に送る、○姉崎正治より *La Chine nouvelle* (Temp's, 8/1/08) を送来る、○吉田雪子来る、○松村正一より端書来る、○端書を辻本卯蔵及び活版所

に送る、○菊池謙二郎より来状、○午后、保々清音及び岩田僊太郎より端書来る、○井上勃爾来る、○夜、野田義夫を招燕す、○山田安栄より来状、○尾上八郎来訪す、

十二日、午前、栗田勤、辻本卯蔵より来状、○中島徳蔵、得能文、平川泉吉、須藤求馬来訪す、○午后、「中学修身」一千三百部の奥附を文学社に付与す、○柿山清来訪す、○柳愛蔵去りて山口英爾来る、○不在中星野小三郎来訪す、○帝国学士院に赴く、○夜、「農業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○校正を活版所に送る、

十三日、午前、「初等勅語教本」一千部の奥附を岩田僊太郎に付与す、○書状を酒井佐保に送る、○長島弘裕より来状、○森良三郎来訪す、○「初等勅語教本」成る、○梁江堂より「懺悔録」を送来る、○午后、中洲養父母の為に茶話会を催うす、来会者は齋藤庸一郎、井上成美、吉田夫婦及び姉崎増子等、○同文館より御礼を送来る、○書状を大島義修に送る、○夜、大江文城及び村岡素一郎より来状、○校正をなす、

十四日、午前、加瀬駒太郎、浦谷熊吉来訪す、○校正を活版所に送る、○医学博士速水猛及び岡澤鉦次郎、東亜協会々員となる、○午后、「農業修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○校正を活版所に送る、○黒河内英二より松村正一の「西洋倫理学説批評」を送来る、○姉崎正治より絵端書来る、○深作安文来訪す、○夜、木内喜右衛門来訪す、○男爵澁沢栄一より東亜協会賛助員承諾の返事来る、○高橋正熊及び亀谷聖馨等より端書来る、○「倫理と

「教育」序成る、

十五日、午前、学習院に赴く、○加藤駒二より来状、○午后、小林照朗より来状、○田村喜作、森良三郎来訪す、○端書を石川栄司に送る、○崖下地所の手入をなす、○訪問録、文章世界に出づ、○夜、「倫理と教育」の序と座右銘とを弘道館に、校正を活版所に送る、○此日、「日本倫理彙編」再版の広告出づ、○乃木希典、孫子評註を贈る、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○児玉市治より書状、帝国教育会及び船越湊より端書来る、○午后、石川栄司、高武公美、本庄精次、木山熊次郎、船田三郎、高橋喬松、星野小次郎、福井晋太郎、嶋田義純、加藤玄智、樋口長衡等来訪す、○石原即聞より来状、○夜、書状を村上直次郎、坪井正五郎に送る、○高瀬武次郎より絵端書来る、○此日、星野小三郎及び福井晋太郎、東亜協会々員となる、○小出繁逝く、享年七十五、十七日、午前、須藤求馬、松平忠威来訪す、○「中学修身」四百四拾部の奥附を文学社に付与す、○「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○中村翁より来状、○原平吉より電話かゝる、○午后、浦谷熊吉、栗原英之助、来訪す、○野田義夫より来状、○演説筆記を長嶋弘裕に送る、○夜、望月信亨より来状、十八日、午前、村上直次郎、柳愛之助より来状、○田中喜一より端書来る、○郵便局より蔵経二套を受取る、○午后、朝日講演会に青年会館に赴き、「時代精神の一大欠陥」を演述す、聴衆約二百名、○神道同志会より来状、○校正を活版所に送る、○夜、校正

を活版所に送る、○富山房の辞書を校閲す、○此日、深作安文、縫子に礼状を送る、○山口志げ来る、

十九日、午前、森良三郎、浦谷熊吉、安田旭軒、田中義能、補永茂助、来訪す、○晚成所より「初等勅語教本」五部を送来る、○阿部維巖より来状、○縫子、子女五人を拉して日比谷公園に遊ぶ、○午后、「東亜の光」壹部と書状とを子爵末松謙澄に送る、○辻本卯藏来訪す、○富山房、金港堂及び大倉書店等に電話を掛く、○Schopenhauer; Ueber den Willen in der Natur を読む、○夜、校正を活版所に送る、○引続き Schopenhauer を読む、○中村安太郎、小松重造、東亜協会々員となる、

二十日、午前、講義に大学に赴く、○濱尾新と会談す、○午后、浦谷熊吉、藤田季莊、原平吉、栗原英之助、坂本忠良来訪す、○大隈重信より「開国五十年史」(下巻)を送来る、○栗原英之助、東亜協会々員となる、○帝国学士院より来状、○本庄精次及び九鬼隆一より電話かゝる、○金港堂及び文学社に電話をかく、○「儒教」開国五十年史に出づ、○夜、校正を活版所に送る、

廿二日、午前、校正を活版所に送る、○森良三郎来訪す、○祝詞を星野小三郎に、端書を岩田僊太郎、田中喜一、中島徳藏に送る、○大倉書店より Stray Leaves 二部、「やみぐる鏡」一部及び「家庭口演十種」一部を送来る、○九鬼隆一より電話かゝる、○午后、末松謙澄より来状、○谷山初七郎来訪す、○論文を草す、○「女子修身」五百部、「師範修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、論文を草す、

廿二日、午前、学習院に赴く、○谷山初七郎及び、本庄精次より電
話かゝる、○午后、沼波武夫及び船田三郎、東亜協会々員となる、
○浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○「修養上より見たる我れ」いば
らきに出づ、○研究、○宮内省より観桜会の招待状来る、○崖下
の地所を臨検す、○夜、大成会に清風亭に赴き、「精神修養談」
をなす、来会者約六七十名、十時頃帰宅、

廿三日、午前、講義に大学に赴く、○田村喜作及び孔子祭典会より
来状、○午后、森良三郎、岩田僊太郎、葉山万次郎来訪す、○坂
本忠良来訪す、有故不遇、○吉田熊次、日比野寛、星野小次郎
等より端書来る、○Prof. Gustav Maier より電話かゝる、○校
正を活版所に送る、○夜、酒井佐保、長谷川福平、飯沼松枝より
来状、○論文を起草す、○此日、文学士相馬明次郎、東亜協会々
員となる、

廿四日、午前、Gustav Maier 及び力枝来訪す、○浦谷熊吉亦為「雜
誌」来る、○午后、国語調査会に赴く、○「中学修身」六百七十
部の奥附を文学社に付与す、○岩田僊太郎、松山友藏より来状、
○不在中中井宗太郎来訪す、○日比野寛より「日本臣道教科書」
を送来る、○論文を草す、○夜、「理想の消息」を秀英舎に送る、
○中井宗太郎、西田敬止、杉山与三郎来訪す、○荻野仲三郎、古
賀毅、岡上梁、平子尚（号鐸嶺）東亜協会々員となる、○「女子
修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、

廿五日、午前、大学より「大日本史料」二冊を送来る、○児玉市治
より来状、○「東亜の光」彙報を草す、○午后、彙報を浦谷熊吉

に、口絵を秀英舎に送る、○書状を岩田僊太郎及び富山房に送る、
○校正を活版所に送る、○福岡県教育会長庄野十郎より来状、
○岡島誘及び山口志げ来訪す、○夜、山口英爾、病気の為めに去
る、○深田憲治来訪し、東亜協会々員となる、○此日、縫子、吉
田宅に赴く、

廿六日、午前、木山熊次郎、境野哲、遠藤良子、森良三郎来訪す、
○島田義純及び学生タイムス記者等来訪す、有故不遇、○齋藤
木、石原即聞より来状、○午后、丁酉倫理会に赴き、「自然と道徳」
を演述す、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○岩田僊太郎より来状、
廿七日、午前、講義に大学に赴く、○広池千九郎より来状、○大島
義修来訪す、○午后、宇野哲人、森良三郎、藤田季莊来訪す、○
夜、日本学会に大学に赴く、村上直次郎、坪井正五郎の講演あり、
来会者約二十名、○松村正一、竹内松治及び弘道会より来状、

廿八日、午前、長谷川福平、深作安文、浦谷熊吉来訪す、○畑徳三
郎、東亜協会々員となる、○午后、富山房の辞書を校閲す、○端
書を松浦一及び五二会に送る、○Dr. Constant Hillemand より
La vie et l'ouvre de Auguste Comte et de Pierre Lafitte を送來
る、○夜、弘道会より来状、

廿九日、午前、学習院に赴く、○午后、教授会に大学に赴く、○濱
尾総長と会谈す、○小西重直より「学校教育」を送来る、○不在
中平川泉吉来訪す、○夜、笹川種郎より来状、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○不在中東敬治来訪す、○山口
志げ来訪す、○竹田宮恒久王、常宮昌子内親王御結婚、○午后、

村上直次郎、松浦一、浦谷熊吉、岩橋遵成、葉山万次郎来訪す、
○校正を活版所に送る、○夜、西田政造、真野文二より来状、○
校正を活版所に送る、

五月

一日、午前、笹川種郎来訪す、○書状を大島義修に、端書を本庄精
次及び日本弘道会に送る、○午后、文部省に赴き、牧野文相と会
談し、尋いで国語調査会に出席す、○「中学修身」五百部の奥附
を文学社に付与す、○本庄精次、東敬治来訪す、○山田安榮より
「伏敵編附靖方溯源」を送来る、○夜、校正を活版所に送る、○此日、
スガ子、鎌倉に遠足をなす、

二日、午前、書状を小杉熙に、端書を藤井健次郎に送る、○文科大
学より学生の卒業論文拾種（拾式冊）を送来る、○校正をなす、
○午后、「農業修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○浅倉屋
より古本を送来る、○午后、校正を活版所に送る、○新田芳、堀
田相爾来訪す、○深作安文の原稿を訂正す、○文科大学より来状、
○夜、深作安文の原稿を訂正す、○スガ子、二葉会に入る、

三日、午前、若木広良、黒河内英二、登張信一郎、安田旭軒、古城
貞吉、浦谷熊吉、後藤朝太郎、深作安文、島田義純来訪す、○大
原孫三郎、小豆澤英男、春山作樹、土屋正直、東亜協会々員とな
る、○午后、家族会に赴き、一場の談話をなす、○弘道会創立
三十年記念会に赴き、「所感を述ぶ」を演説す、立見四郎、須藤
周三郎、伏見勤之助、徳川達孝、松平忠威等と会見す、○井上勝
之助全末子より来状、○夜、松浦一より来状、○登張信一郎より

電報を送来る、○昨日午前山階宮菊麿王薨去

四日、午前、木山熊次郎より来状、○校正をなす、○中村熊男及び
小谷重に電話を掛く、○午后、書状を長谷川福平、齋藤木及び伏
見勤之助に送る、○書状と「兼山麗澤秘策八冊」を三上参次に、
「赤穂義士実話」を重野安繹に返却す、○「中学修身」四百部の
奥附を文学社に付与す、○弘道館より書状及び「教育心理学講義」
を送来る、○登張信一郎より電話かかる、○力枝来訪す、○「東
亜の光」（三の五）成る、○「理想の消息」東亜の光に出づ、○
夜、教員検定委員会より来状、○木山熊次郎来訪す、○書状を木
山熊次郎に送る、

五日、午前、校正を活版所に送る、○六盟館より「農業本論」及び
「群衆心理の新研究」を送来る、○帆足万里の伝を読む、○中村
熊男より来状、○吉田雪子来る、○午后、「師範修身」一百部の
奥附を金港堂に付与す、○手塚光貴、平川泉吉、井上成美来訪す、
○帆足万里の小伝を作る、○齋藤木より来状、○夜、校正を活版
所に送る、○帝国学士院より来状、○此日、弘道会演説の大意、
東京日々新聞に出づ、○佐村八郎よりハンケチを送来る、

六日、午前、石川栄司、諸井恒平、浦谷熊吉、長沼守敬来訪す、○
校正をなす、○岩田僊太郎、小豆澤英男より来状、○文学士河野
元三、東亜協会々員となる、○午后、文科大学教授会に赴く、○
濱尾総長と会談す、○高知県第二中学校長山村弥久馬と心理学研
究室に会見す、○小杉熙より来状、○小杉熙、東亜協会々員とな
る、○夜、校正を二回活版所に送る、○縫子、宣光及び正勝を拉

して靖国神社に遊ぶ、○此日、三島復来訪す、以無間暇^二更期^一再会^一、

七日、午前、文科大学より来状、○書状を齋藤庸一郎、大島義修及び高田早苗に送る、○森良三郎来る、○齋藤木より電話かゝる、○学生の論文を読む、○午后、「女子修身」三百部の奥附を金港堂に付与す、○「東亜の光」(三の五)を小杉熙及び岡野義三郎に送る、○杉本美之助、長谷川誠也、田邊元来訪す、○佐伯正外一名来訪す、有故不遇、○学生の論文を読む、○弘道館より電話かゝる、○夜、校正を弘道館の使者に付与す、○学生の論文を読む、

八日、午前、学生の論文を読む、○校正を活版所に送る、○高子罹^二耳疾^一、受^二賀古鶴所診察^一、○午后、書状を庄野金十郎及び倉川鐵洲に送る、○学生の論文を読む、○高橋正熊より「アリストテレス倫理学」を送来る、○融道玄来訪す、○齋藤庸一郎より来状、○深作淑子、書状を縫子に送来る、○夜、学生の論文を読む、九日、午前、大島義修及び内ヶ崎作三郎より来状、○書状を大島義修に送る、○学生の論文を読む、○浦谷熊吉、吉田雪子、山口志げ来る、○午后、書状を大島義修に送る、○理学博士箕作佳吉に職廿五年祝賀会に植物園に赴く、長岡半太郎、隈本有尚、石川千代松等と会見す、○夜、海老名弾正の送別会に上野精養軒に赴く、原田助、山路弥吉、高木壬太郎、押川正義、徳富猪一郎、小崎弘道、平岩某等と会見す、○齋藤庸一郎及び文科大学等より来状、○不在中堀田相爾来訪す、○此日、「女子修身」四百部及び「師

範修身」九拾部の奥附を金港堂に付与す、

十日、午前、浦谷孫三郎及び小石川実業団より来状、○鳩山和夫及び小豆澤英男より絵端書を送来る、○本庄精次、黒河内英二、龍谿觀興、蔭山義三郎、加藤玄智、堀田相爾、櫻井義肇、佐々木信綱来訪す、○山崎明之より電話かゝる、○午后、学生の論文を読む、○有馬祐政来訪し、「歌仙豆」を贈る、○夜、登張信一郎より来状、○「倫理と教育」一千部の奥附を弘道館に付与す、○学生の論文を読む、

十一日、午前、山崎直三より「写真」を送来る、○本庄精次より書状、姉崎正治より絵端書を送来る、○吉田雪子来る、○帝國学士院より電話かゝる、○富山房、文学社及び金港堂に電話を掛く、○辻本卯藏来談す、○高島円より「女性訓」を送来る、○午后、中村熊男、蛭田作平、富尾木知佳、三島復来訪す、○安倍叔吾より来状、○学生の論文を読む、○夜、酒井佐保及び庄野金十郎より来状、○書状を大島義修及び須藤求馬に、端書を福来友吉に送る、○学生の論文を読む、○「小学教師座右銘」小学校に出づ、十二日、午前、岡野義三郎より「絵端書」を送来る、○浦谷熊吉来談す、○海老名弾正より端書来る、○書籍及び物品を吉田宅に送る、○女学部より電話かゝる、○高等商業学校及び学士会事務所に電話を掛く、○岩永五郎一、深田藤次、西田政造、東亜協会々員となる、○午后、福来友吉来訪す、○学生の論文を読む、○丸善に Schiller Study in Humanism 及び Dewey Ethics を注文す、○濱口師範学校長より電話かゝる、○夜、嘉納治五郎、東亜協会

賛助員となる、○木山熊次郎、小関貞次来訪す、○木山熊次郎、「偉人黒住宗忠」三部を贈る、○学生の論文を読む、○「偉人黒住宗忠」を読む、

十三日、午前、学習院に赴く、○福岡師範学校長濱口庄吉来訪す、○文科大学より来状、○午后、教授会に大学に赴く、○伊東猪六、岡本暁来訪す、○日本弘道会より礼状と御礼とを送来る、○「中学修身」四百部の奥附を文学社に付与す、○「倫理と教育」成る、○弘道館より「倫理と教育」十部を送来る、○藤澤周次、渡邊又次郎、東亜協会々員となる、○重野安禪より端書を送来る、○夜、浦谷熊吉来訪す、○「黒住宗忠」を読む、

十四日、午前、坂本嘉治馬、浦谷熊吉来談す、○川邊真藏来訪す、○成瀬仁蔵来訪す、有_レ故不_レ遇、○午后、葉山万次郎、齋藤木堀田相爾、大島正徳、藤田季莊、本庄精次、渡部董之介、武内紫明来訪す、○弘道館より特別製「倫理と教育」五部を送来る、○文科大学より来状、○秋山悟庵来訪し、「林子平言行録」を贈る、○渡部董之介、「仮作物語」及び「高等小学読本」を贈る、○夜、阿部莊二、深作安文、浦谷熊吉来訪す、○岡野義三郎、東亜協会々員となる、○芳賀矢一に電話を掛く、○「黒田宗忠」を読む、○此日、国書刊行会より「燕石十種」(第二)一冊及び「続々群書類従」(第十二)一冊を送来る、○「倫理と教育」を堀田相爾及び渡部董之介に贈る、

十五日、午前、桑田芳藏来訪す、○足立栗園より「日本倫理史綱」を送来る、○「黒住宗忠」を読む、○忠文舎及び堀謙徳より来状、

○吉田雪子、油絵を携去る、○午后、中野武宮を代議士に選挙す、○国語調査会に赴く、○大島義修に会談す、○水道使用料参円六拾六銭を区役所に納む、○徳富猪一郎より来状、○夜、学生の論文を読む、○葉山万次郎来訪す、○齋藤木、使者を遣はし、書状を送来る、乃ち之に返書を付与す、○「黒住宗忠」を読む、○吉田修夫より端書来る、

十六日、午前、浦谷熊吉来談す、○「黒住宗忠」を読む、○午后、学生の論文を読む、○小谷重、清水金藏来訪す、○文学社より菓子を贈来る、○正勝、益之進、女中と共に動物園に遊ぶ、○夜、学生の論文を読む、○「黒住宗忠」を読む、○宇野哲人及び時事新報社より書状、東敬治より端書来る、○此日迄の調査によれば、金港堂の「中学修身」を採用せる学校凡そ六十九、女子修身」を採用せる学校凡そ五十八、文学社の「中学修身」を採用せる学校凡そ六十七、合計百九十四校、

十七日、午前、森良三郎来る、乃ち崖下家屋設計の談をなす、○「黒住宗忠」を読む、○午后、伊藤兼一より来状、○陽明学会に麟祥院に赴き、一場の演説をなす、東久世伯爵、洪沢栄一、大倉喜八郎、小牧昌業、磯部弥一郎、結城琢、亀谷聖馨及び伊澤千世子等と会見す、(頁下部に「王陽明学会」の雑誌(時事新報)記事切抜貼付)○岩田徳太郎来訪す、○夜、若木広良より来状、○「黒住宗忠」を読了す、

十八日、午前、松扉得悟、岡田善吾より来状、○書状を大島義修、伊藤兼一、庄野金十郎、杉山与三郎及び水交社に、端書を高島大

円、日比野寛、足立栗園及び小西重直に送る、○「東亜の光」を
虎石恵実、伊藤兼一及び清水彦五郎に送る、○午后、量水器使用
料壹円式拾銭を区役所に納む、○学生の論文を読む、○縫子、雪
子と共に太平洋画会に赴く、○文科大学の使者来る、○濱口庄吉
及び富山県教育会より来状、○夜、「中学修身」一百部の奥附を
文学社に付与す、○東敬治、杉山与三郎より来状、○学生の論文
を読む、

十九日、午前、齋藤庸一郎夫妻及び浦谷熊吉来訪す、○小谷重、齋
藤木より来状、○太田秀穂より絵端書を送来る、○金港堂より教
科書三部を送来る、○阿部秀助、今井契輔、東亜協会々員となる、
○午后、森良三郎をして西隣と境界を談判せしむ、○学生の論文
を読む、○巢鴨の地所を観る、○写真を富山県教育会に送る、○
基督観を読む、○大日本統藏経第壹輯第四拾式套及び第四拾四套
を受取る、

二十日、午前、学習院に赴く、○文科大学の使者来る、乃ち之に論
文を付与す、○栗原英之助より来状、○午后、横須賀市書記福本
友治郎及び樋口秀雄来訪す、○「倫理と教育」及び書状を Dennis
に送る、○岩田僊太郎「初等勅語教本」の事に付来談す、○夜、
学生の論文を読む、○宣光遠足に逗子に赴く、

廿一日、午前、小鹿仏海、横田仏仙、石川栄司、白仁武来訪す、○
午后、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○葉山万次
郎、森良三郎、浦谷熊吉、田中久、本庄精次来訪す、○朝永三十
郎及び齋藤基次郎より来状、○書状を坂本嘉治馬及び山鹿旗之進

に送る、○学生の論文を読む、○帝国学士院及び浦谷熊吉より来
状、○夜、平川泉吉、藤田季莊来訪す、○学生の論文を読む、○
皇典講究所より来状、○此日、崖下に二箇の家屋建築を岡本金太
郎に命ず、

廿二日、午前、田中久、西田政造、星野伊三郎より来状、○乙竹岩
造より「低能児教育法」を送来る、○文科大学の使者、論文を持
来る、○書状を福来友吉に、端書を東敬治に送る、○岩崎弥之助
に關する談話筆記を齋藤弔花に送る、○午后、委任状と論文とを
葛岡敬雄に送る、○庄野金十郎より来状、○湯本武比古、建部遯
吾、浦谷熊吉より端書来る、○端書を田中久、鷹田其石、土肥竹
次郎に送る、○正勝、益之進、高子悉く風邪に罹る、○渡辺真来
診す、○学生の論文を読む、○夜、松村正一より来状、○書状を
清水彦五郎に遣はす、○此日、鯉節を齋藤基次郎に遣はす、

廿三日、午前、書状を乃木希典、金子堅太郎、田村喜作、建部遯吾、
石原即聞に送る、○山鹿旗之進より来状、○文部省より「第三十
四年報」を送来る、○文科大学の使者、論文を持来る、○文科大
学の使者再び来る、之に論文二篇を托す、○黒河内英二より電話
かゝる、○午后、菅原教造、宮川壽美子、東亜協会々員となる、
○浦谷熊吉、石川倉次来訪す、○諸雑誌を読む、○山崎直三より
絵端書を送る、○Dennisより来状、○夜、強請者来る、因りて
警察署に通じて之を捕へしむ、「頁下部に「井上博士ゆする」の
新聞（東京毎日新聞）記事切抜貼付」○尾田信忠、金田キンダイチ一京助、
井上角五郎、藤原柏淳、東亜協会々員となる、○堀田相爾来訪す、

廿四日、午前、須藤求馬、増田惟茂来訪す、○村上素一郎より来状、
 ○弘道館より「倫理と教育」を拾部送來る、○午后、東亜協會春季講演大会を東京高等商業学校に開き、一時より六時に至る、遠藤隆吉、樋口秀雄、福来友吉に次いで「人生の目的」を演説す、聴衆約一千余名、高木兼寛、久米邦武、伊澤修二等来會す、○夜、評議員、編輯委員及び高木兼寛等と共に学士会事務所にて會食す、畔柳都太郎、福来友吉、坂本嘉治馬、吉田熊次、有馬祐政は不參、○此日、正勝及び益之進快癒し、春枝風邪の爲めに臥蓐、○高木兼寛、東亜協會賛助員となる、○植木屋來る、○齋藤基次郎結婚、廿五日、午前、休養、○加藤駒二に電話を掛く、○津野氏より「バスター」壺缶を送來る、○午后、吉田雪子及び浦谷熊吉來談す、○船越湊上京し來る、因りて書生として之を置く、○学生の論文を読む、○国語調査会より議案を送來る、「頁下部に「臨時仮名遣調査委員会官制」の記事切抜貼付」○夜、牧野伸顕及び元良勇次郎より来状、○芝田徹心來訪す、○此日、春枝快癒す、○植木屋來る、

廿六日、午前、湊を区役所に遣はす、○吉田松陰の建白書を読む、○午后、内閣の辞令書を大学より送來る、臨時仮名遣調査委員会委員被仰付(二十五日付)○松陰の建白書二通、一は支配方迄印符ニして差出候控、一は明倫館御再建に付氣付書を読む、○小野田亮正、小林一郎來訪す、○夜、「日本武士道」を読む、○中島より電話かゝる、

廿七日、午前、学習院に赴く、○田村喜作より来状、○午后、哲学

字彙の會に大学に赴く、○岡部為吉より絵端書來る、○夜、浦谷熊吉來訪す、○岩田僊太郎より訂正軍人勅諭を送來る、○玉鉦會より来状、○読売新聞の發送を申込む、

廿八日、午前、講義に大学に赴く、○論文の点数を事務室に付与す、○石原即聞より来状、○午后、遠藤夏子、村上良英、常盤大定來訪す、○「東亜の光」の口絵を秀英舎に送る、○角地藤太郎より来状、○夜、吊詞を武藤虎太に送る、○「青年修身唱歌」の序を作る、○加藤駒二より来状、

廿九日、午前、教授會に大学に赴く、○森良三郎來談す、○磯野七平より祖母逝去の通知書來る、○午后、所得税の申告を神田橋稅務署に送る、○臨時仮名遣調査委員会に文部大臣官邸に赴く、委員二十六人、○夜、浦谷熊吉來訪す、○「西洋倫理学說批評」の序を作る、

三十日、午前、書状を河出静一郎に、端書を高橋甚兵衛に送る、○書状と恵美寿ミヅノビール壺打を井上頼国に送る、○田中義成より電話かゝる、○文科大學事務室より論文を送來る、○午后、書状を児玉市治及び齋田耕陽に送る、○「女子修身」百七拾部の奥附を金港堂に付与す、○芹澤哲之より来状、○加藤駒二來訪す、○Schopenhauer, Ueber den Willen in der Natur を讀了す、○Gustav Maier より端書來る、○夜、書状を芹澤哲之に送る、

卅一日、午前、藤井慶乘、秦政二郎、森良三郎、加藤玄智、黒河内英二來訪す、○午后、岩田僊太郎來訪す、○哲学会に大学に赴く、渡辺国武、鵜澤総明、有賀長雄、小野塚喜平次と會見す、○夜、

八時頃帰宅す、○古城貞吉より端書来る、

六月

一日、午前、講義に大学に赴く、○不在中山晴明之、森良三郎、岡本金太郎来訪す、○午后、有馬祐政来訪す、○安東居留民団役所及び真言宗青年会より来状、○「日本武士道」を読む、○文部省より「賜本俸三級俸」の辞令書来る、三級俸は一千六百円也、○名児耶六都を訪ふ、○「中学修身」三百部の奥附を文学社に付与す、○児女等植物園に遊ぶ、○春枝、吉田宅に赴く、○夜、東京音楽学校より来状、○手代木研来訪す、○「日本武士道」を読む、○二日、午前、浦谷熊吉、谷慶祐来訪す、○東京市長尾崎行雄より来状、○湊を三井銀行に遣はす、○午后、「日本武士道」を読む、○「倫理と教育」を安東居留民団役所に送る、○「東亜の光」(三の六)成る、富山房より拾部を送来る、○「勅語衍義」一千部の奥附を成美堂に付与す、○夜、勉強、

三日、午前、学習院に赴く、○芹澤哲之より来状、○午后、哲学字彙の会に大学に赴く、○臨時仮名遣調査委員会より来状、○夜、勉強、○雪子来る、○保科孝一より来状、

四日、午前、講義に大学に赴く、○史料編纂所に田中義成及び三上参次を訪ふ、○原平吉来訪す、○午后、大田黒作次郎、石原謙、岩橋遵成、岡部龍玄、龍谿觀興、田中経太郎、常盤大定、阿部莊二来訪す、○夜、安田旭軒来訪す、○臨時仮名遣調査委員会の書類を読む、○井上円了より来状、○此日、大倉保五郎、東亜協会々員となる、

五日、午前、松村正一より来状、○浦谷熊吉来談す、○午后、臨時仮名遣調査委員会に赴く、○夜、櫻井、田中館、大森、本多、渡瀬諸氏の帰朝及び石川、広井二氏の出発の爲めに開かれたる送迎会に大学山上御殿に赴く、会食後河本重四郎及び長井長義の講話を聴く、○九時半頃帰宅す、○此日、井上道喜より縫子に書状を送来る、○国語調査会より「漢字要覧」大倉書店より「青年時代」を送来る、○井上円了に三学堂の事に就いて端書を送る、

六日、帝国学士院より書状、生川藤一郎より端書来る、○端書を生川藤一郎及び保科孝一に送る、○松村正一より絹はんけちを送来る、○湊を東海銀行に遣はす、○午后、書棚の整頓をなす、○吉田雪子来る、○夜、仮名遣委員会より来状、○東敬治来訪す、○国学者伝記集成を読む、○此日、雑著を検閲するに、選ぶ所の序文、凡そ、一、百種、

七日、午前、平川泉吉、芝田徹心、小野藤太来訪す、○小野藤太、韓麻を贈る、○長島弘裕より「講演集」二部を送来る、○「理想と信念」講演集第四号に出づ、○午后、書棚を整頓す、○安田旭軒来訪す、○「倫理と教育」を中島徳蔵に送る、○勝本勘三郎の論文を読む、○亀谷聖馨より来状、○縫子、児女を拉して上野に遊ぶ、○夜、安田旭軒を速記せしむ、

八日、午前、浦谷熊吉来訪す、○学生の論文を読む、○午后、「商業修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○新公論社より「日本武士気質」を送来る、○間千代、本田信教、深作安文来訪す、○学生の論文を読む、○雷雨、電を交ふ、○夜、齋藤精輔より来状、

○端書を松村正一、齋藤精輔及び長島弘裕に送る、

九日、午前、佐々木信綱及び日本歴史地理学会より来状、○大倉書店より電話かゝる、○清水商会より大工来る、○縫子、齋藤基次郎宅に赴く、○端書を浦谷熊吉、及び徳富猪一郎に送る、○午后、開国五十年編輯所より銀の茶台と礼状とを送来る、○「学生玉鑑」を訂正す、○「佐々木弘綱」の小伝を草す、○岩田僊太郎来談す、○夜、屈書を学習院及び全女学部に送る、○勉強、

十日、午前、山崎明之より来状、○支那哲学の試験に心理実験室に赴く、受験者は、藤塚隣、小西兵太郎、東海林辰三郎、山口察常、○午后、教授会に出で、尋いで哲学字彙の会を開く、○濱尾総長と会談す、○夜、岩瀬三治来談す、○新聞を読む、○齋藤精輔より電話かゝる、

十一日、午前、「倫理と教育」を菊池大麓に送る、○宮内省に赴き、「倫理と教育」を両陛下及び東宮兩殿下に献上す、帰途文部省に寄り「倫理と教育」を文部大臣に進呈す、○澤柳政太郎及び渡部董之介と会談す、○正午過ぎ帰宅す、○午后、山口重智、吉田修夫、後藤狂夫、齋藤精輔、原平吉、栗原敏次郎、姉崎増子来訪す、○書状を福来友吉に、端書を深作安文、及び岩田僊太郎に送る、○阿部峰子、大鯛を贈来る、○夜、三省堂字書原稿を訂正す、○藤田季莊来訪す、

十二日、午前、宗教学の試験に心理実験室に赴く、○不在中成瀬仁蔵来訪す、○午后、再び試験を継続す、○不在中深作安文来訪す、○小杉熙及び尾崎市長より来状、○安田旭軒より原稿を送来る、

○森良三郎来る、○夜、新聞を読む、○此日、晷屋来る、○崖下第二の井戸成るを以て堀代金貳拾五円を払ふ、○井上久子より縫子に書状を送来る、

十三日、午前、姉崎正治より絵端書来る、○赤穂記を読む、○小田垣彦三郎の論文を検閲す、○学生の論文を大学の小使に付与す、○大倉書店に電話を掛く、○午后、太田秀穂及び高橋重蔵、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉、岩田僊太郎、枝元長夫、吉田雪子来訪す、○三省堂原稿を訂正す、○文部省より「仮名遣対照語彙」を送来る、○赤穂記を読む、○夜、辞書原稿を三省堂に送る、○教育界原稿を金港堂に送る、○此日、晷屋来る、

十四日、午前、礼状を開国五十年編輯所に送る、○横井小楠四十年祭に紅葉館に赴く、徳富猪一郎、横井時雄、横井時敬、清浦奎吾、齋藤弔花等と会見す、「頁下部に「横井小楠四十年祭」の新聞記事切抜貼付」○午后、三時二十分頃帰宅す、○不在中富山房より来状、○報徳会より婦人会入場券三枚を送来る、○端書を山崎明之及び市村瓊次郎に送る、○佐々木信綱に電話を掛く、○Galen M. Fisher 来訪す、○殿村栄之介より来状、○書状を岩田僊太郎に送る、○此日、植木屋来る、○川上眉山逝く、享年四十、十五日、午前、哲学及び哲学史の試験に心理実験室に行ふ、○高瀬武次郎より絵端書来る、○湊を鴻池銀行に遣はす、○午后、六時頃試験を終る、受験者は、五十嵐博厚、田中経太郎、碧海康温、新田芳、大田黒作次郎、大森万次郎、織田祐萌、田邊元、藤原正、○不在中深作安文来訪す、○「倫理と教育」を大学に寄附す、○

箕作佳吉より来状、○夜、大学図書館より来状、○此日、畳屋来る、〔頁下部に「万国道德会開会」の新聞記事切抜貼付〕

十六日、午前、「農業修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○書状を大島義修、東敬治、原平吉に、端書を高瀬武次郎、阿部維巖、辻本卯藏に送る、○森良三郎来訪す、○縫子、姉崎及び吉田宅に

赴く、○午后、枝元長夫来訪す、之に写真を貸付す、○佐々木弘綱の伝を草す、○森良三郎と崖下右方の新建築を観る、是れ、此日を以て創始する所に係る、○雷雨、○夜、深作安文来訪す、

十七日、午前、講義に学習院に赴く、○織田祐萌来訪す、○麻生正藏妻岸代死去の通知書来る、○午后、「教界苦言」中外日報に出づ、○菊池大麓より来状、○山口元次郎来訪す、○富田順吉より縫子に書状を送来る、○夜、書状を渡部董之介及び麻生正藏に送る、○東敬治、武内紫明及び学習院より端書来る、

十八日、午前、大島義修より来状、○高島平三郎より絵端書を送来る、○印度哲学の試験に心理実験室に赴く、○湊を学習院及び三井銀行に遣はす、○清水商会の大工来る、○午后、引続き試験を行ふ、受験者は、林澄達、藤井慶乗、藤井龍雲、後藤澄心、佐伯興人、木村隆法、茂野純一、○不在中武内紫明及び浦谷熊吉並に阿部峰子来訪す、○田中宮内大臣、深作安文、建部遯吾、松下巖之進及び日本弘道会より来状、○夜、阿部峰子来訪す、○育成会より来状、○校正を育成会に送る、

十九日、午前、倫理学の試験に心理実験室に赴く、受験者は龍谿観興、井上専敬、本城群次郎、田尻茂、山口天祐、岩橋遵成、豊島

要三郎、安東佐登治、岩波茂雄、○午后、六時過試験了る、○不在中石川区教育会より来状、○景岳会より「橋本左内全集」を送来る、○大学より「大日本史料」(第六編之七)を贈来る、○夜、新聞を読む、

二十日、午前、江木千之、井上成美来訪す、○午后、育成会より校正来る、○校正を育成会に送る、○借用書籍七点を松下巖之進に送る、○書状を松下巖之進、宮田修に送る、○浦谷熊吉、辻本卯藏来訪す、○辻新次を訪ひ、且つ之に「倫理と教育」を送る、○宮内省より来状、○夜、江木千之、帝国学士院より来状、○書状を小杉熙及び鹿田静七に、端書を枝元長夫に送る、○雷雨、

廿一日、午前、堀田相爾、石川岩吉、山口重智、新田芳、亀山玄明来訪す、○後藤狂夫、使者を遣はして書状を送来る、○深作安文より鶴子餅を送来る、○午后、井上成美、浦谷熊吉、葉山万次郎、岩崎歌郎、村上某、齋藤庸一郎、植田弥吉夫妻来訪す、○書状を後藤狂夫、建部遯吾、江木千之に送る、○夜、宮田修より来状、○弘道会の速記を訂正す、

廿二日、午前、小笠原実成より来状、○三島復来訪す、○湊を東海銀行に遣はす、○縫子、子女を拉して外出す、○吉田雪子来る、○午后、建部遯吾、江木千之より書状、枝元長夫より端書来る、○姉崎益子来る、○東明館に赴く、○文科大学の使者に口述試験の点数を付与す、○夜、浦谷熊吉来談す、

廿三日、午前、文明協会々員某来談す、○宮内省に赴き、賜物を拝領す、○不在中曾田文甫、丸山篤来訪す、○森良三郎来談す、○

続蔵經二套を郵便局より受取る、○午后、建部遯吾、阿部維巖より書状、東敬治より端書来る、○すみれ会を開く、来会者八人「吉田松陰及び山鹿素行の事蹟」を談話す、○大雨、○夜、書状を葛岡敬雄に送る、○此日、堀川三四郎、東亜協会々員となる、○国木田哲夫(号_三独歩)逝く、享年三十八、

廿四日、午前、学習院女学部に行く、○岩田僊太郎より「初等勅語教本」を送来る、○午后、教授会に大学に赴く、○西田政造より来状、○宇野哲人ペナンより絵端書を送来る、○文部省より辞令書を送来る、云く、教員檢定委員会臨時委員被仰付、○仮名遣委員会より来状、○哲学科卒業生と大学に於て撮影す、○夜、書状を浦谷熊吉に、校正を岩田僊太郎に送る、○西田敬止来訪す、○此日、清水商会の大工来る、

廿五日、午前、教授会に大学に赴く、○森良三郎来談す、○午后、「陽明哲学」二百部の奥附を富山房に付与す、○鹿田静七より「困弁録」及び「陽明詠学詩」を送来る、○書状を辻新次に送る、○曾田文甫、枝元長夫来訪す、○夜、辻新次より来状、○浦谷熊吉、文学社手代鈴木某、吉田夫婦来談す、○此日、清水商会の大工来る、廿六日、午前、吉田宅に赴き、其買得せんとする家屋を見る、○午後、本庄精次、浦谷熊吉、小杉熙、及び文明協会より来状、○堤寛より藤樹書院絵葉書五枚を送来る、○高瀬武次郎より絵端書を送来る、○齋藤信良、根岸弥三郎、長島作太郎来訪す、○仮名遣委員会に文部大臣官邸に赴く、○夜、吉田雪子来談す、○大倉書店より校正を送来る、

廿七日、午前、校正を秀英舎に送る、○森良三郎来談す、○大倉書店に電話をかく、○佐々木信綱より電話かゝる、○午后、書状を阿部浩、辻新次及び堤寛に送る、○乃木希典、原祐道来訪す、○夜、尾上八郎、堀田相爾、中井宗太郎来訪す、○水交社より「武士道講話」を送来る、○佐々木弘綱の伝成る、○春陽堂より来状、廿八日、午前、岩橋遵成、佐々木信綱、田中経太郎、水島耕一郎、鈴木三重吉来訪す、○午后、上野公園に赴く、○西田政造より茶を送来る、○西田幾一郎より論文と書状とを送来る、○森良三郎来談す、○加藤駒二より来状、○「東亜の光」を中村勝磨に送る、○夜、新聞雑誌を読む、○「儒教の真義」教育時論に出づ、○川田鏡弥より端書来る、

廿九日、午前、「武士道講話」を読む、○端書を西田政造に送る、○午后、江口保之助、豊島要三郎、木下伊都磨、加藤玄智来訪す、○人事興信所より興信録を送来る、○加藤駒二より来状、○清水商会の手代来る、○夜、日本学会に大学山上御殿に赴く、保科孝一及び市村瓊次郎の講演あり、盛会なり、○大島義修、辻新次、中井宗太郎姉より来状、三十日、午前、湊を商栄銀行に遣はす、○書庫の整理をなす、○午後、湊を鴻池銀行に遣はす、○浦谷熊吉、吉田熊次、小谷重来訪す、○森林太郎、沖莊藏、富山房及び文科大学より来状、○大工に金貳百円、植木屋に金拾円を支払ふ、○文学士相原熊太郎、全高橋俊英及び京華中学教諭三名、東亜協会々員となる、○夜、辻本卯藏来訪す、○書状を蔵経書院に、端書を森林太郎に送る、○

大倉書店より校正を送来る、○此日、本年度上半期の教科書検印総数を調査するに、金港堂の中学修身巻万七千部、女子修身巻万七千五百六拾部、新編倫理参百部、農業修身巻千六百分部、商業修身一百部、師範修身巻千四百九拾部、総計参万八千〇五拾部、文学社の中学修身巻万四千四百七拾部、金港堂の分と合計五万五千五百式拾部、(頁上部に「外に文学社の「中学修身」五百部あり」と書込み)外に勅語衍義一千部、倫理教育一千部、勅語教本式千部、武士道叢書上巻五百部中巻五百部、陽明哲学一百部及び無印税の日本倫理彙編五百部を發行す、総合計五万八千百式拾部、

七月

一日、午前、学習院女学部へ赴く、○伊藤六蔵来訪す、○暁星中学校より来状、○午后、曾田文甫、児玉正誼、望月馬太郎及び仮名遣委員会より来状、○「東亜の光」(三の七)成る、富山房より拾部送来る、○湊を三井銀行に遣はす、○「東亜の光」二部を清水彦五郎に送る、○縫子、吉田宅に赴く、○書状を佐々木信綱、山座円次郎、池辺義象、端書を岩田僊太郎、坂本生成に送る、○夜、齋藤精輔より校正来る、乃ち直に之を送返す、○来学年の講義題目を文科大学に送る、

二日、午前、中島徳蔵来談す、○堤寛より書状及び近江新報を送来る、○原平吉に電話を掛く、○午后、本庄精次、田中義能、藤塚鄰、大田黒作次郎来訪す、○小谷重に電話を掛く、○夜、文科大学及び仮名遣委員会より来状、○齋藤精輔来訪す、○富嶽志の序を草す、○此日、午前、大阪市平民野口事武林男三郎死刑に処せ

られる、

三日、午前、「富嶽志序」成る、○大森万次郎来訪す、有故不遇、○田中正平より招待状来る、○午后、大倉保五郎来訪す、○仮名遣委員会に文部大臣官邸に赴く、○不在中中村安之助、堀田相爾来訪す、○毎日電報社より書状及び菓子箱を送来る、○実業之日本社より来状、○岩田僊太郎、柳谷謙太郎、小柳司氣太及び蔵経書院より端書来る、○柳谷謙太郎より山鹿素行書類を送来る、○夜、諸雑誌を読む、○「富嶽志序」を曾田文甫に送る、○此日、西園寺首相辞表捧呈、

四日、午前、佐々木丹次より来状、○午后、浦谷熊吉、江部淳夫、堀田相爾来訪す、○池邊義象より来状、○Archiv für systematische Philosophie (五月号)来る、○夜、庄野金十郎より来状、○諸雑誌を読む、○書状を文科大学に、端書を田中正平に送る、○此日、棚橋一郎及び岡本遵成、東亜協会々員となる、五日、午前、田邊元、松浦一、宮崎彦磨、土肥竹次郎、織田祐萌、大森万次郎来訪す、○午后、姉崎、新村、塩谷三氏より絵端書を送来る、○古事類苑(天部及び歳時部)来る、○小谷重より来状、○湊を本郷に遣はす、○校正を大倉書店に送る、○寺野精一宅を訪ひ、尋いで姉崎宅を訪ふ、○夜、弔詞を塚原政次に送る、○此日、土肥竹次郎、東亜協会々員となる、

六日、午前、湊を郵便局及び区役所に遣はす、○端書を波多野精一、加藤玄智に送る、○午后、黒板勝美及び山崎直より絵端書を送来る、○深作安文の儒者伝を訂正す、○森良三郎、得能文妻及び税

務署員来訪す、○晩景運動をなす、○夜、帝国教育会より来状、
○加藤玄智来訪す、

七日、午前、辻新次より来状、○田中鶴林来訪す、○午后、山口志
げ、井上相如、来談す、○書状を庄野金十郎に送る、○夜、哲学
及び哲学史卒業生謝恩会に山上御殿に赴く、共に写真を取り、共
に会食す、○The Dr. David Murray: Memorial Dinnerを送来
る、○此日、学習院女学部より御礼を送来る、

八日、午前、学習院女学部へ赴く、○伊藤悦太郎より来状、○不在
中乗杉嘉壽、菓子箱を携へて来訪す、○「教育雜感」教育界に出で、
「何故の自殺?」大阪毎日新聞に出づ、○午后、「師範修身」二百
部の奥附を金港堂に付与す、○「儒者伝」の原稿を深作安文に送る、
○絹地を伊藤悦太郎に送返す、○縫子、浦谷熊吉宅に赴く、○夜、
文科大學懇親会に植物園に赴く、○不在中深作安文来訪す、○吉
田夫婦来談す、○帝國大學及び穂積陳重等より来状、

九日、午前、学習院女学部及び富田順吉より来状、○坂本嘉治馬、
来談す、○清水満之助より砂糖壺樽、磯江潤より浴衣二反及び巨
盆壺筒を贈来る、○「倫理と教育」の紹介及び批評、「The Japan
Daily Mail」に出づ、○図書刊行会より「集古十種」壺冊、「松屋
筆記」壺冊を送来る、○午后、波多野精一、森良三郎、浦谷熊吉、
古城貞吉、増田惟茂、小野田亮正来訪す、○夜、吉田松陰五十年
記念大会委員会に帝国教育会に赴く、○江木千之、根本正、松村
茂助、馬屋原彰、戸野周次郎等と会見す、○帝國大學書記官、文
科大學及び福岡県教育會長庄野金十郎より来状、○堤寛、東亜協

会々員となる、

十日、午前、森良三郎来訪す、○端書を世光社及び浦谷熊吉に送る、
○郵便為換を鹿田静七に送る、○午后、山崎洋服店員来る、○大
日本統藏経第壺輯第四十三套及び第四十七套を受取る、○書状を
教員檢定委員長及び谷慶祐に送る、○波多野精一より来状、○
贈品を伊藤悦太郎に送返す、○夜、雜事、

十一日、午前、宮崎彦磨来訪す、○帝國大學卒業式に赴く、乃木希
典、洪沢栄一、林権助、富井政章、長井長義等と会見す、卒業生
法科二百五十四人、医科百十四人、工科百六十五人、文科百廿四
人、理科三十人、農科八十二人、総計七百六十九人、○不在中笹
川貞子来訪す、○午后、浦谷熊吉、清水金右衛門来談す、○六盟
館よりハンケチ二箱、浅倉屋より菓子箱を送来る、○夜、深作安
文来訪す、

十二日、午前、手塚光貴、東敬治、補永茂助、上野陽一、遠藤隆吉
来訪す、○宮坂喆宗より来状、○同文館より文房具壺箱、文明協
会よりビール壺打、富山房よりビール壺箱、三省堂より鶏卵箱を
送来る、○吉田一家転宅をなす、宣光及び湊、加勢に赴く、○午
后、丁酉倫理会に赴き、尋いで帝國學士院に赴く、○雷雨、○夜、
十時頃帰宅、

十三日、枝元長夫より来状、○瀧精一、堀田相爾来訪す、○伊澤千
世子ビール壺打及び其他二三点を携へて来訪す、○村松喜太郎よ
り鶏卵、石川栄司より菓子一箱及び倫理彙編全部を送来る、○森
良三郎来談す、○新に東亜協会々員となる者、文學博士幣原坦、

文学士大森万次郎、全大田黒作次郎、全五十嵐博厚、全織田祐萌、全藤塚隣、全山口察常、全林澄達、全佐伯興人、全茂野純一、全上野陽一、全奥田正造、全鶴飼祐弼、全増田惟茂、全龍谿觀興、全岡本遵成、全豊島要三郎、全林正因、全神林隆浄、全藤等忍、全前川万次郎、全青木健作、全丸山篤、全江口保之助、全阿部真之助、全南木性海、全藤本政介、全横田泰邦、全瀧山義亮、全瀧泰巖、全竹島寛、全松本勘太郎、全宮地直一、全伊藤文雄、全西川五郎、全野村宗朔、藤井竟、全植松安、全大橋廓道、全田中豊藏、全村上喜貞、全南日重治、全生田鹿之丞、全藤谷意、及び農学士山本正英等総べて四拾有余名、東亜協会々員となる、○午后、浦谷熊吉、中井宗太郎、龍居松之助、藤尾鷲三、阿野季忠（以上三名学習院学生）、来訪す、○賀古耳科院より来状、○林平次郎よりピール半打を送来る、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、ケーベル氏宅に招燕に赴く、○不在中天海重喜より来状、○村田五郎、鯉節を携へて来訪す、○此日、菓子箱を村松喜太郎及び桶屋に各々忝箇宛送る、

十四日、午前、江木千之来訪す、○中村和之雄及び松下巖之丞より来状、○書状を富尾木知佳に送る、○姉崎宅より菓子を送来る、○午后、新内閣成立、総理大臣桂太郎（兼大）、内務大臣平田東助、陸軍大臣寺内正毅（兼大）、海軍大臣齋藤実、司法大臣岡部長職、文部大臣小松原英太郎、農商務大臣大浦兼武、通信大臣後藤新平、○鶏卵箱を姉崎と浦谷に各々箇宛送る、○帝国教育会及び暁星中学校より来状、○大島正徳、森良三郎、前川又三郎、福来友吉、

小谷重来訪す、○丙午出版社より「倫理学原論」及び「迷想的宇宙觀」を送来る、○夜、速記を訂正す、○此日、崖下の新家屋二軒成る、

十五日、午前、江木千之、波多野精一より来状、○ピール忝箱を吉田宅に送る、○三上参次に電話を掛く、○吉田宅に赴く、○午后、「嶽影を觀るの記」を草す、○姉崎益子、尾原亮太郎、長島作太郎、富谷實来訪す、○瀧精一より「国華」、晚成所より「初等勅語教本」を送来る、○仮名遣委員会及び安東居留民団役所より来状、○夜、「嶽影を觀るの記」を作る、

十六日、午前、井上成美、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○ハンケチ二打を深作安文に、鯉節を大塚楠緒子に送る、（東亜協会の為め）○午后、書状を延壽館、遠藤隆吉、原田稔甫、庄野金十郎、吉田熊次に、端書を波多野精一に送る、○齋藤精輔来訪す、○縫子、絹屋に赴く、○夜、書状を児玉正誼、坪井九馬三、延壽館及び濱口庄吉に、端書を枝元長夫及び庄野金十郎に送る、○国語調査会より印刷物を送来る、

十七日、午前、三上参次及び中島徳藏の使者、各々書状を携へて来る、○山鹿素行の法会書類を三上参次の使者に付与す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○弘道会の速記を訂正す、○縫子、白木屋に赴く、○森良三郎来談す、○吉田熊次より電話かゝる、○弘道館より鶏卵箱を送来る、○午后、平川泉吉、小鹿青雲、片岡久太郎来訪す、○曾田文甫、「富嶽志」を携へて来る、○大野太衛、使者を遣はして書状を寄す、○佐々木信綱より苺酒

壺箱を寄来る、○谷慶祐、西田敬止より来状、○石原即間より絵
端書を送来る、○夜、訂正速記を弘道会に送る、○上村觀光より
来状、○此日、教育検定委員会松浦鎮次郎より来状、乃ち之に返
事を送る、

十八日、午前、米国 Barnes Hall, Cornell University, Ithaca, N.Y.

在の岡部為吉より来状、○浦谷熊吉、森良三郎、岸吉太郎、姉崎
袖子来訪す、○「嶽影を觀るの記」を浦谷熊吉に送る、○東亜協
会の為めにビール半打を尾上八郎に、ビール壹打を松浦一に送る、
○山崎より洋服を送来る、○午后、堀田相爾、吉田雪子来談す、
○「中朝事実」二部と書状とを山鹿旗之進に送る、○「自然と道
徳」の速記訂正を中島徳藏宅に送る、○児玉正誼、山鹿旗之進よ
り来状、○夜、石橋友次郎より来状、

十九日、午前、竹内松治、千葉亀雄、岩崎歌郎来訪す、○大倉書店
より校正来る、○午后、書状を西田敬止に送る、○神田南明館に
赴く、○夜、Höfding, Ethik を読む、
二十日、午前、吉田修夫、嵩海藏、大島義修来訪す、○書状を葛岡
敬雄及び円藤鎮に送る、○「朱子哲学」五十部の奥附を富山房に
付与す、○午后、二、〇〇頃宣光を拉して出發、電車中花田仲之
助及び手塚光貴と会見す、○三、三〇新橋出發、

廿一日、午后、九時、門司着、投_二軛屋、○湯浅俊太郎、延壽館に
来る、

廿二日、午前七、二四門司発、全一〇、〇〇二日市着、直に延壽館に
赴く、濱口庄吉、塩川佃、谷慶祐、博多ステーションに迎ふ、○

午后、井上俊雄、富田順吉、全真道来訪す、○宣光、俊雄と宰府
に遊ぶ、○夜、市街に散歩す、

廿三日、午前、福岡高等女学校内に講習会を開く、聴衆約式百五十拾
名、西村謙三(修猷館長) 杉本源吾(工業学校長) 太田徳次郎(商
業学校長) 中村能道(県視学) 津田利夫、奥田教信(女子師範学
校長) 大森藤藏、島田寅次郎、齋田耕陽、加藤常次郎(伝習館長)
細見保(久留米高等女学校長) 佐々木巳喜次(小倉高等女学校長)
等と会見す、○富田貞松より来状、○富田順吉より端書と新聞と
を送来る、○午后、稲生森太、大森喜代太の書状を携来る、○宣
光を拉して大宰府に遊ぶ、○留守宅よりブラシユを送来る、○夜、
井上健児夫妻来訪す、

廿四日、午前、講習会に赴く、水月哲英と会見す、○野田義夫より
来状、○午后、谷慶祐、湯地幸平(福岡県事務官) 来訪す、○夜、
無事、

廿五日、午前、講習会に赴く、途上齋藤壽七、及び古川勝隆に逢ふ、
○宣光、川端に赴く、○午后、富田とらき、齋藤儀八、座親玄山、
古川勝隆、齋藤繁太郎、来訪す、○夜、無事、

廿六日、午前、講習会に赴く、津田如広と会見す、○帰途川端に寄
り、宣光を拉して帰る、○縫子より来状、○午后、野田壽子より
来状、○夜、無事、

廿七日、午前、講習会に赴く、芹沢政衛(嘉穂中学校長) 織田勝馬
(小倉師範学校長) と会見す、○午后、中洲に赴く、○深作安文よ
り来状、○夜、無事、

廿八日、午前、講習会に赴く、森岡栄、大木俊九郎（修猷館教諭）等と会見す、○午后、谷理蔵来訪す、○吉田豊、齋田耕陽及び宣光と共に都督府址及び観音寺を訪ひ、古川勝隆宅に寄り、墓所に参拝し、尋いで西正寺に赴き、更に齋藤儀八宅に到り、菅廬に謁し、文書館に赴き、大宰府有志者に向つて一場の演説をなし、宴会に移り、十時頃延壽館に還る、列席者は左の如し、

萩尾友次郎、西高辻信禪（官司）、富山路別、富田幹三郎、大江田美鋤、小野弥之助、岡崎尚彦、大野東次郎、大藪善八、免木敬太郎、大野宗策、萱島秀山、加野吉三郎、与子田教行（襦宜）、高田磯三郎、中村久吉、梅岡巖謹、吉原勘次郎、上村米吉、栗原秀太郎、安恒篤次郎、安恒篤太郎、山内契順、古川勝隆、不老繁雄、不二川亀雄、古賀亀七郎、齋藤儀八、全壽七、全繁太郎、座親玄山、木村弥平、宮垣暢丸（主典）、宮小路克三郎、御田住雄、杉氏敏、

廿九日、午前、宣光を拉して天拜山に登る、○午后、武徳会に赴き、武士道に関する演説をなす、田中秀夫（検事正）、植田弥吉、山本悌三郎（大佐）等と会見す、帰途川端に寄る、○保々清音来訪す、○武徳会及び教育会より御礼の為に來る、○夜、福岡県教育家の招燕に大丸に赴く、來会者は吉田豊、奥田教佑、西村謙三、中垣高等女学校長等拾有余名、○政喜、真道を拉して來る、三十日、午前、県教育總會に県會議事堂に赴き「具原益軒と将来の教育」を演説す、山県齊高（福岡監獄典獄）緒方道平（農工銀行）秋吉音治（朝倉中学校長）大西武（門司高等女学校長）織田勝馬（小

倉師範学校長）等と会見す、○午后、菅原順来訪す、○宣光を拉して浄明院及び水城に赴く、○夜、齋藤々三郎、井上健児、福井嘉納来訪す、

卅一日、午前八時出發、甘木に赴く、途上貞松来迎す、十時十五分甘木着、謁「先人墓」、尋遊「龍泉寺」、近藤義雄夫妻及び間端吾兄等と会見す、○午后六時帰館、○不在中山田修より端書來る、○夜、細見保より端書來る、○七月の到來物は如し左、

羊羹壺箱	乗杉	ビール半打	林平次郎
浴衣二反及巨盆	磯江	ビール壺打	富山房
カステイラ	毎電	ビール壺打	文明協會
ハンケチ壺箱	大森	鶏卵壺箱	三省堂
苺水二瓶	得能	文房具	同文館
砂糖壺樽	清水商会	鶏卵壺箱	村松
クタニ焼	森良三郎	菓子壺箱及	
燈籠	井上相如	倫理彙編	育成会
鯉節	村田五郎	菓子箱一ツ	浅倉
菓子壺箱	笹川	ハンケチ壺箱	竹内松治
ハンケチ二打	六盟館	梅漬	吉田宅
サトウ壺樽	文栄閣	ニンシンクンセイ	尾原
菓子箱一ツ	姉崎	カステイラ	深作
苺酒	佐々木	鶏卵箱	弘道館
ビール壺打及其他二三	点	伊澤修二宅	
クタニ焼	阿部莊二	釵及襟及カステイラ	遠藤

一日、午前、宣光を拉して博多に赴き、東林寺及び聖福寺、東公園並に箱崎に遊ぶ、村末来る、○午后、浅野陽吉、保々清音来訪す、乃ち共に久留米に至り、明善中学に於て一場の演説をなす、聴衆約三四百人、三谷有信、江口昌條、金澤来蔵、恵利千次郎、星野房子と会見す、

二日、午前、山田修、保々清音来訪す、○電報を村上元子に発す、○一〇、四六二日市出発、車中熊谷玄旦に逢ふ、○延壽館滞在中の贈物は如左、

菓子志箱及菓物	儀八	菓物一籠	谷理蔵
カステイラ	吉田豊	全上	村末
玉子素麺	谷慶祐	缶詰三ツ	保々清音
菓子	座親玄山	カン詰四ツ	吉武
葛索麺及切レ	健兒	扇子	萱島秀山
茶器志箱	淳	紫錦苔	村友
紋	野田	菓物及玉子	中洲
菓子志箱	拝山	紋及菓子	富田
博多織五種	講習員		

○不在中千賀鶴太郎、志水次郎、阿部莊二、齋藤清太郎、佐伯利麿、若木広良、飯沼松枝、佐々木嘉哉、藤田季莊等来訪す、○姉崎正治、石橋臥波、東敬治、大野太衛、本居豊頼、松田孫治郎、深作浅次郎、文科大学及び帝国教育会等より来状、○八木光貫、成田衡夫、笹倉新治、宇野哲人より絵端書を送来る、○上岡市太

郎、加瀬駒太郎、上野陽一、中村たね子、高瀬武次郎、樋口源吉、石川順也、芳村正乘より端書来る、

三日、夜、九時、新橋着、十時頃帰宅、

四日、午前、竹内松治及び隆文館員某来訪す、○夜、雪子来る、○

此日、「東亜の光」(三の八)成る、富山房より拾部を送来る、

五日、午前、松本文三郎、浦谷熊吉来訪す、○午后、志水次郎、

志田義秀来訪す、○夜、中熊直喜より来状、○此日、「師範修身」

一百枚の奥附を金港堂に付与す、

六日、午前、大野太衛来訪す、○午后、曾田文甫、安河内健次、吉

松英男来訪す、○粒良市三郎、広池千九郎より端書来る、○姉崎

正治より *La Revue du Mois* を送来る、○夜、深作安文来訪す、

○此日、縫子、元良笹川二氏を訪ふ、

七日、午前、吉田静致及び田中義能より絵端書来る、○午后、森良

三郎来談す、○「東亜の光」(八)を吉武誠に送る、○暴風雨、

○雑誌類を読む、○夜、枝元長夫より来状、

八日、午前、飯沼松枝来訪す、○午后、神宮司序より来状、○法貴

慶次郎より絵端書を送来る、○政喜より縫子に來状、○浦谷熊吉

来訪す、○「東亜の光」(三の八)を齋田耕陽に送る、○夜、飯

沼松枝より來状、○生川藤一郎より端書来る、直に之に返事を送

る、○書状を乙竹岩造に送る、○堀田相爾来訪す、○「師範修身」

一百部の奥附を金港堂に付与す、

九日、午前、竹内松治、堀江久勝、黒木安雄、山川波次、深川清太郎、

手塚光貴来訪す、○加藤玄智より絵端書を送来る、○芝田徹心及

び松村正一より来状、○縫子、伊澤氏を訪ふ、○午后、書状を那須の小松屋に送る、○「学生宝鑑」の校正を看了る、○夜、磯野貞子、赤井直好より来状、○天海重喜より端書来る、○此日、平井参、東亜協会々員となる、

十日、午前、須藤求馬来訪す、○縫子、姉崎及び吉田宅に赴く、○午后、独和辞典の校正をなす、○枝元長夫より端書来る、乃ち之に返事を送る、○夜、諸雑誌を読む、○此日、「勅語教本」(見本)三百部の奥附を晩成所に付与す、○縫子より村上元子にビスキツトと書状とを送る、○「学生宝鑑」校正の全部を大倉書店に付与す、十一日、午前、船越やすより絵端書来る、○原平吉来る、乃ち之に「独和辞典」の原稿を付与す、○井上成美来談す、○午后、浦谷熊吉来談す、○上野陽一來る、乃ち之をして武士道の事を筆記せしむ、○池邊義象、東亜協会々員となる、○書状を木下伊都磨に送る、○夜、吉田雪子来る、○「独和辞典」の校正をなす、○此日、「自然と道徳」丁酉倫理に出づ、

十二日、午前、書状を安河内健次に送る、○木下伊都磨及び箭内源太郎より来状、○教育之實際社より速記者来る、乃ち「儒教の復活と今日の教育」を速記せしむ、○写真師来りて書齋の写真を取る、○岡野義三郎来訪す、乃ち昼餐を共にす、○午后、伊東尾四郎より来状、○原平吉来訪す、乃ち之に「独和辞典」の校正を付与す、○夜、吉武誠より来状、○「独和辞典」の校正をなす、十三日、午前、新保巽、笹川種郎来訪す、○湊を第百銀行に遣はす、○家屋新築届を区役所に出す、○安河内健次より来状、○上

村觀光より「五山文学全集」第三輯を送来る、○午后、「独和辞典」の校正をなす、○富山房より製本「大日本地名辞書」を送来る、○「独和辞典」の校正を大倉書店に付与す、○電報を小松屋箭内源太郎に送る、○夜、Dritter Internationalen Kongress für Philosophie, Heidelberg 1908の報告(議事日程)来る、○原田秀泰来訪す、○「所感を述ぶ」弘道第一九七号に出づ、○深川三十四、東亜協会々員となる、

十四日、午前、七、二五児女を拉して上野を出発す、高崎正風に上野ステーションに逢ふ、一一、五〇黒磯着、乃ち書状を留守宅に送る、○午后、一、〇〇馬車に駕して出発、六、〇〇頃湯本着、小松屋(箭内源太郎)に投ず、○大倉書店より来状、○Dr. Friedrich Paulsen 逝く、六十二歳、

十五日、午前、上野陽一より武士道の原稿を送来る、○書状を大倉書店に送る、○賽の河原に遊び、殺生石を観る、○午后、武士道の原稿を訂正す、○「那須温泉案内」を読む、○夜、勉強、十六日、午前、武士道の原稿を同文館に送る、○秦政二郎より来状、○「教育之實際社」より原稿を送来る、○「儒教の復活と今日の教育」を訂正す、○午后、弁天に赴く、○夜、縫子及び宣光等来る、○此日、留守番を森良三郎に委嘱す、十七日、午前、縫子等を拉して殺生石の処に遊び、尋いで眺望亭に赴く、○午后、「井上侃齋翁略伝」を井上健児に送る、○「武士道叢書」巻五百部の奥附を博文館に付与す、○夜、留守宅より小包来る、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

十八日、午前、春枝風邪を患ふ、○書状を井上健児に送る、○午后、児輩を拉して高尾股に遊ぶ、○此日、三好退蔵逝く、

十九日、午前、無事、○午后、食初庵及び小松茶屋に遊ぶ、

二十日、午前、速記を訂正す、○午后、引続き速記を訂正す、○医

学博士林春雄来訪す、○此日、春枝快癒す、○宣光腸加答児を患ふ、

廿一日、午前、再び縫子等を拉して高尾股に遊ぶ、○午后、速記を訂正す、

廿二日、午前、縫子等を拉して山野（白川路）に遊ぶ、○午后、「中学修身」を修正す、

廿三日、午前、「倫理と宗教との関係」一百部及び「日本古学派之哲学」五十部の奥附を富山房に付与す、○家族を拉して茶臼嶽に登る、井阪五郎等亦俱に来る、大丸に休息し、遂に絶頂に焚ち、噴火口を觀る、帰路雷雨に逢ふ、再び大丸に休息し、夕景湯本に返る、○此日、隆文館山本某より来状、

廿四日、午前、小松屋の書画帖を觀る、○竹内松治より来状、○家族と共に鰻屋に赴く、○午后、「学生宝鑑」の校正を觀る、○「倫理と教育」五百部の奥附を弘道館に付与す、

廿五日、午前、校正を大倉書店に送る、○再び書画帖を觀る、○速記を訂正す、○午后、引続き速記を訂正す、

廿六日、午前、六、〇〇湯本出發、一、〇、〇〇頃黒磯出發、○午后、三、三〇頃上野着、四、三〇頃帰宅、○此日、小杉熙より来状、○黄紹箕の計報来る、

留守中の訪問者は、補永茂助、佐々木宗要、竹内松治、樋口隆一、

大村欣一、広井辰太郎、乗杉嘉壽、金太仁作等、○来状は龍巖觀興、井上円了、岡野義三郎、飯沼松枝、留岡幸助、Galen M. Fisher等の分、○端書は、上野陽一、安河内健次、桑原臨蔵、矢野仁一の分、絵端書は、河野常吉及び有馬祐政の分、○其他寄贈書三四種、

廿七日、午前、小杉熙より鮎沓包を送来る、○湊を東海銀行に遣はす、○午后、姫河原伏也来訪す、○届書を大学に送る、○「みやげ」を姉崎、森、浦谷の三軒に送る、○夜、新聞雜誌を読む、

廿八日、午前、森良三郎、大島正徳、吉田雪子来訪す、○午后、独和辞典の校正を觀る、○中島徳蔵来訪す、○書状を留岡幸助及び奥田教估に送る、○夜、書状をGalen M. Fisherに送る、○雜誌類を読む、

廿九日、午前、校正を大倉書店に送る、○書状を秦政二郎、村上元子、富田春山、西高辻信稚、杉氏敏、小杉熙に送る、○山本庫太郎来訪す、○午后、佐々木信綱より書状、菓子及び和歌よ、のあとを送来る、○文部省より修身科の答案（東京の分）を送来る、○吉田修夫来訪す、○独和辞典の校正を觀る、○夜、野田義夫来訪す、○答案を読む、

三十日、午前、竹内松治、平川泉吉、溝淵進馬、堀田相爾、岡本遵成来訪す、○小谷重より来状、○金港堂より「中学修身」原稿二冊を送来る、○午后、湊を浦谷熊吉宅に遣はす、○堀謙徳及び辻本卯蔵来訪す、○湊をして三好退蔵の葬式に会せしむ、○堀謙徳、東亜協会々員となる、○検定試験の答案を読む、○夜、波多野精

一より来状、○答案を読む、○「試験の際に注意すべき要点」を作る、

廿一日、午前、留岡幸助の使者、書状を携へて来る、乃ち之に「倫理と教育」を付与す、○大日本図書会社に式円五拾銭（官報及び職員録代価）を送る、○渡辺新太郎より来状、○午后、浦谷熊吉、森良三郎、原平吉、中島徳蔵来訪す、○富山房より使者来る、○夜、無事、○此日、三好博士奨学資金を寺野精一に送る、

暑中見舞状を送来りし者は、龍谿觀興、有馬祐政、天海重喜、松村正一、芝田徹心、赤井直好、吉田静致、田中義能、粒良市三郎、船越やす、加藤玄智、法貴慶次郎、小野清秀、中熊直喜、広池千九郎、

暑中到来物

末広二本	大倉書店	菓物	志水代次郎
茶	曾田	玉子大箱	齋藤
ハンケチ	晩成所	笹飴	飯沼
ナラ漬及玉子	浦谷	菓子	佐々木信綱
鮎	小杉	漬物	杉本
団扇二本	伊井		

九月

一日、午前、大類伸来訪す、○午后、速記の訂正をなす、○図書会社より職員録来る、○浦谷熊吉来訪す、○夜、加藤玄智来訪す、○丸善より Schiller, Studies in Humanism を送来る、○速記を訂正す、

二日、午前、齋藤精輔、山本庫太郎、井上成美来訪す、○湊を東海銀行に遣はす、○「東亜の光」(三の九)成る、○内田亭、深作安文より来状、○安田旭軒、教育界の爲に来る、○午后、巢鴨村に赴く、○姉崎益子、正見を携へて来る、○速記を訂正す、○夜、藤田季莊来訪す、○奥田教估より来状、○此日、文部省より答案を送来る、○男爵菊池大麓、京都帝国大学総長となる、

三日、午前、上野春平、内ヶ崎作三郎、村上直次郎、宮坂喆宗来訪す、○「儒教の復活と今日の教育」教育の実際に出づ、○成瀬仁蔵、「花紅葉」を携へて来る、○午后、枝元長夫、中川愛氷、大田黒作次郎来訪す、○「時代精神の欠陥」を山本庫太郎に送る、○校正を大倉書店に送る、

四日、午前、大雨、○午后、保々清音及び留岡幸助より来状、○星野房子、浅野陽吉、細見保東亜協会々員となる、○阿部莊二来訪す、○湊を東海銀行及び神田橋税務署に遣はす、○教育会の速記及び中学修身を訂正す、○夜、村上茂登より来状、○教育会の速記を訂正す、○此日、内ヶ崎作三郎欧州に赴く

五日、午前、笹川種郎、吉田熊次来訪す、○阿部維巖及び原田理一より来状、○帝国教育会の速記を訂正す、○湊を神田橋税務署に遣はす、○午后、「山鹿素行先生に就て」を帝国教育会に送る、○「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○「東亜の光」を笹倉新治、内田亭、堀江久勝、安達常正、村上元子に送る、○弘道館より印税を送来る、○浦谷熊吉来訪す、○「中学修身」の訂正をなす、○校正を大倉書店に送る、○間千代来談す、○夜、臨時仮

名遣委員会より来状、○「中学修身」を訂正す、

六日、午前、育成会より来状、○古城貞吉、豊原清作、船田三郎、得能文、森良三郎、浦谷熊吉、津野菊子、全富子来訪す、○午后、書状及び為換を山内契順及び齋田耕陽に送る、○葉山万次郎、藤田季莊来訪す、○夜、大倉書店より校正を送来る、乃ち之を送返す、○古城貞吉より来状、

七日、午前、虎石恵実、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉、山本庫太郎、山鹿旗之進来訪す、○湊を東海銀行に遣はず、○書状を三好愛吉に送る、○午后、有馬祐政、浦谷熊吉来訪す、○夜、興学会に赴く、○「中学修身」の訂正をなす、○此日、縫子、吉田宅に赴く、○巢鴨の植木屋来る、○書状を神田税務署に送る、

八日、午前、校正を大倉書店に送る、○尾上八郎、竹崎嘉通来訪す、○栗林巳巳藏、東亜協会々員となる、○貝原益軒の書類を史料編纂掛に返す、○倉地歙次郎来訪す、有故不遇、○午后、安田旭軒を速記せしむ、○常盤大定より書状、菓子及び饅節を送来る、○井上健児より茶を送来る、○志田美襄、井上成美、浦谷熊吉来訪す、○田中作治郎及び田中濃来訪す、有故不遇、○文科大学より来状、○「井上侃齋翁略伝」成る、○文部省より検定試験答案を送来る、○「武士道論」武徳誌第三編に出づ、○夜、「中学修身」二百部の奥附を文学社に付与す、○大田黒作次郎より来状、○「中学修身」を訂正す、○此日、植木屋来る、○福来友吉、文科大学助教となる、

九日、午前、渡辺良齋宅に赴く、○真壁逸来訪す、○午后、清水金

右衛門来訪す、○「中学修身」を訂正す、○田中れんより来状、○莊資親、田中作次郎来訪す、有故不遇、○端書を常盤大定、加藤玄智、枝元長夫、清水金右衛門に送る、○夜、教員検定委員会より来状、○「中学修身」の訂正をなす、○此日、植木屋来る、十日、午前、小谷重、岩崎巖及び其姉二人、森良三郎来訪す、○「中学修身」を訂正す、○午后、田辺元、下田卯市、山鹿旗之進、川田鏡弥、清水金右衛門、莊資親、浦谷熊吉、本庄精次、丹羽瀧男、市村瓊次郎、元良夫人来訪す、○夜、野田義夫の送別会に大学に赴く、○吉田雪子来る、○高橋正熊より来状、○竹崎嘉通より結婚式を送来る、○安田旭軒の速記を訂正す、○此日、縫子、姉崎宅に赴く、

十一日、午前、野田義夫、浦谷熊吉、森良三郎来訪す、○湊を近藤薬店に遣はず、○尾上八郎より来状、○中村勝麿、東亜協会々員となる、○田中喜一より「我国に於ける自然主義を論ず」を送来る、○安田旭軒の速記を訂正す、○午后、常盤大定、浦谷熊吉、小林一郎来訪す、○丹羽瀧男をして速記せしむ、○深作安文より来状、○安田旭軒の速記を訂正す、○湊を浦谷宅に遣はず、○電報を保々清音に送る、○国語調査会より来状、○夜、西正寺及び川田鏡弥より来状、○安田旭軒の速記を金港堂に送る、○検定試験の答案を読む、

十二日、午前、土肥竹次郎より来状、○中村千代松来訪す、○検定試験の答案を読む、○湊を遣はしてハンケチを野田義夫に送る、○「倫理と教育」再版の広告出づ、○午后、写真二枚を西田敬止

に送る、○堀江久勝、田中濃より来状、○尾上八郎来訪す、○「中学修身」(一)を金港堂の使者に付与す、○検定試験の答案を読む、○夜、引き続き検定試験の答案を読む、

十三日、午前、幣原坦、浦谷熊吉、竹内松治、真壁逸、櫻井一義来訪す、○「中学修身」一百部の奥附を文学社に付与す、○弘道館より書籍二部を送来る、○田中稷より論文一包を送来る、○午后、書状を川田鍊弥、中村千代松、有馬祐政、齋藤精輔に送る、○上條韓治、真壁逸、葉山万次郎来訪す、○幣原坦より来状、○検定試験の答案を読む、○夜、検定試験の答案を読む、○吉田熊次より来状、○野田義夫、新橋を出発し、欧米に向ふ、○湊をして野田義夫を送らしむ、

十四日、午前、講義に大学に赴く、講義科目は東洋哲学史(東洋哲学概説二時間、道德对宗教問題の研究一時間)及び哲学概論二時間、○「学生宝鑑」五百部の奥附を大倉書店に付与す、○小谷重より「中学修身」(一)を送来る、○午后、「女子修身」二百部及び「師範修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○検定試験の答案を読む、○富田春山及び齋田耕陽カウラより来陽、○夜、藤田季莊来訪す、○検定試験の答案を読む、

十五日、午前、書状を中島力造、吉田静致、吉田熊次に送る、○大日本統藏経第壹輯第五拾套及び第五拾壹套を受取る、○笹川種郎、吉田熊次来訪す、○検定試験の答案を読了る、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、渡辺良齋をして齒を抜取らしむ、○中村千代松より来状、○藤岡作太郎来訪す、

○山本豊、内田亭、東亜協会々員となる、○柳澤保恵より論文を送来る、○夜、勝田吉治郎より来状、直に之に返事を送る、

十六日、午前、講義に学習院に赴く、○大倉書店及び原秀四郎より来状、○音楽学校より「中学唱歌」原秀四郎より「中等国史教科書」を送来る、○不在中小野直三及び近藤歌太郎来訪す、○午后、文科大学教授会に赴く、○不在中清水金右衛門来訪す、○小谷重より「中学修身」(巻四)を送来る、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○此日、齋藤庸一郎来談す、○学生宝鑑再版の届書に捺印して之を大倉書店に送る、○植木屋来る、○「中学修身」百五拾部の奥附を文学社に付与す、

十七日、午前、辻新次、庄野金十郎及び秋田県教育会講演会より来状、○Florenzより絵端書を送来る、○目黒和三郎外学生四五名来訪す、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○研究、○午后、Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○原田信造、大島直治、真壁逸来訪す、○講義に大学に赴く、○不在中木山熊次郎、大田黒作次郎来訪す、○乃木大将及び小松原文部大臣より来状、○上野陽一より校正を送来る、○夜、佐藤信淵の鎔造化育論を読む、○此日、齋藤庸一郎、浦谷熊吉、堀田相爾来訪す、前三者は不在中に来る、

十八日、午前、「中学修身」一百部の奥附を文学社に付与す、○群書類従(活版)壹部を経済雑誌社より購入す、○同文館の速記を訂正す、○午后、国語調査会に赴く、小松原文相及び岡田次官と会見す、○吉田静致より来状、○田中義能、不在中に来訪す、○

夜、荒浪市平をして速記せしむ、○菅公頌徳会より来状、

十九日、午前、笹川種郎、田内八百久万、及び小山、安倍、伊藤外一名の学生来訪す、○同文館の速記を訂正す、○三省堂の為に書齋に於て写真を取らしむ、○田中義能より来状、○午后、堀江久勝、東亜協会々員となる、○「今後の徳育方針」を同文館に送る、

○検定試験の答案及び成績を文部省の使者に付与す、○浦谷熊吉来訪す、○井上鑣来訪す、○岡田良平より来状、○塩谷温より絵端書来る、○研究、○夜、荒浪市平より速記を送来る、○研究、

二十日、午前、田中義能、浦谷熊吉、木山熊次郎、近藤歌太郎、山田孝雄、大森万次郎、志水代次郎、大田黒作次郎来訪す、○島田義純、真壁逸来訪す、有、故不、遇、○山田孝雄より「日本文法論」を贈り、丙午出版社より「達磨と陽明」を送来る、○午后、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○上田万年、深作安来訪す、○山鹿旗之進、田中禮及び帝国学士院より来状、○速記を訂正す、○夜、研究、

廿一日、午前、講義に大学に赴く、○午后、文部省に赴き、小松原文相及び岡田次官と面談す、事、国語調査会に關す、○渡辺良齋宅に赴く、○浦谷熊吉来訪す、○速記を訂正す、○夜、幽室文稿を読む、○吉田夫婦来る、スガ子白山の祭に赴く、○此日、フェノロサ逝く、

廿二日、午前、牧田源治より来状、○山鹿誠之助来訪す、○原稿を浦谷熊吉に付与す、○書状を吉田庫三、尾上八郎、牧田源治に送る、○国書刊行会より書籍二冊を送来る、○午后、書状を円藤鎮

に送る、○湊を区役所に遣はず、○検定試験の成績を訂正して、之を文部省の使者に付与す、○真宗大学々生より来状、○島村満彦外一名来訪す、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○夜、書状を葛岡敬雄に送る、○Wundt を読む、○幽室文稿を読む、○此日、講孟劄記及び幽囚録を購入す、○幸田成友より来状、

廿三日、午前、尾上八郎、新見吉治より来状、○紀平正美来訪し、阿漕焼の菓子入を贈る、○校正をなす、○松陰詩集を購入す、○午后、校正を上野陽一に送る、○山鹿旗之進、野田義夫、真壁逸より来状、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○夜、Paulsen, Einleitung in die Philosophie & Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○松陰詩集を読む、

廿四日、午前、吉田庫三より来状、○所得税貳拾四円九拾八錢、市税所得税附加貳円拾五錢、区費所得税割壹円七錢を区役所に納む、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○浦谷熊吉来訪す、○新町徳、東亜協会々員となる、○婦女通信社より「大日本婦人録」を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○三島復来訪す、○一宮宗誠の追試験をなす、○不在中大島正徳来訪す、○夜、荒浪市平をして速記せしむ、○幽室文稿を読む、

廿五日、午前、宮澤春文より来状、○「大聖釈尊序」を作る、○午后、書状を岡田良平及び大槻文彦に、端書を丸善及び高島大円に送る、○「中学修身」を訂正す、○夜、縫子、スガ子及び春枝、本郷座に赴く、○哲学会事務所及び清水金石衛門より来状、○「中学修

身」を訂正す、

廿六日、午前、岡田良平、鈴木三重吉、田中洲武来訪す、○配所残筆を三上参次の使者に付与す、○「倫理教科書」一百部の奥附を金港堂に付与す、○「大聖釈尊」の序を文明堂の使者に付与す、○大倉書店より第十版の「日本学生宝鑑」三部を送来る、○午后、水産講習所に赴き、「知識と信仰」を演説す、○井上成美、小谷重来訪す、○大槻文彦より来状、○夜、堀田相爾来談す、○古川勝隆及び山本某より来状、

廿七日、午前、丸善より来状、○芳賀矢一、松浦一、竹内松治、葉山万次郎、真壁逸、浦谷熊吉来訪す、○島田義純来訪す、有故不_レ遇、○午后、藤田季莊、秦政治郎、浦谷熊吉来訪す、○丁酉倫理の速記を訂正す、○夜、引続き速記を訂正す、○勉強、廿八日、午前、講義に大学に赴く、○不在中中島徳藏来訪す、○荒浪市平より速記を送来る、○午后、「中学修身」(卷二)を金港堂の使者に付与す、○湊を中島徳藏宅に遣はす、○豊原清作より来状、○「中学修身」を訂正す、○夜、速記を訂正す、○加藤弘之及び三上参次より来状、○此日、秋山悟庵、九州より絵端書を送来る、○教科用図書調査委員会第三部長となる、

廿九日、午前、有賀長雄来訪す、○中等教育研究会の速記を訂正す、○午后、浦谷熊吉、川上才祐来訪す、乃ち写真を川上才祐に付与す、○吉田松陰の事に関する作歌成る、○徳川頼倫及び富田順吉より来状、○中熊直喜、東亜協会々員となる、○書状を山鹿誠之助に送る、○夜、哲学会に赴く、○書状を富尾木知佳に送る、○

小松原文相より来状、○大雨、

三十日、午前、講義に学習院に赴く、○葉山万次郎及び暁星学校より来状、○午后、教科用図書調査委員会に文部省に赴く、江原素六、松平正直、柴四朗、森林太郎、古澤滋、吉川重吉、三宅米吉等と会见す、○岩田僊太郎来訪す、○辞令書四通来る、○夜、「中等教育に於ける徳育の方針」を嘉納治五郎に送る、○此日、市内水害多し、○女中ふみ、結婚の為に還る、

十月

一日、午前、「中学修身」五拾部の奥附を文学社に付与す、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、講義に大学に赴く、○幽室文稿を読む、○夜、堀田相爾来訪す、○幽室文稿を読む、二日、午前、岩田僊太郎及び岡田正美より来状、○森良三郎、浦谷熊吉来談す、○幽室文稿を読む、○大学本部に電話を掛く、○嘉納治五郎より電話かゝる、○「初等勅語」二百部の奥附を晩成所に送る、○午后、大島正徳来訪す、○幽室文稿及び孔子研究を読む、○夜、孔子研究を読む、○此日、International Moral Education Congress より書類来る、○秦政治郎、東亜協会々員となる、

三日、午前、小谷重より「中学修身」(卷二)と書状とを送来る、○湊を三井銀行に遣はす、○「東亜の光」(三の十)成る、富山房より拾部を送来る、○午后、史料編纂掛より配所残筆を返来る、○「中学修身」(卷二)を金港堂の使者に付与す、○教科書第三部に文部省に赴く、○夜、文科大学より来状、○書状を藤井健

治郎に送る、○此日、野田義夫、神戸より欧洲に向つて出発す、

四日、午前、三島復、青木昌吉、堀尾太郎、魚住影雄、山鹿誠之助、浦谷熊吉、外崎覚、中俣正吉、市村瓊次郎、来訪す、○小谷重より来状、○午后、フェ子ロサの為に大学山上御殿に赴く、河瀬秀治、小林又七、岡倉寛三、金子堅太郎、高嶺秀夫、池内某等と会見す、○井上成美、藤田季莊来訪す、○柿山清より林檎壱箱を送る、○藤井健次郎より来状、○夜、弔詞を土肥慶蔵及び高島平三郎に送る、○書状と小包とを田中禮に送る、○書状を小松原文相及び柿山清に送る、○丸善より来状、

五日、午前、小谷重より来状、○講義に大学に赴く、○深作安文より鮭壱尾及び書状を送来る、○湊を大学に遣はす、○文科大学より「神道哲学之発達」を送来る、○午后、「宗教と道德に對する新感」教育界に出づ、○「東亜の光」十月号を山田安栄、村上元子、青木昌吉、山本安之助、重田定一、岡田正美に送る、○渡部董之介より使者来る、○藤井健次郎来訪す、○文部省より小学教科書類を送来る、○「孔子研究」を読む、○夜、日本学会に大学に赴く、○帝国学士院より来状、

六日、午前、「中学修身」一百部の奥附を文学社に付与す、○電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○「孔子研究」を読む、○土屋正直より来状、○午后、小杉熙、五十嵐博厚より来状、○高瀬武次郎より新聞を送来る、○「孔子伝」を齋藤精輔に送る、○吉田雪子来談す、○梶山彬来訪す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、書状を岡田正美に送る、○教科書会

より来状、○三省堂より写真を送来る、

七日、午前、講義に大学に赴く、○横山達三より来状、○本多辰次郎、佐藤小吉、須藤新吉、東亜協会々員となる、○午后、浦谷熊吉、目黒和三郎、村井良八来訪す、○「中学修身」(卷二)を金港堂の使者に付与す、○夜、清水金右衛門より来状、○神職大会の祝辞を作る、○大学本部より来状、

八日、午前、丸善より哲学字彙の校正を送来る、○波多野精一より「基督教の起源」を送来る、○井上成美来談す、○Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○講義に大学に赴く、○和田万吉より来状、○姉崎正治、西洋より帰りに京都に到着、乃ち電報を送来る、○小林一郎来訪す、○夜、尾上八郎来訪す、○「神職大会の祝辞」を遠藤隆吉に送る、○幽室文稿を読む、○文部省より来状、

九日、午前、嘉納治五郎より来状、○幽室文稿を読む、○弘道館より「福岡県と実業」及び「動物学綱要」を寄送し来る、○弘文館より「国史大辞典」を送来る、○午后、教科書会に文部省に赴く、○夜、幽室文稿を読む、

十日、午前、幽室文稿を読む、○亀井忠一、齋藤精輔来訪す、○菓子箱を平川泉吉に、鶏卵箱を浦谷熊吉に送る、○二葉会に赴き、野辺地某と会談す、○午后、幽室文稿を読む、○歌道奨励会より来状、○夜、幽室文稿を読む、○吉田夫婦来談す、

十一日、午前、大田黒作次郎、三島復、木山熊次郎、藤井健治郎、井原豊作、三刀谷扶綱、梶山彬、補永茂助、田中禮外壱名来訪す、

○島田義純来訪す、有^レ故不^レ遇、○幽室文稿を読む、○「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、○哲学科の学生、写真を携来る、○山鹿旗之進及び辻新次より来状、○午后、弔詞を松平忠威に送る、○吉岡益藏、川浪道三来訪す、○幽室文稿を読む、○宮崎光太郎より葡萄壺籠を送来る、○夜、幽室文稿を読む、○勉強、十二日、午前、講義に大学に赴く、○湊を山鹿旗之進に遣はす、○午后、続藏経二套を受取る、○浦谷熊吉、森良三郎来談す、○青木昌吉、東亜協会々員となる、○松陰先生年譜略及び幽室文稿を読む、○夜、検定委員会より来状、○「中学修身」を訂正す、十三日、午前、Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○「中学修身」を訂正す、○午后、「学生宝鑑」六部の奥附を大倉書店に、「中学修身」七拾部の奥附を文学社に付与す、○暁星学校に赴き、大運動競技を観る、ピョフトと会見す、○石原即聞より来状、○「中学修身」を訂正す、○毛呂正春来訪す、○夜、「中学修身」を訂正す、○川浪道三より書状と筆記とを送来る、○小谷重より来状、○此日、「戊申詔書」煥^レ発せらる、十四日、午前、学習院に赴く、○帝国教育会より来状、○午后、大学の教授会に赴く、○夜、「中学修身」を訂正す、○帝国教育会及び教科書会より来状、○「今後の德育方針」教育学術界に出づ、十五日、午前、Wundt, Einleitung in die Philosophie, Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○井上成美、森良三郎来談す、○午后、引続きPaulsenを読む、○講義に大学に赴く、○夜、幽室文稿を読む、

十六日、午前、幽室文稿を読む、○浦谷熊吉、吉田雪子来談す、○毛利五郎より来状、○午后、教科書会に文部省に赴く、○「中学修身」(卷三)を金港堂の使者に付与す、○大類伸、東亜協会々員となる、○夜、堀田相爾来訪す、○幽室文稿を読む、十七日、午前、平川泉吉来訪す、○幽室文稿及び講孟劄記を読む、○午后、松陰先生五十年紀年大会に高商講堂に赴く、小松原文相、湯原元一、江木千之、徳富猪一郎、松本源太郎、大槻文彦、南摩綱紀、三島毅等と会見す、○不在中姉崎正治来訪す、○山本安之助及び教科書会より来状、○末松謙澄より「唱和集」を送来る、○山本安之助、東亜協会々員となる、○夜、堀田相爾来談す、○此日、有賀長雄よりフェ子ロサの事に関する報道来る、十八日、午前、「陽明哲学」壱百部「古学哲学」五拾部「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付す、○加納豊、原祐道、遠藤隆吉来訪す、○佐々木信綱より歌学論叢」を送来る、○午后、文部省美術展覧会上野に赴く、○夜、フェ子ロサの事に関する談話筆記を博文館に送る、○岡野義三郎より絵端書を送来る、○根本通明の論語講義を読む、○此日、元帥侯爵野津道貫逝く、享年六十八、○米国艦隊来る、十九日、午前、講義に大学に赴く、○不在中磯辺武者五郎来訪す、○西田政造より栗壺籠を送来る、○相川勝治に大学に逢ふ、○午后、浦谷熊吉、上野陽一、清野昇三郎来訪す、○縫子、姉崎及び吉田宅に赴く、○篠川賢齋より来状、○夜、暁靄集の校正を印刷会社に送る、○「中学修身」を訂正す、

二十日、午前、「中学修身」を訂正す、○有楽社及び高師校友会より来状、○森良三郎来談す、○同文館より御礼来る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○端書を西田政造及び大田黒作次郎に送る、○午后、教科書部会に文部省に赴く、○姉崎家族来訪す、○丙午出版社より「釈迦牟尼伝」「梵語入門」及び「悉曇阿弥陀經」を、徳富猪一郎より「吉田松陰」を送来る、○夜、磯辺武者五郎、中井宗太郎来訪す、○文明堂より書状及び「大聖釈尊」を送来る、○「中学修身」を訂正す、

廿一日、午前、学習院に赴く、女学部に於て生徒と食事をなす、○九鬼隆一より「日本美術論」を送来る、○午后、文科大学の教授会に赴く、○史料編纂掛より「史料絵はがき」拾枚、帝国教育会より「松陰唱歌」三拾五部を送来る、○夜、「中学修身」を訂正す、○此日、帝国学士院及び検定委員会より来状、○「中学修身」五拾部の奥附を文学社に付与す、

廿二日、午前、Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○平田喜一、東亜協会々員となる、○浦谷熊吉来訪す、○午后、講義に大学に赴く、○同文館より御礼を送来る、○常盤大定来訪す、○古事類苑（産業部一）来る、○夜、堀田相爾来訪す、○論語講義を読む、

廿三日、午前、論語講義を読む、○「中学修身」（巻四）を金港堂の使者に付与す、○湊を大学に遣はす、○史記の「仲尼弟子伝」を読む、○浦谷熊吉、森良三郎来る、○午后、論語講義及び「仲尼弟子伝」を読む、○辻新次、戊申会、吉田静致、日本士風会及び

教科用図書調査委員会より来状、○夜、兎輩を拉して銀座に赴く、○「仲尼弟子伝」を読む、○此日、巢鴨の大工来る、○縫子、成美宅に赴く、○同文館より「教育大辞書」第六冊を送来る、○廿四日、午前、帝国大学より来状、○「仲尼弟子伝」及び「尚書大伝」並に「孔子研究」を読む、○湊を大学に遣はす、○荻原雲来より「梵語入門」を送来る、○午后、「孔子研究」を読む、○波多野精一、荻原雲来より来状、○夜、「孔子研究」を読む、○研究、○宣光、吉田宅に赴く、

廿五日、午前、三島復、田中義能、加藤玄智、堀内尚同、伊藤房太郎、前田洋三、浦谷熊吉、小関貞次来訪す、○午后、哲学会に大学に赴き、「儒教の長所短所」を演説す、○二宮宗誠、平山政適、東亜協会々員となる、○夜、研究、

廿六日、午前、講義に大学に赴く、○八杉直と大学に会見す、○石井朝太郎より来状、○田中忠興、論文を携来る、○午后、木山熊次郎、筆記に来る、○文明堂より松茸壺籠を送来る、○岡倉覚三より来状、○松陰唱歌を杉山富槌、岩田博蔵及び河口隆太郎に送る、○夜、書状を吉田静致に送る、○孔子会より「講演」と「會報」を送来る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○此日、子爵榎本武揚逝く、享年七十三、

廿七日、午前、森良三郎、岡本金太郎来談す、○書状を辻新次に送る、○吉田静致より来状、○丙午出版社より「人物の修養」を送来る、○午后、教科書部会に文部省に赴く、○毛利五郎より書状及び「松陰先生遺著」を送来る、○夜、書状を磯部武者五郎に、

端書を徳富猪一郎、横山達三、松村正一、清水金右衛門に送る、
○此日、松陰の真筆二通を史料編纂掛に返す、

廿八日、午前、学習院に赴く、○不在中文部省の使者来る、○土谷忠治来訪す、○宮内省より天長節の招待状来る、○午后、検定試験の問題を文部省の使者に付与す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○大倉書店より特別製の「学生宝鑑」六部を送来る、○浦谷熊吉来訪す、○夜、引続きPaulsenを読む、○

此日、電話にて嘉納治五郎、富尾木知佳等と談話す、

廿九日、午前、国語調査会及び磯部武者五郎より来状、○ふみ、浦谷熊吉の書状を携来る、○齋藤庸一郎及び大橋某来訪す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、講義に大学に赴く、○小村外相より招待状来る、○引続きPaulsenを読む、○夜、藤田季莊来訪す、○岡倉寛三及び長谷川福平より来状、
○「東亜の光」口絵を活版所に送る、

三十日、午前、「松陰唱歌」を梶山延太郎、信国顕治、都野知若に送る、○書状を円藤鎮に送る、○森良三郎来訪す、○丁酉倫理会の速記を訂正す、○秋山悟庵より絵端書を送来る、○午后、神道同志会に国学院に赴く、○速記を訂正す、○小谷重より来状、○夜、丁酉倫理会に赴く、○速記を訂正す、

三十一日、午前、速記を訂正す、○湊を東海銀行に遣はす、○午后、橋本左内五十年祭に国学院に赴く、石黒忠憲、三島毅、内田周平、芳野世経、橋本綱常、畠山健等と会見す、○速記を訂正す、○夜、「自然と道德」を訂正し、之を中島徳蔵に送届く、○国語調査会

より来状、

十一月

一日、午前、得能文、岩橋遵成、大森万次郎、新田芳、大田黒作次郎、浦谷熊吉、堀田相爾及び大橋某来訪す、○土谷忠治、島田義純来訪す、有故不遇、○午后、師範同窓会に東京府師範学校に赴き、「小学教師座右銘」に就き、演説をなす、風当朔朗、豊田八十代等と会見す、○夜、「孔子研究」を読む、

二日、午前、講義に大学に赴く、○齋藤大蔵より来状、○午后、坂本嘉治馬、浦谷熊吉、藤田季莊来訪す、○市街に運動に出づ、途上笹川種郎に逢ふ、○夜、「中学修身」を訂正す、

三日、午前、天長節の宴会に宮中に赴く、新渡戸稲造、和田垣謙三、三宅秀、真野文二、戸水寛人、中隈敬蔵等と会見す、○午后、「中学修身」を訂正す、○神道同志会より来状、○夜、「中学修身」を訂正す、○岩田博蔵より来状、○此日、タフト当選、

四日、午前、学習院に赴く、○富山房より「プラトーン全集」壹冊を送来る、○山内佐太郎より「本校施設要領」を送来る、○午后、野田義夫より絵端書来る、○坂井金次、福本誠の紹介状を携へて来る、○Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○「東亜の光」(三の十一)成る、○夜、引続きPaulsenを読む、○此日、「陽明学」に就いて、「陽明学」に出づ、

五日、午前、Paulsen, Einleitung in die Philosophieを読む、○午后、講義に大学に赴く、○不在中三刀谷扶綱、辻新次の礼状と御礼とを携来る、○小谷重来訪す、○夜、三刀谷扶綱来訪す、○帝

国学士院より来状、○此日、川田鏡弥より絵端書を送来る、

六日、午前、「東亜の光」(三の十一)を齋藤清太郎、金澤来蔵、八杉貞利、村川堅固、村上元子に送る、○浦谷熊吉、会田梅吉来訪す、○泉道雄、東亜協会々員となる、○縫子、吉田宅に赴く、○

警醒社より「報徳之真髓」を送来る、○岩田博蔵より「夏の薫」を送来る、○午后、吉田宅より山形土産として桜桃酒二瓶及び真綿を送来る、○土屋敦宣、松田熊治郎来訪す、○Leo Tolstoy, What is Art? を読む、○湊を中西屋に遣はす、○夜、引続^キLeo Tolstoy を読む、○若木貞一、英国大使館、審美画会、教科用図書調査委員会より来状、○此日、書状を円藤鎮に送る、

七日、午前、勉強、○幸田成友来訪す、○家屋税及び地租合計拾円○五拾参銭五厘を区役所に納む、○午后、東京音楽学校に赴き、「芸術と道徳」の講演をなす、○不在中堀田相爾来訪す、○文部の書記小野正尊より来状、○菅公頌徳会々報の祝文を作る、○児女等靖国神社の祭典に赴く、○夜、書状を岩田博蔵及び松田熊治郎に送る、○「孔子研究」を読む、○辻新次より来状、

八日、午前、浦谷熊吉、水島耕一郎来訪す、○「孔子研究」を読む、○午后、原平吉、菓子皿を携来る、○「孔子研究」を読む、○岡倉覚三より来状、○佐藤々太より「宗教問題之解決」を送来る、○姉崎正治、上田敏、堀謙徳三氏歓迎会に大学山上御殿に赴く、○森林太郎、道祖尾^{サイノ}士郎、吉田豊吉等と会见す、○不在中同文館より「状刺」を送来る、○夜、書状を英国大使館及び浦谷熊吉に送る、○研究、

九日、午前、講義に大学に赴く、○岡倉覚三より電報来る、○電報を岡倉覚三に送る、○吉田雪子来る、○午后、吉田熊次、瀧田哲太郎来訪す、○「中学修身」を訂正す、○夜、帝国教育会に赴く、○此日、陸海軍大演習の為に奈良兵庫両県へ行幸せらる。

十日、午前、得能文、齋藤精輔より来状、○有賀長雄、浦谷熊吉来訪す、○「中学修身」を訂正す、○「修身科」の検定試験を文部省に行ふ、○午后、乙竹岩造より「実験教育学」を送来る、○小谷重来訪す、○「朱子学派之哲学」を修正す、○文部省より検定試験の答案来る、○夜、「朱子哲学」を訂正す、

十一日、午前、小澤安左衛門、新田芳、血脇守之助より来状、○講義に学習院女学部に赴く、○湊を有賀長雄宅に遣はす、○午后、「孔子の人格に就いて」を訂正す、○冨塚恂及び教科書会より来状、○書状を有賀長雄に送る、○宮内省より観菊御宴の招待状来る、○徳川頼倫侯来訪す、○森良三郎来る、○巢鴨の地租五拾壹銭を納む、○夜、書状を浦谷熊吉に送る、○検定試験の答案を読む、○「孔子の人格に就いて」を訂正し了る、

十二日、午前、笹川種郎、中村熊男、森良三郎、井上円了来訪す、○書状を浦谷熊吉及び吉田静致に送る、○研究、○磯江潤より来状、○午后、講義に大学に赴く、尋いで帝国学士院に赴く、○不在中吉田豊吉、福井嘉納来訪す、○夜、Fullerton, Introduction to Philosophy を送来る、○白石正邦、吉田静致より来状、○「德育振興策所感」内外教育評論に出づ、○原亮三郎、小谷重、東亜協会々員となる、

十三日、午前、征戦偉績を史料編纂掛に、源平盛衰記を図書館に返納す、○午后、国語調査会及び教科書会に赴く、○勅語教本三部の奥附を岩田僊太郎に付与す、○Dr. L. E. Landone, International Committee of the New Educational Movementより来状、○夜、Maudsley, Physiology and Pathology of the Mindを読む、○此日、寺尾壽の場中在職二十五年の通知書来る、○文科大学より来状、○華頂宮大妃殿下薨去、

十四日、午前、研究、○午后、東亜協会第四回講演大会を東京高等商業学校講堂に開く、聴衆約二千人、○夜、学士会事務所に会食す、来会者は評議員編輯委員等合計二拾人、○高田定太郎より来状、○此日、大槻快尊、東亜協会々員となる、清国皇帝載活崩す、醇親の子伝儀皇太子となる、〔頁下部に関連記事(清国系図)切抜貼付〕

十五日、午前、武内紫明、高島円、手塚光貴、藤井巖、清水谷善照、瀧田哲太郎、龍谿觀興来訪す、○午后、フェノロサ会に山上御殿に赴く、○血脇守之助の齒科医学専門学校に赴き「学生座右銘」を演述す、○不在中風当朔朗、伊藤房太郎御礼の為に来訪す、○藤井巖再び来訪す、○夜、無事、吉田豊吉より来状、

十六日、午前、講義に大学に赴く、○龍谿觀興及び三省堂より来状、○西太后崩す、〔頁上部に「西太后、名は慈禧、」と書込み〕○午后、木村泰賢、井上成美、吉田雪子来談す、○夜、新聞雑誌等を読む、○此日、吉田豊吉より来状、

十七日、午前、有賀長雄の使者来る、○湊を文科大学に遣はし、宮

内省の印鑑を受取る、○齋藤精輔来訪す、○鈴木三重吉より来状、○午后、鈴木寒之助、樋口秀雄来訪す、○Sven Hedinの講演を大学に聴く、○検定試験の答案を読む、○「女子修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、○不在中小谷重来訪す、○夜、独逸学協会学校長長井長義より来状、○検定試験の答案を読む、○此日、「言文一致論」文章世界に出づ、

十八日、午前、飯田御世吉郎来訪す、長野久治より来状、○講義に学習院女学部へ赴く、○金港堂より原稿料を送来る、○小谷重来訪す、○午后、検定試験の答案を読了す、○小林秀正、有賀長雄より来状、○大島正徳来訪す、○夜、志水次郎、林檎一籠を携へて来訪す、○書状を有賀長雄に送る、○千家尊福より来状、○此日、飯田御世吉郎、東亜協会々員となる、○「中等教育に於ける德育の方針」中等教育に出づ、

十九日、午前、検定試験に文部省に赴く、○午后、五時頃帰宅、○不在中姉崎正治、森友蔵来訪す、○夜、教科書会より来状、○堀田相爾来訪す、○此日、葛西又次郎、東亜協会々員となる、

二十日、午前、検定試験に文部省に赴く、合格者総計式拾八名、○午后、三時半頃帰宅、○教科用図書調査委員会より来状、○書状を大島健一に送る、○夜、帝国学士院より来状、○藤田季莊来訪す、○書状を井上健児に送る、○Leo Tolstoy, What is Art? を読む、○此日、不在中浦谷熊吉来訪す、○天皇陛下兵庫県より還幸せらる、

廿一日、午前、Leo Tolstoy, What is Art? 及び Höfding, Psychologie

を読む、○浦谷熊吉来談す、○文科大学より来状、○午后、東京音楽学校に赴き、「芸術と感情」を講述す、○浦谷熊吉再び来談す、○齋藤清太郎、小澤錦十郎、田成某、東亜協会々員となる、○奥村鶴吉、御礼の為に來る、○夜、心理学会に赴く、○松村忠雅来訪す、○此日、「学生宝鑑」五百部の奥附を大倉書店に付与す、○小谷重より「中学修身訂正趣意書」を送来る、

廿二日、午前、吉田豊吉、龍谿觀興、坂井金次、松村忠雅来訪す、○午后、三省堂の「日本百科大辞典」の披露会に大隈邸に赴く、大隈重信、松平直亮等と会见す、○不在中市川代治来訪す、○夜、飯田堯一、近藤壽治来訪す、

廿三日、午前、飯田堯一、浦谷熊吉、坂巻登介、齋藤精輔来訪す、○「中学修身訂正趣意書」を訂正す、○午后、松田熊治郎来訪す、○清水谷善照をして談話を筆記せしむ、○自筆の祝文を松田熊治郎に送る、○夜、諸雑誌を読む、

廿四日、午前、井原豊作、東亜協会々員となる、○「中学修身訂正趣意書」を金港堂の使者に付与す、○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、Sven Hedin 招待会に植物園に赴く、花房義質、牧野伸顕、小村壽太郎等と会见す、○堀田相爾、浦谷熊吉、山路重永、西澤之助来訪す、○「再訂中学修身」二千四百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、岩田博藏より絵端書を送来る、

○Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、
廿五日、午前、山路重永、松平忠威、及び教科書会より来状、○学習院に赴く、○午后、「平尾山荘の建碑を祝す」の文を作る、○

夜 Paulsen, Einleitung in die Philosophie を読む、○建碑の祝文を書す、○此日、稲垣満次郎逝く、

廿六日、午前、南葵文庫及び実業之日本社より来状、○齋藤木より書状及び蜜柑の鉢植を送来る、○建碑の祝文を山路重永に、談話筆記を中央公論の使者に付与す、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后 Küpe, Einleitung in die Philosophie を読む、○講義に大学に赴く、○有賀長雄より書状來る、○夜、九鬼隆一の招燕に芝公園に赴く、○十一時帰宅、

廿七日、午前、書状を齋藤木、毛利五郎、島田三郎、堀正一に、端書を高島平三郎に送る、○所得税式拾八円拾五銭、量水器使用料六円八拾七銭を区役所に納む、○浦谷熊吉、辻本卯藏来訪す、○有賀長雄の使者來る、○午后、堀田相爾、大島正徳来訪す、○哲学会の速記を訂正す、○国語調査会に赴く、○端書を常盤大定及び浦谷熊吉に送る、○縫子、遠藤隆吉宅に赴く、○夜、教科書会より来状、○哲学会の速記を訂正す、

廿八日、午前、速記を訂正し、之を大島正徳に送る、○午后、南葵文庫に赴き、「儒教と今後の道德」を演述す、徳川頼倫、徳川達孝、松平忠威、富井政章と会见す、○夜、十時頃帰宅、○此日、文明協会より「英国産業革新論」を送来る、○天理教独立す、「頁下部に關連記事（中山みきについて）切抜貼付」

廿九日、午前、田中義能、藤井巖、植村道次郎、補永茂助、浦谷熊吉、大田黒作次郎、渡邊良来訪す、○午后、フェノロサの法会 (memorial service) に上野寛永に赴き、尋いで追悼会に精養軒

に赴く、土方久元、阪谷芳郎、朝比奈知泉、金子堅太郎、高田早苗、河瀬秀治等と会见す、○夜、九時頃帰宅、○此日、立柄教俊より「ぜんまひ」を送来る、○教科書会より来状、

三十日、午前、講義に大学に赴く、○午后、徳川頼倫、齋藤木来訪す、○大食書店より印税を送来る、○夜、金港堂より印税を送来る、○International Moral Education Congress の G. Spiller より来状、○勝田吉次郎、及び教科会より来状、○新聞雜誌類を読む、○此月の到来品は如左、

菓子壺箱 飯田御世吉郎 桜酒二本

ぜんまひ 立柄教俊 及真綿 山形

砂糖漬 岩田博蔵 菓子皿 原平吉

菓子盆(錫) 手塚光貴 林檎 志水代次郎

蜜柑盆栽 齋藤木 酒式円 齋藤省三

干魚

十二月

一日、午前、菊池謙二郎より書状及び演説筆記を送来る、○校正をなす、○湊を日本銀行に遣はす、○午后、吉田豊吉及び齋藤木より来状、○浦谷熊吉、栗原陽太郎来訪す、○校正を日清印刷会社に送る、○夜、端書を松浦厚、姉崎正治に、書状を八木光貫、尾上八郎に送る、○此日、井上円了東亜協会賛助員となる、

二日、午前、学習院に赴く、○東洋大学より来状、○午后、堀田相爾、内山正如、藤田季莊来訪す、○「日米外交文書」発表せらる、○夜、伯爵松浦厚郎に至る、野村靖、乃木希典、柳谷謙太郎等と会

見す、○帰途電車中近角常観、堀謙徳、井上友一などと会见す、○帝国教育会より来状、

三日、午前、研究、○午后、講義に大学に赴く、○「東亜の光」(三の十二)成る、富山房より拾部を送来る、○夜、伝通院失火、浦谷熊吉、吉田熊次、森良三郎等凡そ八拾余名来訪す、○帝国教育会長辻新次より来状、○仏教図書出版協会より「日蓮主義」を送来る、

四日、午前、齋藤儀八、清水谷善照、吉田静致より来状、○亀井忠一、木山熊次郎、浅沼純一郎、来訪す、○近火見舞の来訪者、約三十名、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中遠藤隆吉、姉崎老母、上田江つ子等来訪す、○夜、興学会に大学に赴く、○井上通泰、内山正如、亀谷聖馨、齋藤木等より来状、○来訪者数十名、○内山正如より「袂中論語」と「孔子言行録」とを送来る、○近火見舞礼状端書数十枚を発送す、

五日、午前、礼状端書数十枚を発送す、○校正をなす、○午后、校正をなす、○宮崎虎之助来訪す、○夜、東亜協会研究会に赴く、○夜、友枝高彦、帝国学士院及び教科書会より来状、○藤崎禅智より来状、

六日、午前、三省堂より「日本百科大辞典」第一冊を送来る、○得能文、福井嘉納、植村道次郎、大島正徳、堀謙徳、枝元長夫、堀尾太郎、石井隆法、日本医学校生徒二名及び淀野耀淳来訪す、○丸善洋書店及び小林照朗より来状、○午后、東洋大学にパウゼル記念会に赴き、所感を述ぶ、○不在中安田旭軒来訪す、○亀井

忠一より来状、○金港堂より「中学修身」を送来る、○夜、日本学会に大学山上御殿に赴く、○不在中吉田雪子来る、

七日、午前、講義に大学に赴く、○岡野義三郎より来状、○午后、松浦厚、志田義秀、駒井徳太郎より来状、○浦谷熊吉来訪す、○夜、平田東助の招燕に内務大臣の官舎に赴く、○不在中藤季^{フジキ}来訪す、○志田義秀より「植物美観」を送来る、

八日、午前、杉原九郎、阿部維巖、江崎誠、黒龍会本部及び帝国教育会より来状、○火事見舞御礼の端書拾有余枚を発送す、今日に至る迄發送端書一百枚以上、○哲学雑誌の校正及び朱子哲学の校正を活版所に送る、○午后、書状を吉田豊吉、佐々木信綱に送る、○高島平三郎より来状、○丸善の森治某及び辻本卯蔵来談す、○荒浪市平より速記を送来る、○夜、田中伊藤次より絵端書を送来る、○安田旭軒をして速記せしむ、

九日、午前、学習院に赴き、武士道叢書（下巻）一冊、武士訓一冊、柳子新論一冊、古道大意二冊を乃木院長に貸付す、○井上成美来訪す、○赤津正親、児玉実徳より来状、○午后、教授会に大学に赴く、○校正を日清印刷会社に送る、○夜、三好愛吉より来状、○校正をなす、

十日、午前、Wundt, Einleitung in die Philosophieを読む、○磯江潤より反物二箇を送来る、○相馬種丸より来状、○浦谷熊吉来談す、○縫子、渡辺良齋宅に赴く、○午后、横山時彦、伊万里玄祐来訪す、有故不遇、○文科大学より樋口秀雄の論文と史料肖像とを送来る、○育成会より「日本倫理彙編」を送来る、○講義に

大学に赴く、○夜、桑田芳蔵、浦谷熊吉来訪す、○安田旭軒の速記を訂正す、○此日、経師屋来る、

十一日、午前、浦谷熊吉来談す、○校正をなす、○国書刊行会より書籍二冊を送来る、○高山久平より来状、○縫子、渡辺良齋宅に赴く、○午后、近火見舞の礼状端書六枚を発送す、○報徳会評議員を承諾す、○「戊申詔書と国民教育」を金港堂安田旭軒に送る、○丸善の森治某及び堀田相爾来訪す、○3^{me} Congress international d'education familiale より来状、○輔仁会雑誌の校正を三光社に送る、○夜、「道徳と禁戒」を清水谷善照に送る、○此日、経師屋来る、

十二日、午前、佐伯俊二、落合直幸、佐藤求太、堀正一より来状、○午后、帝国教育会創立滿二十五年記念会に赴き、祝辞を述べ、○丁酉倫理会に赴き、「戊申ノ詔書」に就いて意見を述べ、○夜、帝国学士院に赴く、○教科書会及び建部遜吾より来状、○古事類苑（産業部二）来る、○此日、経師屋来る、○陸軍大将岡澤精逝く、十三日、午前、松浦一、清水駿太郎、補永茂助、本庄精次、藍公武（志先）、枝元長夫、植村道次郎、加藤玄智、梶山彬来訪す、○午后、藤田季莊来訪す、○東亜協会の速記を訂正す、○夜、勉強、○此日、社会政策学会より来状、

十四日、午前、講義に大学に赴く、○岩槻道隆、式部職、及び仏都新報社より来状、○有賀長雄より帝国学士院当の書状を送来る、○野田義夫、伯林より絵端書を送来る、○午后、浦谷熊吉、山本良吉来訪す、○書状を帝国学士院に送る、○上野陽一、哲学辞書

の為に來談す、○縫子、春枝を拉して井上成美宅に赴く、○夜、枝元長夫より來狀、直に返書を送る、

十五日、午前、笹川種郎來訪す、○山本良吉來訪す、有故不遇、○「戊申詔書に就いて」起草す、○午后、浦谷熊吉、井上成美來談す、○夜、神田の多賀羅亭に赴き、東洋哲学の語を極む、○速記を訂正す、○教科書会より來狀、

十六日、午前、湊を浦谷熊吉宅に遣はす、○学習院女学部へ赴く、○午后、文科大学教授会へ赴く、○縫子渡辺良齋宅へ赴く、○井上成美、吉田雪子來談す、○夜、八木光貫及び文科大学より來狀、○湊を吉田宅に遣はす、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○此頃、「儒教の長所短所」哲学雜誌に出づ、

十七日、午前、湊を新橋停車場に遣はす、○笹川種川來訪す、○有賀長雄より使者來る、○Wundt, Einleitung in die Philosophie を読む、○午后、清水駿太郎、姉崎益子來訪す、○講義に大学へ赴く、○夜、詔書略解の草案を読む、○此日、陸軍大将井上光逝く、享年五十八歳、○「歳暮の追想」毎日電報に出づ、

十八日、午前、佐伯俊二、吉田豊吉より來狀、○有賀長雄、梶山彬、堀尾太郎來訪す、○梶山堀尾二氏をして各々筆記せしむ、○午后、前川又三郎來訪し、砂糖壺箱を贈物とす、○中島徳藏の使者、速記を携來る、○哲学会の速記を訂正す、○湊を学習院に遣はし、手当を受取らしむ、○夜、女鑑編輯所より書狀來る、乃ち答書を送る、○安田勝藏、堀尾太郎、辻新次、枝元長夫より來狀、○丁西倫理会の速記を訂正す、

十九日、午前、丁西倫理会の速記を訂正す、○井上成美、富田順吉、植村道次郎來訪す、○午后、博文館より歳暮(品料)を送來る、

○湊をして丁西倫理の原稿を中島徳藏宅に届けしむ、○筆記の訂正を開発社に、校正を金港堂に送る、○教科書会より來狀、○不在中浦谷熊吉來訪す、○運動の序に池袋村に赴く、○夜、哲学会の速記を訂正す、○此日、杉山富樫より写真と絵端書とを送來る、

二十日、午前、葉山万次郎、大島正徳、補永茂助、内藤俊一來訪す、○日本医学校へ赴く、○不在中齋藤榮來訪す、○内藤俊一、水産講習所交友会委員として缶詰拾壺筒を携來る、○午后、東洋大学生飯田堯一、田中敬御礼の為に來る、○浦谷熊吉來談す、○船越やすより「スルメ」壺包を送來る、○高子風邪に罹る、渡辺真來診す、○哲学会の速記を訂正す、○夜、速記の訂正をなす、○校正を日清印刷会社へ送る、

廿一日、午前、講義に大学へ赴く、○不在中小野秀雄來訪す、○富田順吉來談す、○枝元長夫より來狀、○井上成美より鳥三羽、富田順吉より儀助煮二個及び博多人形壺筒を送來る、○午后、小野秀雄來訪す、○速記を訂正す、○南葵文庫より奈良漬と硯箱と送來る、○夜、速記の訂正をなす、○宮内省、文部省及び濱尾大学総長より來狀、○小林一郎及び教科書会より端書來る、

廿二日、午前、速記の訂正をなす、○帝国教育会より來狀、○午后、「日本倫理彙編」をフローレンツに贈る、○島田則正來訪す、○哲学字彙の会に大学へ赴く、○黒田家より書狀と鴨二羽とを送來る、○統藏経二套を受取る、○夜、高山樗牛の七周忌に開花楼に

赴く、○速記を訂正す、○枝元長夫、上野陽一より来状、

廿三日、午前、原稿の訂正を大島正徳に送る、○湊を大学に遣はす、

○宮内省に赴き、賜物を受く、三宅秀、弘田長、宮地殿夫等と会見す、○清水満之助より鶏卵箱を送来る、○午后、丹羽瀧男来る、乃ち談を速記せしむ、○深作安文来訪し、状紙壺箱を贈物とす、

○富山県教育会より書状及び「教育大会記録」を送来る、○日本文学会より来状、○湊を文部省に遣はす、○浅倉屋より菓子壺箱を送来る、○夜、伊澤千世子来訪す、鴨及び襟を贈る、○校正を日清印刷会社に送る、○伊澤千世子、東亜協会々員となる、○教員検定委員会より来状、

廿四日、午前、枝元長夫、来訪す、○森良三郎より蜜柑壺箱、文部大臣より書状及び白斜子壺匹来る、○清水友次郎より書状及び宗教学綱要を送来る、○午后、アルベルト・カーンの歓迎会に植物園に赴く、仏国大使、小松原文相、等と会見す、○哲学字彙の会に大学に赴く、○富山房より書状及びシートを送来る、○不在中浦谷熊吉来る、○弘道館より「少年鑑」及び「晝靄集」を送来る、○藤本政介来訪す、○「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○夜、「戊申詔書略解〔一〕」を訂正す、

廿五日、午前、「勅語教本」五百部の奥附を晩成所に付与す、○岩田僊太郎より「真綿」を送来る、○高島円より来状、○書状を富山房に送る、○古川黄一来訪す、○「戊申詔書略解」を修正す、○湊を日本銀行に遣はす、○午后、姉崎宅より鯉尾尾、同文館より文房具を送来る、○小野秀雄、浦谷熊吉、堀田相爾来訪す、○「戊

申詔書略解」を修正す、○夜、帝国教育会に赴く、○帝国学士院より来状、○此日、宮内省より来状、○佐々木信綱より鴨を送来る、○帝国議會開会、

廿六日、太田黒作次郎、小林一郎、大島正徳、国民新聞社より来状、

○上野陽一、有賀長雄来談す、○磯辺弥一郎より乾葡萄を送来る、○湊を日本銀行に遣はす、○午后、堀田相爾、菅源次郎、占部□七、赤川寅太郎来訪す、○学習院女学部より使者来る、○鶏卵壺箱を姉崎宅に、鴨壺羽を浦谷熊吉に送る、○吉田宅より地球儀壺箱を送来る、○「マニユフハクチュラス」の使者来る、○夜、海老名弾正の歓迎会に上野精養軒に赴く、蔵原惟郭、金森通倫、留岡幸助、押川正義、小崎弘道、横井時雄、三並良等と会見す、○文科大学より来状、○此日、○大倉書店よりピール壺打を送来る、

廿七日、午前、鴨を元良勇次郎に送る、○補永茂助、瀧精一、浦谷熊吉、朝永三十郎来訪す、○弘道館より鶏卵箱を送来る、○午后、鶏卵箱を森良三郎に送る、○中村安之助、枝元長夫、松永武雄来訪す、○夜、枝元長夫及び速記者来る、乃ち速記者をして速記せしむ、

廿八日、午前、森良三郎来談す、○湊を青山に遣はし、鴨を齋藤基次郎に贈る、○村松より蜜柑箱を送来る、○文明協会より歳暮及び「欧米人の日本観」(中) 壺冊を送来る、○午后、石川栄司より朱塗盆、林平次郎よりピール半打を送来る、○深作安文来訪す、○郵便為換を齋藤儀八及び山内契順に送る、○毎日電報社より速

記を送来る、○中村久吉(号桐香)より来状、○夜、家族を拉して多賀羅亭に赴き、尋いで銀座に赴く、○六盟館よりハンケチ二打を送来る、

廿九日、午前、毎日電報の速記を訂正す、○伊藤六蔵より鶏卵箱を送来る、○午后、速記を毎日電報の使者に付与す、○広池千九郎来訪す、○神道同志会より鯉節、村田五郎より鯉節を送来る、○菓子を甘木と川端に送る、○速記の残部を毎日電報社に送る、○「東亜の光」(四の一)成る、○「道徳上の因果法」及び「戊申詔書に就いて」東亜の光に出づ、○「道徳と禁戒」修身に出づ、○磯部武者五郎より来状、○夜、暁星学校より来状、○「戊申詔書」と小学教師」を同文館に送る、○端書の中島徳蔵及び堀尾太郎に送る、

三十日、午前、湊を三井銀行に遣はす、○長谷川福平より来状、○浦谷熊吉、富尾木知佳、西田敬止来訪す、○餅搗をなす、○菓子壺箱を松浦一に送る、○富尾木知佳より鴨、高田某より菓子来る、○午后、笹川より玉子箱、元良より玉子箱、齋藤よりビール及び鶏を送来る、○三並良、広井辰太郎来訪す、○ビール壺打を小林一郎に、菓子二箱を佐々木信綱に、菓子盆を成美に送る、○縫子、樋口、姉崎及び吉田宅に赴く、○三並良、東亜協会々員となる、○夜、「教育勅語要義」を読む、○此日、成美堂及び杉本美之助より「漬物」を送来る、○伊国大震災、死傷廿万、メッシナ、レゾ最も甚し。

卅一日、午前、古川黄一、菊池広来訪す、○田中義能より菓物壺籠、

文学社より海苔を送来る、○野田義夫より来状、○菓子を齋藤儀八及び弥吉為三郎に、ビール半打を藤田季莊に送る、○午后、鯉節を坪正五郎に、ロジエ子を村松に送る、○湊を東海銀行に遣はす、○姉崎正治来談す、○夜、東明館に赴く、○此日、菊池広、東亜協会々員となる、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を瞥見するに、購入書籍総計四拾部(内洋書式部)○寄贈書類総計百八拾壺部(百九拾九冊)○七月以後の教科書検印総数は、女子一千三百十九、師範八百、倫理一百、中学九百六十、之を六月以前の分と合計すれば、中学壺万七千九百六十、女子壺万八千八百七十九、倫理四百、農業一千六百、商業一百、師範式千式百九十、合計四万千式百式拾九部(以上金港堂)○六月以後文学社の中学修身検印総数は七百式十、之を六月以前の分と合計すれば、壺万五千九百九十、○兩者を合計すれば、五万六千四百十九部、

年末到来品如左

ビール壺打及鶏	齋藤基	鯉二尾	姉崎
ロジエ子	磯辺弥一郎	地球丸	吉田
文房具	同文館	ビール壺打	大倉書店
鶏卵壺箱	三省堂	スルメ	船越やす
シート	富山房	鯉節三円	村田五郎
鴨	富尾木	鯉節三円	神道同志会
鴨	黒田家	鶏卵箱	笹川
鴨及雉子	成美	鴨及襟	伊澤
菓物壺籠	田中義能	海苔	文学社

漬物	杉本美之助	漬物	成美堂
ビール半打	林平次郎	ハンケチ二打	六盟館
状紙	深作	鶏卵箱	元良
蜜柑箱	村松	鶏卵箱	伊藤六蔵
蜜柑箱	森良三郎	朱塗盆	石川栄司
鶏卵箱	弘道館	鴨	佐々木信綱
菓子	浅倉	鶏卵箱	清水満之助

(むらかみ こずえ 東京大学史料室)
(たにもと むねお 東京大学史料室)